

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄					備考		
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者	ガッコウホウジンギンキョウガクエン 学校法人銀杏学園							
フリガナ大学の名称	クマモトホケンカガクダイガク 熊本保健科学大学 (Kumamoto Health Science University)							
大学本部の位置	熊本県熊本市北区和泉町亀の甲325番地							
大学の目的	熊本保健科学大学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、保健医療に関する学問の教育及び研究を行い、併せて豊かな教養と人格とを兼ね備え、国民の保健衛生並びに医療に寄与する人材を育成することを目的及び使命とする。（学則第1条）							
新設学部等の目的	急激な変化を示す社会構造の中で、理学療法士が果たすべき職域は広がり、健康・スポーツをキーワードに地域貢献できる人材やデータ分析等の研究力を有した人材の育成が急務であるため、スポーツリハビリテーションコースを設置し、入学定員を20名増員する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	保健科学部 Faculty of Health Science	年	人	年次 人	人		年 月 第 年次	熊本県熊本市北区和泉町亀の甲325番地
	医学検査学科 Department of Medical Technology	4	100	—	400	学士(保健学) Bachelor of Health Sciences	平成15年4月 第1年次	
	看護学科 Department of Nursing	4	100	—	400	学士(看護学) Bachelor of Science in Nursing	平成15年4月 第1年次	
	リハビリテーション学科 Department of Rehabilitation	4		—	560 (480)	学士(保健学) Bachelor of Health Sciences		
	理学療法学専攻 Division of Physical Therapy		60 (40)				令和4年4月 第1年次	
	生活機能療法学専攻 Division of Occupational Therapy		40				平成19年4月 第1年次	
	言語聴覚学専攻 Division of Speech-Language-Hearing Therapy		40				平成23年4月 第1年次	
計		340 (320)			1,360 (1,280)			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	—	講義	演習	実験・実習	計	—単位		
	—	—科目	—科目	—科目	—科目			

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新 設 分	保健科学部医学検査学科		13 人 (13)	8 人 (8)	7 人 (7)	3 人 (9)	31 人 (31)	0 人 (0)	90 人 (90)
	保健科学部看護学科		8 (8)	10 (10)	14 (14)	2 (2)	34 (34)	0 (0)	108 (108)
	保健科学部リハビリテーション学科 理学療法専攻		5 (5)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	66 (66)
	保健科学部リハビリテーション学科 生活機能療法専攻		4 (4)	2 (2)	5 (5)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	84 (84)
	保健科学部リハビリテーション学科 言語聴覚専攻		3 (3)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	88 (88)
	計		33 (33)	28 (28)	33 (33)	5 (5)	99 (99)	0 (0)	— (—)
	該当なし		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
			— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
	計		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
	合 計		33 (33)	28 (28)	33 (33)	5 (5)	99 (99)	0 (0)	— (—)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		51 人 (51)		9 人 (9)		60 人 (60)		
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)		2 (2)		5 (5)		
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計		54 (54)		11 (11)		65 (65)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	46,261 m ²	0 m ²	0 m ²		46,261 m ²			
	運 動 場 用 地	12,327 m ²	0 m ²	0 m ²		12,327 m ²			
	小 計	58,588 m ²	0 m ²	0 m ²		58,588 m ²			
	そ の 他	14,870 m ²	0 m ²	0 m ²		14,870 m ²			
合 計		73,458 m ²	0 m ²	0 m ²		73,458 m ²			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
		24,784 m ² (24,784 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)		24,784 m ² (24,784 m ²)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体		
	24 室	16 室	24 室	3 室 (補助職員 1 人)	2 室 (補助職員 1 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数				
		大学全体			101 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	大学全体	73,781 [11,045] (73,781 [11,045])	4,712 [377] (4,712 [377])	3,752 [233] (3,752 [233])	2,099 (2,099)	8,732 (8,547)	132 (121)		
	計	73,781 [11,045] (73,781 [11,045])	4,712 [377] (4,712 [377])	3,752 [233] (3,752 [233])	2,099 (2,099)	8,732 (8,547)	132 (121)		
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
	1,818 m ²		173		87,306				
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	2,490 m ²		テニスコート 2面						

経費の積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		28,000千円	28,000千円	28,000千円	28,000千円	—千円	—千円	
		図書購入費	25,000千円	25,000千円	25,000千円	25,000千円	25,000千円	—千円	—千円	
		設備購入費	398,000千円	147,000千円	147,000千円	147,000千円	147,000千円	—千円	—千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,350千円	1,350千円	1,350千円	1,350千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等							
既設大学等の状況	大学の名称		熊本保健科学大学							
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	保健科学部		年	人	年次	人		倍		熊本県熊本市北区和泉町亀の甲325番地
	医学検査学科		4	100	—	400	学士(保健学)	1.12	平成15年度	
	看護学科		4	100	—	400	学士(看護学)	1.14	平成15年度	
リハビリテーション学科		4	120	—	480	学士(保健学)	1.11	平成19年度		
附属施設の概要		該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健科学部リハビリテーション学科理学療法専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	基礎セミナー	1前	1				○			1	1	1			兼28	
	情報科学	1前	2				○	○							兼1	
	アカデミックスキルⅠ (入門)	1前	2				○	○							兼4	
	アカデミックスキルⅡ (基礎)	1後	2				○	○							兼4	
	アカデミックスキルⅢ (応用)	2前	1				○	○							兼3	
	スキルアップセミナー	2後		1			○	○							兼1	
	人文科学	哲学	2前・4後		2			○								兼1
		芸術と人間	1前・2後		2			○								兼1
		文学入門	2前		2			○								兼1
		心理学	1前		2			○								兼1
	社会科学	社会学	1後		2			○								兼2
		教育学	2後		2			○								兼1
		法と人間	2前		2			○								兼1
		環境と経済	1前		2			○								兼1
		文化と経済	2後		2			○								兼1
	自然科学	統計学入門	1後		2			○								兼1
		生命と進化	2前		2			○								兼1
		環境と生命	1前		2			○								兼1
		健康スポーツ科学	1前		2			○	○							兼1
		情報処理技術	2前		2			○	○							兼1
	コミュニケーションの技法	カウンセリング技法	1後		1			○	○							兼1
		レクリエーション技法	1前		1			○	○							兼1
		英語Ⅰ	1前	1				○								兼4
		英語Ⅱ	1後	1				○								兼4
		英語Ⅲ	2前	1				○	○							兼2
		英語Ⅳ	2後	1				○								兼2
		英語Ⅴ	3前		1			○								兼1
		英語Ⅵ	3前		1			○								兼1
		英語Ⅶ	3前		1			○								兼1
小計 (29科目)	—	12	34	0		—			1	1	1	0	0	兼51		
保健科学基幹科目	保健医療概論	2前	1				○								兼1	
	生活保健論	1前	1				○								兼1	
	臨床検査概論	1前		1			○								兼6	
	看護学概論	1前		1			○								兼2	
	災害時における保健医療	1・2・3・4前		1			○	○							兼2	
	生命と倫理	1後	2				○								兼1	
	チーム医療演習	4後	1				○								兼1	
小計 (7科目)	—	5	3	0		—		0	0	0	0	0	0	兼13		
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	1前	1				○								兼2	
	解剖学Ⅱ	1後	2				○			1					兼1	
	解剖学演習	1後	2					○		2					兼4	
	生理学Ⅰ	1前	1				○			2	1					
	生理学Ⅱ	1後	1				○				1					
	生理学実習	1後	2						○	2	1					
	基礎運動学	1前	1				○				1					
	臨床運動学	1後	2				○	○			1					
	運動学実習	1後	1				○		○	1		1				
	人間発達学	1後	1				○								兼1	

専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	2前	1			○												兼2	
		薬理学	2後	1			○				1									
		画像診断学	3前	1			○				2									
		臨床医学総論Ⅰ	2前	1			○				1									
		臨床医学総論Ⅱ	2後	1			○				1									
		リハビリテーション医学	2前	1			○				1									
		救急救命医学	3前	1			○					1								兼1
		臨床心理学	2前	1			○													兼1
		精神医学	2前	1			○													兼1
		整形外科学	2後	1			○													兼1
		神経内科学	2前	1			○													兼2
		小児科学	2後	1			○													兼1
		代替医療	4後		1			○	○			1	1	1						兼2
		作業療法概論	1前		1			○	○											兼8
		言語聴覚学概論	1前		1			○												兼4
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医療と福祉	3前	1			○	○												兼1	
	リハビリテーション概論	1後	1			○				1										
	関連法規	2後	1			○	○												兼1	
	衛生・公衆衛生学	1後	1			○													兼1	
	小計(29科目)	—		30	3	0		—		4	2	2							兼29	
基礎理学療法学	理学療法学総論	1前	1			○				2	2	2								
	基礎理学療法学	1後	1			○	○			1										
	理学療法学総合演習	4後	1				○			5	4	2								
	理学療法研究法	3前	2			○	○			5	4	2								
	理学療法セミナー	3前	1			○	○			1										
理学療法管理学	基礎理学療法管理・運営学	2後	1			○					1									
	応用理学療法管理・運営学	4前	1			○					1									
理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	2前	2			○	○					1								
	理学療法評価学Ⅱ	2前	2				○				1								兼1	
	理学療法評価学Ⅲ	2後	2				○			2	1								兼1	
理学療法治療学	運動器理学療法学	2後	1			○						1								
	運動器理学療法学演習	3前	2				○					2								
	神経系理学療法学Ⅰ	2後	2			○	○					1								
	神経系理学療法学Ⅱ	3前	1			○				1	1									
	内部障害系理学療法学	3前	1			○					1									
	呼吸器系理学療法学	2後	1			○	○					1								
	循環器系理学療法学	3前	1			○	○				1	1								
	発達障害系理学療法学	3前	1			○	○												兼1	
	徒手療法学Ⅰ	3前	1			○	○			1										
	徒手療法学Ⅱ	4前		1		○	○			1										
	徒手療法学Ⅲ	4前		1		○	○					1								
	物理療法学	2後	1			○				1										
	物理療法学演習	3前	1				○			1										
	義肢学	2後	1			○						1								
	装具学	3前	1			○	○					1								
	生活技術学	2前	1			○	○					1								
	スポーツ理学療法学	4前		1		○	○						1							
	障害者スポーツ指導論	2後	1			○	○			1			1							
	高次脳機能障害理学療法	4前	1			○						1							兼2	
	摂食嚥下理学療法学	4前	1			○				1										
	リハビリテーション工学	4前	1			○						1								
	スポーツデータサイエンス論	2前			1		○					1								
	スポーツトレーニング論	2前			1		○						1							
健康スポーツ心理学	2後		1			○														
アスリートサポート演習	2後		1				○				1									
スポーツコンディショニング演習	3前		1				○					1								
地域理学療法学	地域理学療法学	2前	2			○						2								
	生活環境支援系理学療法学	2後	1			○						1								

専門科目	臨床実習	臨床見学実習	1前	1					○	5	4	2			
		臨床評価実習	3後	4					○	5	4	2			
		臨床総合実習Ⅰ	3後	7					○	5	4	2			
		臨床総合実習Ⅱ	4前	8					○	5	4	2			
		地域実習	2前	2					○	5	4	2			
	卒業研究	卒業研究	4後	3				○	5	4	2				
	小計 (44科目)	—	58	7	5		—	—	5	4	2	0	0	兼4	
合計 (109科目)			—	105	47	5		—	5	4	2	0	0		
学位又は称号		学士 (保健学)		学位又は学科の分野				保健衛生学							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修科目105単位、教養科目の選択科目から14単位以上、保健科学基幹科目・専門基礎科目の選択科目より2単位以上、専門科目の選択科目より4単位以上を修得し、125単位以上修得すること。なお、教養科目の選択科目のうちカウンセリング技法を含む、人文科学、社会科学、自然科学、コミュニケーションの技法の中区分より各1単位以上、保健科学基幹科目・専門基礎科目の選択科目のうち臨床検査概論、看護学概論より1単位以上かつ専門基礎科目より1単位以上を選択必修とする。								1 学年の学期区分			2学期				
								1 学期の授業期間			15週				
								1 時限の授業時間			90分				

学校法人銀杏学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度

入学定員 編入学定員 収容定員

熊本保健科学大学			
保健科学部			
医学検査学科	100	—	400
看護学科	100	—	400
リハビリテーション学科	120	—	480
理学療法学専攻	(40)		(160)
生活機能療法学専攻	(40)		(160)
言語聴覚学専攻	(40)		(160)
計	320	—	1,280

令和4年度

入学定員 編入学定員 収容定員 変更の事由

熊本保健科学大学			
保健科学部			
医学検査学科	100	—	400
看護学科	100	—	400
<u>リハビリテーション学科</u>	<u>140</u>	—	<u>560</u>
<u>理学療法学専攻</u>	<u>(60)</u>		<u>(240)</u> 定員変更(20)
生活機能療法学専攻	(40)		(160)
言語聴覚学専攻	(40)		(160)
計	<u>340</u>	—	<u>1,360</u>

アクセスマップ

最寄駅からは、数歩でキャンパス。
便利なのに静かな周辺環境は自慢です。

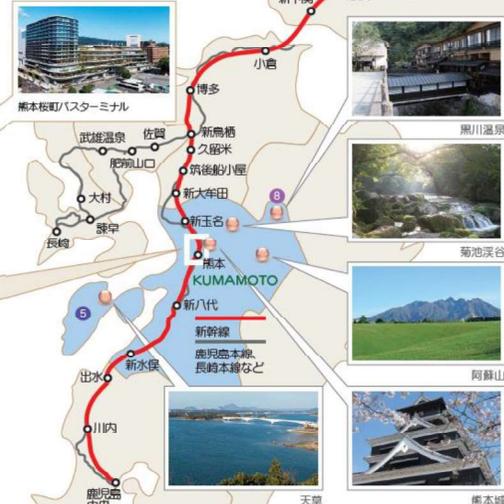
熊本保健科学大学の最寄駅は、JR鹿児島本線の「西里駅」です。西里駅に降り立つとそこはもうキャンパスです。また、西里駅は熊本駅から約10分、博多駅からも公共交通機関による最短時間で約50分という場所に位置します。九州新幹線の開通などにより、九州各県からでも熊本保健科学大学への距離はぐっと縮まりました。



西里駅

●各県から西里駅までの最短時間目安
(公共交通機関利用の場合)

福岡	博多駅 → 50分
佐賀	佐賀駅 → 66分
長崎	長崎駅 → 2時間 23分
大分	大分駅 → 2時間 49分
宮崎	宮崎駅 → 3時間 37分
鹿児島	鹿児島中央駅 → 62分



●公共交通機関による大学までの所要時間

起点	JR利用	路線バス利用	自家用車
JR熊本駅	約10分	約15分	約25分
JR上熊本駅	約5分	約15分	約10分
松野バスターミナル		約25分	約20分
熊本空港		(リムジンバスで松野バスターミナルまで約45分)	約60分

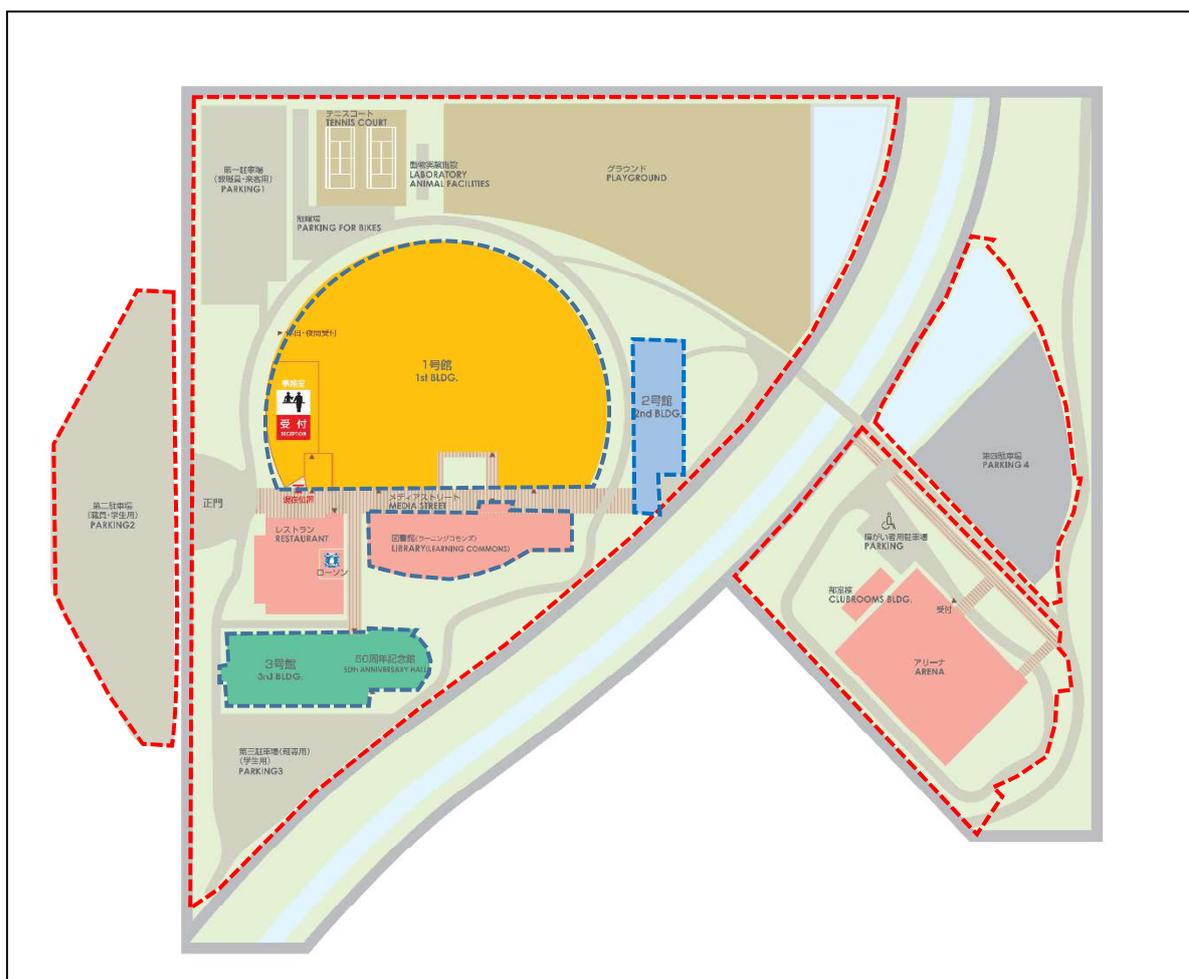
- JRで鹿児島本線「西里駅」正着。
- バスで松野バスターミナル20番のりば、乃藤寺行き(2-2)のバスに乗り、「西里駅」下車。
- 熊本空港から空港リムジンバス熊本駅方面行きに乗り、「熊本駅前」下車。JR熊本駅から鹿児島本線上り普通列車に乗り。または「松野バスターミナル」下車、乃藤寺のりば乃藤寺行き(2-2)のバスに乗り。

●自家用車ご利用の場合

福岡方面より熊本ICからお越しの場合
熊本ICで下車、国道3号を熊本市街方面へ約9.6km南下、「大塚2丁目」交差点の分岐を右折し、県道303号(四力帯熊本本線)へ。その後、「フードビル熊本」方面へ右折、県道332号(小天下横川線)をフードビル方面へ進む。

宮崎・鹿児島方面より益城熊本空港ICからお越しの場合
益城熊本空港IC下車、北西に進み分岐点を熊本市街の表示に従って右方向へ、県道36号(第2空路線)に入る。分岐点を左方向へ進み、熊本本町の交差点を右折し、県道36号を進む。県庁通り入り口の交差点を左折して熊本駅(イノ)へ、国道57号に入る。神水の交差点を右折して県道28号へ、水鏡の交差点を右折して国道3号に入り、県道303号(四力帯熊本本線)へ。その後、「フードビル熊本」方面へ右折、県道332号(小天下横川線)をフードビル方面へ進む。

配置図



○校地 (部分)

・校地面積 71,734 m²

○校舎 (部分)

・校舎面積 22,961.4 m²

(1号館 11,529.25 m²、2号館 4,770.15 m²、3号館 6,662.00 m²)

熊本保健科学大学学則

第1章 総 則

(目的及び使命)

第1条 熊本保健科学大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、保健医療に関する学問の教育及び研究を行い、併せて豊かな教養と人格とを兼ね備え、国民の保健衛生並びに医療に寄与する人材を育成することを目的及び使命とする。

(教育研究上の目的の公表等)

第1条の2 本学は、教育研究組織ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。

(自己点検・自己評価)

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 自己点検評価について必要な事項は別に定める。

(情報の公開)

第3条 本学における教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的にその情報を公開するものとする。

2 公開の内容及び方法については別に定める。

第2章 組 織

(学部・学科・入学定員、収容定員及び教育目的)

第4条 本学に、保健科学部医学検査学科、看護学科、リハビリテーション学科理学療法学専攻、リハビリテーション学科生活機能療法学専攻及びリハビリテーション学科言語聴覚学専攻を置く。

2 前項の学部・学科・専攻の入学定員及び収容定員は次の通りとする。

学 部	学 科	専 攻	入学定員	収容定員
保 健 科 学 部	医学検査学科	—	100人	400人
	看護学科	—	100人	400人
	リハビリテーション学科	理学療法学専攻		60人
生活機能療法学専攻			40人	160人
言語聴覚学専攻			40人	160人

3 前項の学部・学科等の教育研究上の目的を別表第1に示す。

(大学院)

第4条の2 本学に、大学院を置く。

2 大学院学則は別に定める。

(共通教育センター)

第4条の3 本学に、共通教育センターを置く。

2 共通教育センターについて必要な事項は別に定める。

(別科)

第4条の4 本学に、助産別科を置く。

2 助産別科について必要な事項は別に定める。

(教育研究施設)

第4条の5 本学に、次の教育研究施設を置く。

- (1) キャリア教育研修センター
- (2) 地域包括連携医療教育研究センター
- (3) 学生相談・修学サポートセンター
- (4) アカデミックスキル支援センター

2 前項について必要な事項は別に定める。

(附属図書館)

第5条 本学に、附属図書館を置く。

2 附属図書館について必要な事項は別に定める。

第3章 職員組織

(職員)

第6条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員及びその他必要と認められた職員を置く。

2 学長が必要と認めた場合は顧問、副学長及び学長特別補佐を置くことができる。

- (1) 顧問は学長の求めに応じ、校務についての必要な助言を行う。
- (2) 副学長は学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。
- (3) 学長特別補佐は学長の特命を受け副学長と連携し、学長の職務を助ける。

(各組織の長)

第7条 本学に、学長のほか、学部長、学術研究部長、附属図書館長、学科長、専攻長、事務局長を置く。

- 2 学長は本学の最高責任者として校務をつかさどり、所属職員を統督する。
- 3 学部長は、本学の教授をもって充て、学部の教育に関する事項を掌理する。
- 4 学術研究部長は本学の教授をもって充て、本学の学術研究に関する事項を掌理する。
- 5 附属図書館長は本学の教授をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。
- 6 学科長は、当該学科の教授をもって充て、学科の教育に関する事項を掌理する。
- 7 専攻長は、当該専攻の教授をもって充て、専攻の教育に関する事項を掌理する。

- 8 事務局長は、事務の職務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 9 第2項から第7項に規定する者の選考、任期その他の必要な事項は別に定める。

第4章 大学運営協議会及び教授会等

(大学運営協議会)

第8条 本学に、大学運営協議会を置く。

- 2 大学運営協議会に管理運営に関する専門的事項を審議するため、各種委員会を置く。
- 3 大学運営協議会及び各種委員会に関して必要な事項は別に定める。

(教授会)

第9条 本学に、教授会を置く。

- 2 教授会に教育課程及び学生の福利厚生等に関する専門的事項を審議するため、各種委員会を置く。
- 3 教授会及び各種委員会に関して必要な事項は別に定める。

(学術研究会議)

第10条 本学に、学術研究会議を置く。

- 2 学術研究会議に学術研究に関する専門的事項を審議するため、各種委員会を置く。
- 3 学術研究会議及び各種委員会に関して必要な事項は別に定める。

(教員人事委員会)

第11条 本学に、教員の採用、昇進等に関する事項を審議し、学長に意見を述べるため、教員人事委員会を置く。

- 2 教員人事委員会に関して必要な事項は別に定める。

(広報委員会)

第12条 (削除)

第5章 修業年限、在学期間、学年、学期及び休業日

(修業年限)

第13条 本学の修業年限は4年とする。

(在学期間)

第14条 学生は8年を超えて在学することはできない。ただし、第23条、第25条及び第26条の規定により入学した学生は、第27条の規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する期間を超えて在学することができない。

(学 年)

第15条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学 期)

第16条 学年を次の2 Semester に分ける。

- (1) 前期 4月1日から9月30日まで

(2) 後期 10月1日から3月31日まで

(休業日)

第17条 休業日は、次の通りとする。

- (1) 土曜日及び日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号第3条）に規定する休日
- (3) 開学記念日（5月15日）
- (4) 春季休業日
- (5) 夏季休業日
- (6) 冬季休業日

2 前項第4号から第6号までに規定する休業日は、一年を通じ、16週以内で学長が定めた日とする。

3 学長は、第1項の規定に関わらず、特別の必要があると認めるときは、臨時に休業日を設け、又は、休業日を変更し、若しくは休業日に授業を行うことができる。

第6章 入学、編入学、再入学及び転入学

(入学の時期)

第18条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、第23条、第25条及び第26条までの規定により入学する場合及び特別の必要があり、教育上支障がないと認められる場合は、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第19条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに該当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が三年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者（昭和23年文部省告示第47号）
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定（以下「旧検定」という。）に合格した者を含む。）
- (8) 前各号に定める者の他、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、十八歳に達したもの

(入学の出願)

第20条 本学に入学を志願する者は、本学指定の期日までに、本学所定の書類に入学検定料を添えて、学長に提出しなければならない。

(入学者の選考)

第21条 前条の入学志願者に対しては、別に定めるところにより選考を行う。

2 選考による合格者の決定は、教授会の議を経て学長が行う。

(入学手続き及び入学許可)

第22条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学料を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第23条 本学に編入学を志願する者があるときは、別に定めるところにより、選考の上、教授会の議を経て、学長が入学を許可することができる。

2 編入学を志願する者の選抜にかかる事項については、別に定める。

(看護学科の第3年次への編入学)

第24条 削除

(再入学)

第25条 本学に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、教授会の議を経て、学長が入学を許可することができる。

(転入学)

第26条 本学に転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、教授会の議を経て、学長が入学を許可することができる。ただし、他の大学との協定に基づき志願する場合は、欠員の有無にかかわらず、選考の上、教授会の議を経て、学長が入学を許可することができる。

(編入学等の取扱い)

第27条 第23条、第25条及び第26条の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目及びその単位数の取扱い並びに、在学すべき年数等については、教授会の議を経て、学長が決定する。

第7章 教育課程及び履修方法等

(1年間の授業期間)

第28条 1年間の授業期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(教育課程)

第29条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

2 授業科目の種類及び単位数等は別表第2の通りとする。

3 第23条、第25条及び第26条に定める編入学生、転入学生、再入学生の履修方法については別に定める。

(授業の方法)

第29条の2 授業は、講義、演習若しくは実習のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 学長が認めた場合は、前項の授業を、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 前項の授業方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

(単位の計算方法)

第30条 各授業科目の単位数は、1単位の授業時間を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定に関わらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

(単位の授与)

第31条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

(成績の評価)

第32条 成績の評価は100点満点とし、AA(90点以上)、A(89～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59点以下)の評語をもって表し、AA、A、B及びCを合格とする。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修)

第33条 学長が、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により取得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、本学の学生が外国の大学に留学する場合及び外国の大学が行う通信教育における授業科目を履修する場合について準用する。

(検定試験の成績の取扱い)

第33条の2 別に定める検定試験における学生の成績については、学長が、教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項の取扱いについては、別に定める。

3 前2項により与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(大学以外の教育施設等における学修)

第34条 学長が、教育上有益と認めるときは、本学の学生が他の短期大学又は高等専

- 門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。
- 2 前項の規定により与えることができる単位数は、第 33 条及び前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

- 第 35 条** 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について取得した単位（大学又は短期大学において科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学における入学した後の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 2 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより、単位を与えることができる。
- 3 前 2 項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 33 条から前条までの規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 8 章 休学、復学、転学、留学、退学、・除籍、復籍及び転学科・転専攻

(休学)

- 第 36 条** 疾病その他やむを得ない事情により、3 ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。
- 2 疾病その他の事由により修学することが適当でないと認められる者については、学長は教授会の議を経て、当該学生に休学を命ずることができる。

(休学期間)

- 第 37 条** 休学期間は 1 年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、学長の許可を得て 1 年を限度として休学期間の延長をすることができる。
- 2 休学期間は、通算して 4 年を超えることはできない。
- 3 休学期間は、第 14 条の在学期間には算入しない。

(復学)

- 第 38 条** 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

- 第 39 条** 他の大学等への入学又は転学を志願する者は、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

- 第 40 条** 外国の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。
- 2 前項の許可を得て留学した期間は、第 14 条に定める在学期間に含めることができる。

3 第 33 条の規定は、第 1 項の許可を得て留学する場合に準用する。

(退 学)

第 41 条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(除 籍)

第 42 条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍することができる。

- (1) 第 14 条の規定により在学期間を超えた者
- (2) 第 37 条の規定により定められた休学期間を超えて、なお復学することができない者
- (3) 授業料等の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (4) 病気その他の理由により、成業の見込みがないと認められる者
- (5) 死亡した者及び長期間にわたり行方不明の者

2 除籍に関して必要な事項は別に定める。

(復 籍)

第 42 条の 2 第 42 条第 1 項第 3 号により除籍となった者が、復籍を願い出た場合、学長の許可を得て復籍することができる。

2 復籍に関して必要な事項は別に定める。

(転学科・転専攻)

第 43 条 転学科・転専攻を志願する者があるときは、教授会の議を経て、学長が許可することができる。

2 転学科・転専攻に関して必要な事項は別に定める。

第 9 章 卒業及び学位の授与

(卒 業)

第 44 条 本学に 4 年（第 23 条、第 25 条及び第 26 条の規定により入学した者については、定められた在学年数）以上在学し、別表第 3 に示す所定の授業科目を履修し、所定の単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位を授与する。

(学位の授与)

第 45 条 前条による学位の授与は、次の区分に従い行う。

- | | | | |
|-----------|-------------|-----------|---------|
| (1) 保健科学部 | 医学検査学科 | | 学士(保健学) |
| (2) 保健科学部 | 看護学科 | | 学士(看護学) |
| (3) 保健科学部 | リハビリテーション学科 | 理学療法学専攻 | 学士(保健学) |
| (4) 保健科学部 | リハビリテーション学科 | 生活機能療法学専攻 | 学士(保健学) |
| (5) 保健科学部 | リハビリテーション学科 | 言語聴覚学専攻 | 学士(保健学) |

第 10 章 入学検定料、入学料、授業料等

(授業料等の金額)

第46条 本学の入学検定料、入学料、授業料、及びその他の費用の納入額は別表第4の通りとする。

2 休学を許可された者は、休学在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

(授業料等の納入期)

第47条 授業料等は次の2期に分け、別表第4に定めるところにより、納入しなければならない。

(1) 前期分納期 4月30日まで

(2) 後期分納期 9月30日まで

ただし、入学時の前期分については、入学手続き時に納入することとする。

(授業料等の納付金徴収の猶予)

第48条 経済的理由により授業料等の納付が困難であって、やむを得ない事情があると認められた者については、その徴収を猶予することができる。

2 前項の他、授業料等の納付に関し、必要な事項は別に定める。

(既納の入学金及び授業料等)

第49条 既納の入学金及び入学後に納付した授業料等は、原則としてこれを返還しない。

第11章 研究生、聴講生、特別聴講生、科目等履修生、委託生
及び外国人留学生

(研究生)

第50条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者がいるときは、選考の上、教授会の議を経て、学長は研究生として入学を許可することができる。

2 研究生として入学することのできる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の能力があると認められた者とする。

3 研究期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

(聴講生)

第51条 本学所定の授業科目中、1科目又は複数科目の聴講を志願する者がいるときは、教育に支障のない場合に限り、選考の上、教授会の議を経て、学長は聴講生として許可することができる。

2 前項の授業科目には、実験、実技及び実習は含まない。

(特別聴講生)

第52条 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者がいるときは、当該大学又は短期大

学との協議に基づき、教授会の議を経て、学長は特別聴講生として入学を許可することができる。

(科目等履修生)

第53条 本学所定の授業科目中、1科目又は複数科目の履修を志願する者があるときは、選考の上、教授会の議を経て、学長は科目等履修生として許可することができる。

2 学長は、科目等履修生に対し、単位を与えることができる。

(委託生)

第54条 本学において官公庁、学校、団体等からその所属する職員に特定の事項について研修させるため、委託があるときは、選考の上、教授会の議を経て、学長は委託生として入学を許可することができる。

(外国人留学生)

第55条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願するものがあるときは、選考の上、教授会の議を経て、学長は外国人留学生として入学を許可することができる。

(研究生等の取扱い)

第56条 研究生、聴講生、特別聴講生、科目等履修生、委託生及び外国人留学生に関し、必要な事項は別に定める。

第12章 賞 罰

(表 彰)

第57条 学長は、学生として表彰に値する行為があった者は、教授会の議を経て、表彰することができる。

2 学生の表彰に関して必要な事項は別に定める。

(懲 戒)

第58条 学長は、本学の学則その他学生に関する諸規程に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、懲戒することができる。

2 前項の懲戒の種類は退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行うことができる。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくして出席が常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

(5) 大学の名誉を著しく毀損した者

(6) その他本学に在学させることが不相当と認められる者

4 学生の懲戒に関して必要な事項は別に定める。

第13章 大学開放等

(大学開放)

第59条 学長は、地域社会と連携し、開かれた大学とするため、教育研究上の支障のない限りにおいて、公開講座の開設、教育研究施設及び設備の使用等の大学開放事業を行うことができる。

第14章 雑 則

第60条 この学則に定めるもののほか、この学則の施行に関し、必要な事項は学長が別に定める。

(改廃)

第61条 この規程の改廃は、理事会が行う。

附 則

- 1 本学則は、平成15年4月1日から施行する。ただし、第20条から第22条までの規定は、文部科学大臣が本学の設置を認可した日より施行する。
- 2 本学則は、平成19年4月1日から改正施行する。
- 3 本学則は、平成20年4月1日から改正施行する。
- 4 本学則は、平成21年4月1日から改正施行する。
- 5 本学則は、平成22年4月1日から改正施行する。
- 6 本学則は、平成23年4月1日から改正施行する。
- 7 本学則は、平成24年4月1日から改正施行する。
- 8 本学則は、平成25年4月1日から改正施行する。
- 9 本学則は、平成26年4月1日から改正施行する。
- 10 本学則は、平成26年6月1日から改正施行する。
- 11 本学則は、平成27年4月1日から改正施行する。
- 12 本学則は、平成28年4月1日から改正施行する。
- 13 本学則は、平成29年4月1日から改正施行する。
- 14 本学則は、平成30年4月1日から改正施行する。
- 15 本学則は、平成31年4月1日から改正施行する。
- 16 本学則は、令和2年4月1日から改正施行する。
- 17 本学則は、令和3年4月1日から改正施行する。
- 18 本学則は、令和4年4月1日から改正施行する。
- 19 第4条第2項の適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の人数に読み替えるものとする。

学 科	年 度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	収容定員
リハビリテーション学科 理学療法学専攻	令和4年度	60人	40人	40人	40人	180人
	令和5年度	60人	60人	40人	40人	200人
	令和6年度	60人	60人	60人	40人	220人

別表第1（第4条関係） 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

熊本保健科学大学	<p>（人材の養成に関する目的－基本理念－）</p> <p>【熊本保健科学大学】</p> <p>(1) 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う</p> <p>(2) 人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成</p> <p>(3) 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成</p> <p>(4) 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成</p>
	<p>（教育研究上の目的－教育目標－）</p> <p>【保健科学部】</p> <p>(1) 生命の尊厳と社会について洞察力を有し、自立できる人材を育てる</p> <p>(2) 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる</p> <p>(3) 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる</p> <p>(4) 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる</p> <p>【医学検査学科】</p> <p>(1) 人間の健康、身体の構造、機能、障害をもたらす疾患及び生活環境などの基本的な知識を有する人材を育てる</p> <p>(2) 今日の科学技術の革新に対応した高度な検査を含めた臨床検査についての専門的な知識と技術を有する人材を育てる</p> <p>(3) 疾患と検査値に関する知識を学び、的確な臨床支援のできる能力と見識を有する人材を育てる</p> <p>(4) 食品の安全に関する科学的知識を身につけ、食品衛生管理に携わることのできる人材を育てる</p> <p>【看護学科】</p> <p>看護の専門職として高い理想に向かって成長し続ける人間を、以下のような視点に立って育成する</p> <p>(1) いのちの尊厳を基盤に、人としての権利を尊重し調和のとれた豊かな人間性を養う</p> <p>(2) 人々の健康を科学的・系統的に理解し、生活の質の向上に取り組む能力を養う</p> <p>(3) 看護の対象となる人の個別性を尊重した優しいケアを提供する姿勢を養う</p> <p>(4) 保健・医療・福祉に関わる専門職としての知識・技術・態度をはぐくみ、チームの中で連携協働できる能力を養う</p> <p>(5) 看護における創造性を培い、個人・家族・地域に対し主体的に看護活動ができる基盤を養う</p> <p>(6) グローバルな視野で社会のニーズに注目し、生涯を通じて自己の資質の向上に努める</p> <p>【リハビリテーション学科】</p> <p>(1) 対象者の立場に立ってQOLの向上をはかるための、科学的な思考力と判断力を培う</p> <p>(2) 広い視野から課題を探求し、自立的に問題の解決をはかる力を育成する</p> <p>(3) 保健・医療・福祉に関わる様々な専門職と連携協働し、自己の役割を主体的に責任を持って果たすことのできる人材を育成する</p> <p>(4) 人間及び社会に対する深い洞察力をもち、社会の一員として幅広い視点から柔軟で総合的な判断のできる自立した人材を育成する</p>
保健科学部	

保健科学部 リハビリテーション学科	<p>【理学療法学専攻】</p> <p>(1) 対象者の基本的動作能力の向上や ADL 拡大のための実践力を持った理学療法士を育成する</p> <p>(2) エビデンスに基づいた思考と理学療法評価及び介入ができる理学療法士を育成する</p> <p>(3) チームアプローチを推進するための専門職としての知識・技術を持った理学療法士を育成する</p> <p>(4) 社会貢献と医療の発展に寄与するために必要な探究心を持った理学療法士を育成する</p>
	<p>【生活機能療法学専攻】</p> <p>(1) 対象者の立場に寄り添った広い視野と洞察力を持つ作業療法士を育成する</p> <p>(2) 対象者の生活機能及び QOL の観点から、科学的かつ論理的な思考と判断をもって意味のある作業活動を導出できる作業療法士を育成する</p> <p>(3) 専門職チームの一員として、主体的に考えながら連携協働できる作業療法士を育成する</p> <p>(4) 作業療法学の進歩を的確に捉えながら、専門職としてのリーダーシップを発揮し、地域社会に貢献できる作業療法士を育成する</p>
	<p>【言語聴覚学専攻】</p> <p>(1) 言語聴覚士に必要な豊かな人間性と教養、高い倫理観、国際性を身につけた人材を育成する</p> <p>(2) 言語聴覚士として不可欠な基本的知識と技能を修得し、科学的かつ論理的な思考力と判断力のある人材を育成する</p> <p>(3) 実習や演習等を通して専門職としてのコミュニケーション能力を高め、多職種連携や地域社会に貢献できる言語聴覚士を育成する</p> <p>(4) 広い視野を持ち言語聴覚学の発展に寄与できる人材を育成する</p>

別表第2(第29条関係)

1 医学検査学科

授業科目	単位数		特定科目 ¹⁾	
	必修	選択	I	II
コモン・ベーシックス	ライフサイエンス入門	2		
	基礎セミナー	1		
	情報科学	1		○
	現代情報リテラシー	1		○
人文科学	哲学	2		
	芸術と人間	2		
	文学入門	2		
	心理学	2		
社会科学	社会学	2		
	教育学	2		
	法と人間	2		
	文化と経済	2		
自然科学	環境と経済	2		
	統計学入門	2		
	生命と進化	2		
	環境と生命	2		
保健科学基幹科目	健康スポーツ科学	2		
	情報処理技術	2		
	カウンセリング技法	1		
	レクリエーション技法	1		
コミュニケーションの技法	英語 I	1		
	英語 II	1		
	英語 III	1		
	英語 IV	1		
	英語 V	1		
	英語 VI	1		
	英語 VII	1		
生命科学の基礎	保健医療概論	1	○	○
	生活保健論	1		○
	生命と倫理	2		○
	チーム医療演習	1		
	看護学概論	1		
	リハビリテーション概論	1		
	災害時における保健医療	1		
人体の構造と機能	化学	1		○
	分析化学	1		○
	化学実習	1		○
	生化学	2		○
	生化学実習	1		○
	生化学実習	1		○
	分子生物学	1		○
	解剖学	2		○
	解剖学実習	1		○
	生理学	2		○
医学検査の基礎と疾病の理解	生理学実習	1		○
	病理学	2		○
	微生物学	1		○
	微生物学実習	1		○
	血液学	1		○
	免疫学	1		○
保健医療福祉と医学検査	薬物概論	1		
	臨床病態論	2		○
	公衆衛生学 I	1		○
	公衆衛生学 II	1		○
医療工学・情報科学	公衆衛生学実習	1		○
	保健医療福祉概論	1		○
	基礎数学	1		
	基礎物理学	1		
	情報活用学	2		
医療工学	医用工学概論	1		○
	医用工学実習	1		○

授業科目	単位数		特定科目 ¹⁾	
	必修	選択	I	II
形態検査学	病理検査学	1		
	病理検査学実習 I	1		○
	病理検査学実習 II	2		○
	血液形態検査学	1		○
	血液形態検査学実習	1		○
	寄生虫検査学	1		○
	一般検査学 II	1		○
生物化学分析学	一般検査学 II 実習	1		○
	一般検査学 I	1		○
	一般検査学 I 実習	1		○
	臨床化学検査学 I	1		○
	臨床化学検査学 II	1		○
	臨床化学検査学実習	2		○
	R I 検査学	1		○
	止血検査学	1		○
	止血検査学実習	1		○
	遺伝子検査学	1		○
病因・生体防御学	遺伝子検査学実習	1		○
	微生物検査学	2		○
	微生物検査学実習	2		○
	免疫検査学	1		○
	免疫検査学実習	1		○
	輸血・移植検査学	1		○
	輸血・移植検査学実習	1		○
生理機能検査学	実験動物学	1		
	バイオテクノロジー演習	1		
	生理検査学 I	1		○
	生理検査学 II	1		○
	生理検査学実習	2		○
	画像検査学 I	1		○
	画像検査学 II	1		○
検査総合管理学	救急処置法	1		○
	検査学入門	1		○
	精度管理学	1		
	検査機器学	1		○
医療安全管理学	検査情報システム学	1		○
	検査管理運営学	1		
臨床検査学	検査管理運営学	1		
	医療安全管理学	1		○
	臨床検査医学総論	1		
	臨床診断学	1		
	細胞検査学演習 I	1		
	細胞検査学演習 II	1		
	機能組織学	1		
	遺伝子工学	1		
	超音波検査学演習 I	1		
	超音波検査学演習 II	1		
食品科学	MRI 検査学演習	1		
	食品衛生学	1		○
	食品衛生管理学	1		○
	食品関係法規	1		○
特別科目	食品	1		
	臨床検査学特論 I	1		○
	臨床検査学特論 II	2		○
	薬物治療学	1		○
	薬物動態論	1		
	治験学概論	1		
	専門英語	1		
計	臨地実習	7		○
	卒業研究	4		
計		89	68	

1) I : 臨床検査技師国家試験資格に必要な科目
II : 食品衛生管理者養成校指定に係わる科目

1 医学検査学科

授 業 科 目		単位数		特定科目 ¹⁾	
		必修	選択	I	II
教養科目	コモン・ベーシック	ライフサイエンス入門	2		
		基礎セミナー	1		
		情報科学	1		○
		現代情報リテラシー	1		○
	人文科学	哲学	2		
		芸術と人間	2		
		文学入門	2		
		心理学	2		
	社会科学	社会学	2		
		教育学	2		
		法と人間	2		
		文化と経済	2		
	自然科学	環境と経済	2		
		統計学入門	2		
		生命と進化	2		
		環境と生命	2		
	コミュニケーションの技法	健康スポーツ科学	2		
		情報処理技術	2		
		カウンセリング技法	1		
		レクリエーション技法	1		
		英語 I	1		
		英語 II	1		
		英語 III	1		
		英語 IV	1		
	保健科学基幹科目	英語 V	1		
		英語 VI	1		
		英語 VII	1		
		保健医療概論	1		○
		生活保健論	1		○
		生命と倫理	2		○
		チーム医療演習	1		
	生命科学の基礎	看護学概論	1		
		リハビリテーション概論	1		
災害時における保健医療		1			
化学		1		○	
分析化学		1		○	
化学実習		1		○	
生化学 I		1		○	
生化学 II		1		○	
生化学実習		1		○	
生物学		1	1		
人体の構造と機能	分子生物学	1		○	
	解剖学 I	1		○	
	解剖学 II	1		○	
	解剖学実習	1		○	
	生理学 I	1		○	
医学検査の基礎と疾病の理解	生理学 II	1		○	
	生理学実習	1		○	
	病理学 I	1		○	
	病理学 II	1		○	
	微生物学	1		○	
	血液学	1		○	
	免疫学	1		○	
	薬物概論	1			
保健医療福祉と医学検査	臨床病態検査学 I	1		○	
	臨床病態検査学 II	1		○	
	公衆衛生学 I	1		○	
	公衆衛生学 II	1		○	
医療工学・情報科学	公衆衛生学実習	1		○	
	保健医療福祉概論	1		○	
	基礎数学	1			
	基礎物理学	1			
	情報活用学 I	1			
	情報活用学 II	1			
	医用工学概論	1		○	
	医用工学実習	1		○	

授 業 科 目		単位数		特定科目 ¹⁾	
		必修	選択	I	II
専門科目	形態検査学	病理検査学	1		
		病理検査学実習 I	1		○
		病理検査学実習 II	1		○
		血液検査学 I	1		○
		血液検査学 II	1		○
		血液検査学実習 I	1		○
		血液検査学実習 II	1		○
		寄生虫検査学	1		○
		一般検査学 I	1		○
		一般検査学 II	1		○
	生物化学分析検査学	一般検査学 II 実習	1		○
		一般検査学 I	1		○
		一般検査学 I 実習	1		○
		臨床化学検査学 I	1		○
		臨床化学検査学 II	1		○
		臨床化学検査学実習	2		○
		RI検査学	1		○
		遺伝子検査学	1		○
	病因・生体防御検査学	遺伝子検査学実習	1		○
		微生物検査学 I	1		○
		微生物検査学 II	1		○
		微生物検査学実習 I	1		○
		微生物検査学実習 II	1		○
		免疫検査学	1		○
免疫検査学実習		1		○	
輸血・移植検査学		1		○	
生理機能検査学	輸血・移植検査学実習	1		○	
	実験動物学		1		
	バイオテクノロジー I		1		
	生理検査学 I	1		○	
	生理検査学 II	1		○	
	生理検査学 III	1		○	
検査総合管理学	生理検査学実習	2		○	
	画像検査学	1		○	
	検査薬理学	1		○	
	救急処置法	1		○	
	検査機器学	2		○	
医療安全管理学	精度管理学	1			
	検査情報システム学	1		○	
臨床検査学	検査管理運営学	1			
	臨床検査医学総論	1		○	
	臨床検査総合演習 I	1		○	
	臨床検査総合演習 II	2		○	
	細胞検査学演習 I		1		
	細胞検査学演習 II		1		
	形態学演習 I		1		
	形態学演習 II		1		
	バイオテクノロジー II		1		
	超音波検査学演習 I		1		
食品科学	超音波検査学演習 II		1		
	神経機能検査学演習		1		
	医療情報演習		1		
	食品衛生学	1		○	
特別科目	食品衛生管理学	1		○	
	食品関係法規	1		○	
	食品学		1		
	薬物動態論		1		
	治験学概論		1		
	専門英語		1		
	臨地実習		7	○	
計	卒業研究		4		
	計	99	57		

1) I: 臨床検査技師国家試験資格に必要な科目
II: 食品衛生管理者養成校指定に係わる科目

別表第2(第29条関係)

1 医学検査学科

授 業 科 目		単位数		特定科目 ¹⁾	
		必修	選択	I	II
教養科目	コモン・ベーシックス	基礎セミナー	1		
		情報科学	2		○
		アカデミックスキルⅠ(入門)	2		
		アカデミックスキルⅡ(基礎)	2		
		アカデミックスキルⅢ(応用)	1		
		スキルアップセミナー	1		
	人文学	哲学	2		
		芸術と人間	2		
		文学入門	2		
		心理学	2		
	社会科学	社会学	2		
		教育学	2		
		法と人間	2		
		環境と経済	2		
		文化と経済	2		
	自然科学	統計学入門	2		
		生命と進化	2		
		環境と生命	2		
		健康スポーツ科学	2		
	コミュニケーションの技法	情報処理技術	2		
		カウンセリング技法	1		
		レクリエーション技法	1		
		英語Ⅰ	1		
		英語Ⅱ	1		
		英語Ⅲ	1		
		英語Ⅳ	1		
		英語Ⅴ	1		
		英語Ⅵ	1		
		英語Ⅶ	1		
	保健科学基幹科目	保健医療概論	1		○
		生活保健論	1		○
		看護学概論	1		
		リハビリテーション概論	1		
		災害時における保健医療	1		
		生命と倫理	2		○
チーム医療演習		1			
専門基礎科目	生命科学の基礎	化学	1		○
		分析化学	1		○
		化学実習	1		○
		生化学Ⅰ	1		○
		生化学Ⅱ	1		○
		生化学実習	1		○
		生物学	1		
		分子生物学	1		○
	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	1		○
		解剖学Ⅱ	1		○
		解剖学実習	1		○
		生理学Ⅰ	1		○
		生理学Ⅱ	1		○
		生理学実習	1		○
	医学検査の基礎と疾病の理解	病理学Ⅰ	1		○
		病理学Ⅱ	1		○
		微生物学	1		○
		血液学	1		○
		免疫学	1		○
		薬物概論	1		
臨床病態検査学Ⅰ		1		○	
臨床病態検査学Ⅱ	1		○		
保健医療福祉と医学検査	公衆衛生学Ⅰ	1		○	
	公衆衛生学Ⅱ	1			
	公衆衛生学実習	1		○	
	保健医療福祉概論	1		○	
医療工学・情報科学	基礎数学	1			
	基礎物理学	1			
	情報活用学Ⅰ	1			
	情報活用学Ⅱ	1			
	医用工学概論	1		○	
	医用工学実習	1		○	

授 業 科 目		単位数		特定科目 ¹⁾	
		必修	選択	I	II
教養科目	形態検査学	病理検査学	1		
		病理検査学実習Ⅰ	1		○
		病理検査学実習Ⅱ	1		○
		血液検査学Ⅰ	1		○
		血液検査学Ⅱ	1		○
		血液検査学Ⅰ実習	1		○
		寄生虫検査学	1		○
		一般検査学Ⅱ	1		○
		一般検査学Ⅱ実習	1		○
		生物化学分析検査学	一般検査学Ⅰ	1	
	一般検査学Ⅰ実習		1		○
	臨床化学検査学Ⅰ		1		○
	臨床化学検査学Ⅱ		1		○
	臨床化学検査学実習		2		○
	RI検査学		1		○
	病因・生体防御検査学	血液検査学Ⅱ実習	1		○
		遺伝子検査学	1		○
		遺伝子検査学実習	1		○
		微生物検査学Ⅰ	1		○
		微生物検査学Ⅱ	1		○
微生物検査学Ⅰ実習		1		○	
微生物検査学Ⅱ実習		1		○	
免疫検査学		1		○	
専門科目	生理機能検査学	免疫検査学実習	1		○
		輸血・移植検査学	1		○
		輸血・移植検査学実習	1		○
		実験動物学	1		
		バイオテクノロジーⅠ	1		
	検査総合管理学	生理検査学Ⅰ	1		○
		生理検査学Ⅱ	1		○
		生理検査学Ⅲ	1		○
		生理検査学実習	2		○
		画像検査学	1		○
検査安全管理学	検査薬理学	1		○	
	検査機器学	2		○	
	精度管理学	1			
医療安全管理学	検査情報システム学	1		○	
	検査管理運営学	1			
臨床検査学	医療安全管理学	1		○	
	臨床検査医学総論	1		○	
	臨床検査総合演習Ⅰ	1		○	
	臨床検査総合演習Ⅱ	2		○	
	細胞検査学演習Ⅰ	1			
	細胞検査学演習Ⅱ	1			
	形態学演習Ⅰ	1			
	形態学演習Ⅱ	1			
	バイオテクノロジーⅡ	1			
	超音波検査学演習Ⅰ	1			
	超音波検査学演習Ⅱ	1			
	神経機能検査学演習	1			
食品科学	医療情報演習	1			
	食品衛生学	1		○	
	食品衛生管理学	1		○	
	食品関係法規	1		○	
特別科目	食品学	1			
	薬物動態論	1			
	治験学概論	1			
	臨床実習	7		○	
卒業研究	4				
計		102	58		

1) I:臨床検査技師国家試験資格に必要な科目
II:食品衛生管理者養成校指定に係わる科目

2 看護学科

平成26～30年度入学生

授 業 科 目		単位数		保健師国家試験受験資格に必要な科目	
		必修	選択		
教養科目	コモン・ベーシックス	ライフサイエンス入門	2		
		基礎セミナー	1		
		情報科学	1		
		現代情報リテラシー	1		
	人文科学	哲学		2	
		芸術と人間		2	
		文学入門		2	
		心理学		2	
	社会科学	社会学		2	
		法と人間*		2	
		環境と経済		2	
		文化と経済		2	
	自然科学	統計学入門		2	○
		生命と進化		2	
		環境と生命		2	
		健康スポーツ科学*		2	
		情報処理技術		2	
		カウンセリング技法		1	
	コミュニケーションの技法	レクリエーション技法		1	
		英語 I	1		
英語 II		1			
英語 III		1			
英語 IV		1			
英語 V			1		
英語 VI			1		
英語 VII		1			
保健科学基幹科目	保健医療概論	1			
	生活保健論	1			
	生命と倫理	2			
	チーム医療演習	1			
	臨床検査概論*		1		
	リハビリテーション概論※		1		
災害時における保健医療		1			
専門基礎科目	生命現象の基礎	人体の構造と機能 I	1		
		人体の構造と機能 II	2		
		人体の構造と機能演習	1		
		生物化学	1		
	健康障害の成り立ち	基礎病態論	1		
		臨床病態論 I	2		
		臨床病態論 II	1		
		臨床病態論 III	1		
		小児病態論	1		
	回復の術	母性病態論	1		
		治療概論	1		
		臨床薬物論	1		
	社会生活と健康	臨床栄養論	1		
		保健行政論		1	○
社会福祉論		2			
医事法規		1			
公衆衛生学		1			
疫学		1	○		
保健統計論		1	○		

授 業 科 目		単位数		保健師国家試験受験資格に必要な科目			
		必修	選択				
看護の基礎	看護の基礎	看護学概論 I	1				
		看護学概論 II	1				
		看護の共通基本技術	1				
		日常生活の援助技術	3				
		看護過程展開の技術	2				
		診断・治療における看護	1				
		看護マネジメント論	1				
		基礎看護実習 I	1				
		基礎看護実習 II	2				
		社会生活と看護	社会生活と看護	公衆衛生看護概論	2		
				在宅看護論	2		
				在宅看護方法論	2		
				公衆衛生看護活動論		2	○
				術技の開展看護衛生公衆		2	○
健康教育論	1			○			
公衆衛生看護管理論	2			○			
国際保健活動論	1						
学校・産業保健				1	○		
在宅看護実習	2						
公衆衛生看護実習 I		1	○				
公衆衛生看護実習 II A		2	○				
公衆衛生看護実習 II B		2	○				
公衆衛生看護実習 III		1	○				
健康と看護	健康と看護	成人看護論 I	2				
		成人看護論 II 急性期	2				
		成人看護論 III 慢性期	2				
		成人看護実習 I	3				
		成人看護実習 II	3				
		老年看護論 I	2				
		老年看護論 II	2				
		老年看護実習 I	2				
		老年看護実習 II	2				
		小児看護論 I	2				
		小児看護論 II	2				
		小児看護実習	2				
		母性看護論 I	2				
		母性看護論 II	2				
母性看護実習	2						
精神看護論 I	2						
精神看護論 II	2						
精神看護実習	2						
看護の統合と展開	看護の統合と展開	感染看護論	1				
		看護倫理	1				
		医療安全管理	1				
		課題研究演習 I	1				
		課題研究演習 II	1				
		がん看護論		1			
		ターミナルケア論		1			
		リハビリテーション看護論		1			
		救急看護論	1				
		代替医療	1				
		治験学概論	1				
		看護セミナー I	1				
		看護セミナー II	1				
		特別演習	1				
看護の統合演習 I	1						
看護の統合演習 II	1						
看護総合実習	2						
計		104	61				

「公衆衛生看護実習 I」「公衆衛生看護実習 II A」「公衆衛生看護実習 II B」「公衆衛生看護実習 III」は保健師国家試験受験資格取得予定者のみ履修可

2 看護学科

授 業 科 目			単位数		保健師国家試験受験資格に必要な科目
			必修	選択	
教養科目	コモン・ベーシックス	基礎セミナー	1		
		情報科学	2		
		アカデミックスキルⅠ(入門)	2		
		アカデミックスキルⅡ(基礎)	2		
		アカデミックスキルⅢ(応用)	1		
	スキルアップセミナー		1		
	人文学	哲学	2		
		芸術と人間	2		
		文学入門	2		
		心理学	2		
	社会科学	社会学	2		
		教育学	2		
		法と人間	2		
		環境と経済	2		
	自然科学	文化と経済	2		
		統計学入門	2	○	
		生命と進化	2		
		環境と生命	2		
	コミュニケーションの技法	健康スポーツ科学	2		
		情報処理技術	2		
		カウンセリング技法	1		
		レクリエーション技法	1		
		英語Ⅰ	1		
		英語Ⅱ	1		
		英語Ⅲ	1		
		英語Ⅳ	1		
		英語Ⅴ	1		
英語Ⅵ		1			
英語Ⅶ	1				
保健科学基幹科目	保健医療概論	1			
	生活保健論	1			
	臨床検査概論	1			
	リハビリテーション概論	1			
	災害時における保健医療	1			
	生命と倫理	2			
専門基礎科目	チーム医療演習	1			
	生命現象の基礎	人体の構造と機能Ⅰ	1		
		人体の構造と機能Ⅱ	2		
		人体の構造と機能演習	1		
		生化学	1		
	微生物学	1			
	健康障害の成り立ち	基礎病態論	1		
		臨床病態論Ⅰ(内科学総論・各論)	2		
		臨床病態論Ⅱ(精神神経・皮膚・感染症)	1		
		臨床病態論Ⅲ(感覚・運動・生殖器)	1		
回復の技術	臨床病態論Ⅳ(母性・小児)	1			
	治療概論	1			
	臨床薬物論	1			
社会生活と健康	臨床栄養論	1			
	保健行政論	1	○		
	社会福祉論	1			
	医事法規	1			
	公衆衛生学	1		○	
	疫学	1		○	
保健統計論	1		○		

授 業 科 目			単位数		保健師国家試験受験資格に必要な科目		
			必修	選択			
看護の基礎	看護学概論Ⅰ	看護学概論Ⅰ	1				
		看護学概論Ⅱ	1				
		看護セミナー	1				
		看護の共通基本技術	1				
		日常生活の援助技術Ⅰ	1				
		日常生活の援助技術Ⅱ	2				
		看護過程展開の技術Ⅰ	1				
		看護過程展開の技術Ⅱ	1				
		診断・治療における看護	1				
		基礎看護実習Ⅰ	1				
		基礎看護実習Ⅱ	2				
		社会生活と看護	在宅看護論	在宅看護論	2		
				在宅看護方法論Ⅰ	1		
				在宅看護実習	2		
在宅看護方法論Ⅱ	1						
公衆衛生看護概論Ⅰ	1						
公衆衛生看護概論Ⅱ	1						
健康教育論	1						
公衆衛生看護方法論	2			○			
学校・産業保健	1			○			
公衆衛生看護活動論Ⅰ	2			○			
公衆衛生看護活動論Ⅱ	1			○			
公衆衛生看護管理論	1			○			
公衆衛生看護実習Ⅰ	3			○			
公衆衛生看護実習Ⅱ	2			○			
健康と看護	成人看護論Ⅰ	成人看護論Ⅰ	1				
		成人看護論Ⅱ急性期	2				
		成人看護論Ⅲ慢性期	2				
		成人看護実習Ⅰ	3				
		成人看護実習Ⅱ	3				
		老年看護論Ⅰ	2				
		老年看護論Ⅱ	2				
		老年看護実習Ⅰ	2				
		老年看護実習Ⅱ	2				
		小児看護論Ⅰ	2				
		小児看護論Ⅱ	2				
		小児看護実習	2				
		母性看護論Ⅰ	2				
		母性看護論Ⅱ	2				
母性看護実習	2						
精神看護論Ⅰ	2						
精神看護論Ⅱ	2						
精神看護実習	2						
看護の統合と展開	看護実践演習Ⅰ	看護実践演習Ⅰ	1				
		看護実践演習Ⅱ	2				
		感染看護論	1				
		がん看護論	1				
		災害看護論	1				
		リハビリテーション看護論	1				
		救急看護論	1				
		看護教育方法論	1				
		看護倫理	1				
		看護管理論	1				
		医療安全管理	1				
		国際看護活動論	1				
		看護研究入門	1				
		看護研究演習Ⅰ	1				
		看護研究演習Ⅱ	1				
		代替医療	1				
		治療学概論	1				
		特別演習	1				
		看護総合実習	2				
		計			109	58	

「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」「公衆衛生看護活動論Ⅱ」は保健師国家試験受験資格取得予定者のみ履修可

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
教 養 科 目	コモン・ベーシックス	ライフサイエンス入門	2	
		基礎セミナー	1	
		情報科学	1	
		現代情報リテラシー	1	
	人 文 科 学	哲 学	2	
		芸 術 と 人 間	2	
		文 学 入 門	2	
	社 会 科 学	心 理 学	2	
		社 会 学	2	
		教 育 学	2	
		法 と 人 間	2	
	自 然 科 学	文 化 と 経 済	2	
		環 境 と 経 済	2	
		統 計 学 入 門	2	
		生 命 と 進 化	2	
	コ ミュ ニ ケー ション の 技 術	環 境 と 生 命	2	
		健 康 ス ポ ー ツ 科 学	2	
		情 報 処 理 技 術	2	
		カウ ンセ リン グ技 術	1	
		レク リエ ーシ ョン 技 術	1	
		英 語 I	1	
		英 語 II	1	
		英 語 III	1	
		英 語 IV	1	
		英 語 V	1	
	英 語 VI	1		
	英 語 VII	1		
	保 健 科 学 基 幹 科 目	保 健 医 療 概 論	1	
		生 活 保 健 論	1	
		生 命 と 倫 理	2	
		チ ー ム 医 療 演 習	1	
		臨 床 検 査 概 論	1	
		看 護 学 概 論	1	
災 害 時 に お け る 保 健 医 療	1			
人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	解 剖 学 I	1		
	解 剖 学 II	2		
	解 剖 学 実 習	2		
	生 理 学 I	1		
	生 理 学 II	1		
	生 理 学 実 習	2		
	基 礎 運 動 学	1		
	臨 床 運 動 学	2		
	運 動 学 実 習	1		
	人 間 発 達 学	1		
	薬 理 学	1		
	病 理 学	病 理 学	1	
		整 形 外 科 学	1	
臨 床 医 学 総 論 I		1		
臨 床 医 学 総 論 II		1		
神 経 内 科 学 I		1		
神 経 内 科 学 II		1		
小 児 科 学		1		
精 神 医 学 I		1		
精 神 医 学 II		1		
リハ ビリ テー ション 医 学		1		
代 替 医 療		1		
臨 床 心 理 学		1		
画 像 診 断 学		1		
救 急 医 学		1		
作 業 療 法 概 論		1		
言 語 聴 覚 学 概 論		1		
保 健 医 療 福 祉 と リ ハ ビ リ テー ション の 理 念		医 療 と 福 祉	1	
	リハ ビリ テー ション 概 論	1		
	関 連 法 規	1		
	衛 生 ・ 公 衆 衛 生 学	1		

授 業 科 目		単位数	
		必修	選択
基 礎 理 学 療 法 学	理 学 療 法 学 総 論	1	
	理 学 療 法 学 演 習	1	
	基 礎 理 学 療 法 学	1	
	理 学 療 法 研 究 法	1	
	理 学 療 法 管 理 ・ 運 営 学	1	
	理 学 療 法 セ ミ ナ ー I	1	
	理 学 療 法 セ ミ ナ ー II	1	
理 学 療 法 評 価 学	理 学 療 法 評 価 学 I	1	
	理 学 療 法 評 価 学 II	2	
	理 学 療 法 評 価 学 III	2	
理 学 療 法 治 療 学	運 動 器 理 学 療 法 学	1	
	運 動 器 理 学 療 法 学 演 習	2	
	神 経 系 理 学 療 法 学 I	2	
	神 経 系 理 学 療 法 学 II	1	
	内 部 障 害 系 理 学 療 法 学	1	
	発 達 障 害 系 理 学 療 法 学	1	
	呼 吸 器 系 理 学 療 法 学	1	
	循 環 器 系 理 学 療 法 学	1	
	物 理 療 法 学	1	
	物 理 療 法 学 演 習	2	
	義 肢 装 具 学 総 論	1	
	義 肢 装 具 学 I	1	
	義 肢 装 具 学 II	1	
	生 活 技 術 学	1	
	生 活 技 術 学 演 習	1	
	徒 手 療 法 学 I	1	
	徒 手 療 法 学 II		1
徒 手 療 法 学 III		1	
ス ポ ー ツ 理 学 療 法 学		1	
障 害 者 ス ポ ー ツ 指 導 論		1	
高 次 脳 機 能 障 害 理 学 療 法		1	
リハ ビリ テー ション 工 学		1	
介 護 予 防 と 理 学 療 法		1	
地 域 理 学 療 法 学	地 域 理 学 療 法 学 概 論	2	
	生 活 環 境 支 援 系 理 学 療 法 学	1	
	生 活 環 境 支 援 系 理 学 療 法 学 演 習	1	
臨 床 実 習	臨 床 見 学 実 習	1	
	臨 床 検 査 測 定 実 習	2	
	臨 床 評 価 実 習	3	
	臨 床 総 合 実 習 I	7	
	臨 床 総 合 実 習 II	7	
卒 業 研 究	理 学 療 法 学 総 合 演 習	1	
	卒 業 研 究	4	
計		104	48

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
教 養 科 目	コモン・ベーシックス	基礎セミナー	1	
		情報科学	2	
		アカデミックスキルⅠ(入門)	2	
		アカデミックスキルⅡ(基礎)	2	
		アカデミックスキルⅢ(応用)	1	
	スキルアップセミナー		1	
	人 文 科 学	哲 学	2	
		芸 術 と 人 間	2	
		文 学 入 門	2	
	社会科学	心 理 学	2	
		社 会 学	2	
		教 育 学	2	
		法 と 人 間	2	
	自 然 科 学	環 境 と 経 済	2	
		文 化 と 経 済	2	
		統 計 学 入 門	2	
		生 命 と 進 化	2	
	コミュニケーションの技	環 境 と 生 命	2	
		健 康 ス ポ ー ツ 科 学	2	
		情 報 処 理 技 術	2	
		カ ウ ン セ リ ン グ 技 法	1	
		レ ク リ エ ー シ ョ ン 技 法	1	
		英 語 Ⅰ	1	
		英 語 Ⅱ	1	
		英 語 Ⅲ	1	
		英 語 Ⅳ	1	
		英 語 Ⅴ	1	
英 語 Ⅵ	1			
英 語 Ⅶ	1			
保健科学基幹科目	保 健 医 療 概 論	1		
	生 活 保 健 論	1		
	臨 床 検 査 概 論	1		
	看 護 学 概 論	1		
	災 害 時 に お け る 保 健 医 療	1		
	生 命 と 倫 理	2		
人体の構造と機能及び心身の発達	チ ーム 医 療 演 習	1		
	解 剖 学 Ⅰ	1		
	解 剖 学 Ⅱ	2		
	解 剖 学 実 習	2		
	生 理 学 Ⅰ	1		
	生 理 学 Ⅱ	1		
	生 理 学 実 習	2		
	基 礎 運 動 学	1		
	臨 床 運 動 学	2		
	運 動 学 実 習	1		
	人 間 発 達 学	1		
	薬 理 学	1		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病 理 学	1	
整 形 外 科 学		1		
臨 床 医 学 総 論 Ⅰ		1		
臨 床 医 学 総 論 Ⅱ		1		
神 経 内 科 学 Ⅰ		1		
神 経 内 科 学 Ⅱ		1		
小 児 科 学		1		
精 神 医 学 Ⅰ		1		
精 神 医 学 Ⅱ		1		
リハビリテーション医学		1		
代 替 医 療		1		
臨 床 心 理 学		1		
画 像 診 断		1		
救 急 医 学		1		
作 業 療 法 概 論		1		
言 語 聴 覚 学 概 論	1			
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医 療 と 福 祉	1		
	リハビリテーション概論	1		
	関 連 法 規	1		
衛 生 ・ 公 衆 衛 生 学	1			

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
基礎理学療法学	理 学 療 法 学 総 論	1		
	理 学 療 法 学 演 習	1		
	基 礎 理 学 療 法 学	1		
	理 学 療 法 研 究 法	1		
	理 学 療 法 管 理 ・ 運 営 学	1		
	理 学 療 法 セ ミ ナ ー Ⅰ	1		
	理 学 療 法 セ ミ ナ ー Ⅱ	1		
	理 評 学 療 法 学	理 学 療 法 評 価 学 Ⅰ	1	
		理 学 療 法 評 価 学 Ⅱ	2	
		理 学 療 法 評 価 学 Ⅲ	2	
	理学療法治療学	運 動 器 理 学 療 法 学	1	
		運 動 器 理 学 療 法 学 演 習	2	
		神 経 系 理 学 療 法 学 Ⅰ	2	
		神 経 系 理 学 療 法 学 Ⅱ	1	
		内 部 障 害 系 理 学 療 法 学	1	
		発 達 障 害 系 理 学 療 法 学	1	
		呼 吸 器 系 理 学 療 法 学	1	
循 環 器 系 理 学 療 法 学		1		
物 理 療 法 学		1		
物 理 療 法 学 演 習		2		
義 肢 装 具 学 総 論		1		
義 肢 装 具 学 Ⅰ		1		
義 肢 装 具 学 Ⅱ		1		
生 活 技 術 学		1		
生 活 技 術 学 演 習		1		
徒 手 療 法 学 Ⅰ		1		
徒 手 療 法 学 Ⅱ		1		
徒 手 療 法 学 Ⅲ	1			
ス ポ ー ツ 理 学 療 法 学	1			
障 害 者 ス ポ ー ツ 指 導 論	1			
高 次 脳 機 能 障 害 理 学 療 法	1			
リハビリテーション工学	1			
介 護 予 防 と 理 学 療 法	1			
地 域 理 学 療 法 学	地 域 理 学 療 法 学 概 論	2		
	生 活 環 境 支 援 系 理 学 療 法 学	1		
	生 活 環 境 支 援 系 理 学 療 法 学 演 習	1		
臨 床 実 習	臨 床 見 学 実 習	1		
	臨 床 検 査 測 定 実 習	2		
	臨 床 評 価 実 習	3		
	臨 床 総 合 実 習 Ⅰ	7		
	臨 床 総 合 実 習 Ⅱ	7		
卒 業 研 究	理 学 療 法 学 総 合 演 習	1		
	卒 業 研 究	4		
計		107	49	

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
教 養 科 目	コモン・ベーシックス	基礎セミナー	1	
		情報科学	2	
		アカデミックスキルⅠ(入門)	2	
		アカデミックスキルⅡ(基礎)	2	
		アカデミックスキルⅢ(応用)	1	
	スキルアップセミナー		1	
	人 文 科 学	哲学		2
		芸術と人間		2
		文学入門		2
	社 会 科 学	心理学		2
社会学			2	
教育			2	
法と人間			2	
自 然 科 学	環境と経済		2	
	文化と経済		2	
	統計学入門		2	
	生命と進化		2	
コミュニケーションの技	環境と生命		2	
	健康スポーツ科学		2	
	情報処理技術		2	
	カウンセリング技法		1	
	レクリエーション技法		1	
	英語Ⅰ	1		
	英語Ⅱ	1		
英語Ⅲ	1			
保健科学基幹科目	英語Ⅳ	1		
	英語Ⅴ	1		
	英語Ⅵ	1		
	英語Ⅶ	1		
	保健医療概論	1		
	生活保健論	1		
専 門 基 礎 科 目	臨床検査概論	1		
	看護学概論	1		
	災害時における保健医療	1		
	生命と倫理	2		
	チーム医療演習	1		
	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	
		解剖学Ⅱ	2	
		解剖学演習	2	
		生理学Ⅰ	1	
		生理学Ⅱ	1	
理学実習Ⅱ		2		
基礎運動学		1		
臨床運動学	2			
運動学実習	1			
人間発達学	1			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	1		
	薬理学	1		
	画像診断学	1		
	臨床医学総論Ⅰ	1		
	臨床医学総論Ⅱ	1		
	リハビリテーション医学	1		
	救急救命医学	1		
	臨床心理学	1		
	精神医学	1		
	整形外科学	1		
	神経内科学	1		
	小児科学	1		
	代替医療	1		
作業療法概論	1			
言語聴覚学概論	1			
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医療と福祉	1		
	リハビリテーション概論	1		
	関連法規	1		
衛生・公衆衛生学	1			

授 業 科 目		単位数	
		必修	選択
基礎理学療法学	理学療法学総論	1	
	基礎理学療法学	1	
	理学療法総合演習	1	
	理学療法研究法	2	
	理学療法セミナー	1	
理学療法管理学	基礎理学療法管理・運営学	1	
	応用理学療法管理・運営学	1	
理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	2	
	理学療法評価学Ⅱ	2	
	理学療法評価学Ⅲ	2	
理学療法治療学	運動器理学療法学	1	
	運動器理学療法演習	2	
	神経系理学療法学Ⅰ	2	
	神経系理学療法学Ⅱ	1	
	内部障害系理学療法学	1	
	呼吸器系理学療法学	1	
	循環器系理学療法学	1	
	発達障害系理学療法学	1	
	徒手療法学Ⅰ	1	
	徒手療法学Ⅱ		1
	徒手療法学Ⅲ		1
	物理療法学	1	
	物理療法学演習	1	
	義肢学	1	
	装具学	1	
	生活技術学	1	
	スポーツ理学療法学		1
障害者スポーツ指導論		1	
高次脳機能障害理学療法		1	
摂食嚥下理学療法学		1	
リハビリテーション工学		1	
地域理学療法学	地域理学療法学	2	
	生活環境支援系理学療法学	1	
臨床実習	臨床見学実習	1	
	臨床評価実習	4	
	臨床総合実習Ⅰ	7	
	臨床総合実習Ⅱ	8	
地域実習	2		
卒業研究	卒業研究	3	
計		105	47

3 リハビリテーション学科 理学療法専攻

令和4年度以降入学生

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	自由
教 養 科 目	コモン・ベーシックス	基礎セミナー	1	
		情報科学	2	
		アカデミックスキルⅠ(入門)	2	
		アカデミックスキルⅡ(基礎)	2	
		アカデミックスキルⅢ(応用)	1	
	人 文 科 学	スキルアップセミナー		1
		哲学		2
		芸術と人間		2
	社 会 科 学	文学入門		2
		心理学		2
		社会学		2
		社会と人間		2
	自 然 科 学	環境と経済		2
		文化と経済		2
		統計学入門		2
生命と進化			2	
環境と生命			2	
コミュニケーションの技	健康スポーツ科学		2	
	情報処理技術		2	
	カウンセリング技法		1	
	レクリエーション技法		1	
	英語Ⅰ	1		
	英語Ⅱ	1		
	英語Ⅲ	1		
	英語Ⅳ	1		
保健科学基幹科目	英語Ⅴ		1	
	英語Ⅵ		1	
	英語Ⅶ		1	
	保健医療概論	1		
	生活保健論	1		
	臨床検査概論		1	
	看護学概論		1	
専 門 基 礎 科 目	災害時における保健医療		1	
	生命と倫理	2		
	チーム医療演習	1		
	解剖学Ⅰ	1		
	解剖学Ⅱ	2		
	解剖学演習	2		
	生理学Ⅰ	1		
	生理学Ⅱ	1		
	生理学実習	2		
	基礎運動学	1		
臨床運動学	2			
運動学実習	1			
人間発達学	1			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	1		
	薬理学	1		
	画像診断学	1		
	臨床医学総論Ⅰ	1		
	臨床医学総論Ⅱ	1		
	リハビリテーション医学	1		
	救急救命医学	1		
	臨床心理学	1		
	精神医学	1		
	整形外科学	1		
	神経内科学	1		
	小児科学	1		
	代替医療		1	
	作業療法概論		1	
	言語聴覚学概論		1	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医療と福祉	1		
	リハビリテーション概論	1		
	関連法規	1		
衛生・公衆衛生学	1			

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	自由
基礎理学療法学	理学療法学総論	理学療法学総論	1	
		基礎理学療法学	1	
		理学療法総合演習	1	
		理学療法研究法	2	
		理学療法セミナー	1	
理学療法管理学	基礎理学療法管理・運営学	基礎理学療法管理・運営学	1	
		応用理学療法管理・運営学	1	
理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価学Ⅰ	2	
		理学療法評価学Ⅱ	2	
		理学療法評価学Ⅲ	2	
理学療法治療学	運動器理学療法学	運動器理学療法学	1	
		運動器理学療法学演習	2	
		神経系理学療法学Ⅰ	2	
		神経系理学療法学Ⅱ	1	
		内部障害系理学療法学	1	
		呼吸器系理学療法学	1	
		循環器系理学療法学	1	
		発達障害系理学療法学	1	
		徒手療法学Ⅰ	1	
		徒手療法学Ⅱ		1
		徒手療法学Ⅲ		1
		物理療法学	1	
		物理療法学演習	1	
		義肢学	1	
		装具学	1	
		生活技術学	1	
		スポーツ理学療法学		1
		障害者スポーツ指導論		1
		高次脳機能障害理学療法		1
		摂食嚥下理学療法学		1
リハビリテーション工学		1		
スポーツデータサイエンス論		1		
スポーツトレーニング論		1		
健康スポーツ心理学		1		
アスリートサポート演習		1		
スポーツコンディショニング演習		1		
地域理学療法学	地域理学療法学	地域理学療法学	2	
		生活環境支援系理学療法学	1	
臨床実習	臨床見学実習	臨床見学実習	1	
		臨床評価実習	4	
		臨床総合実習Ⅰ	7	
		臨床総合実習Ⅱ	8	
		地域実習	2	
卒業研究	卒業研究	3		
計		105	47	5

4 リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻

授 業 科 目		単位数	
		必修	選択
教 養 科 目	コモン・ベーシックス	ライフサイエンス入門	2
		基礎セミナー	1
		情報科学	1
		現代情報リテラシー	1
	人 文 科 学	哲 学	2
		芸 術 と 人 間	2
		文 学 入 門	2
		心 理 学	2
	社会科学	社 会 学	2
		教 育 学	2
		法 と 人 間	2
		文 化 と 経 済	2
	自 然 科 学	環 境 と 生 命	2
		統 計 学 入 門	2
		生 命 と 進 化	2
		環 境 と 生 命	2
	コミュニケーションの技	健 康 ス ポ ー ツ 科 学	2
		情 報 処 理 技 術	2
		カウ ン セ リ ン グ 技 法	1
		レ ク リ エ ー シ ョ ン 技 法	1
		英 語 I	1
		英 語 II	1
		英 語 III	1
		英 語 IV	1
		英 語 V	1
		英 語 VI	1
	英 語 VII	1	
保健科学基幹科目	保 健 医 療 概 論	1	
	生 活 保 健 論	1	
	生 命 と 倫 理	2	
	チ ー ム 医 療 演 習	1	
	臨 床 検 査 概 論	1	
	看 護 学 概 論	1	
災 害 時 に お け る 保 健 医 療	1		
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能及び心身の発達	解 剖 学 I	1
		解 剖 学 II	2
		解 剖 学 実 習	2
		生 理 学 I	1
		生 理 学 II	1
		生 理 学 実 習	2
		基 礎 運 動 学	1
		臨 床 運 動 学	2
		運 動 学 実 習	1
		人 間 発 達 学	1
		薬 理 学	1
		病 理 学	1
		整 形 外 科 学	1
		臨 床 医 学 総 論 I	1
臨 床 医 学 総 論 II	1		
神 経 内 科 学 I	1		
神 経 内 科 学 II	1		
小 児 科 学	1		
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精 神 医 学 I	1	
	精 神 医 学 II	1	
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 医 学	1	
	代 替 医 療	1	
	臨 床 心 理 学	1	
	画 像 診 断 学	1	
	救 急 医 学	1	
	理 学 療 法 概 論	1	
	言 語 聴 覚 学 概 論	1	
	医 療 と 福 祉	1	
保健医療福祉とリハビリテーションの理	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 概 論	1	
	関 連 法 規	1	
	衛 生 ・ 公 衆 衛 生 学	1	

授 業 科 目		単位数	
		必修	選択
専 門 科 目	基礎作業療法学	作 業 療 法 学 総 論	1
		基 礎 作 業 学 I	1
		基 礎 作 業 学 II	2
		基 礎 作 業 学 技 法 I ※	2
		基 礎 作 業 学 技 法 II ※	2
		研 究 法 入 門 I	1
		研 究 法 入 門 II	1
	作業療法評価学	作 業 療 法 研 究 法	1
		作 業 療 法 集 中 セ ミ ナ ー	1
		作 業 療 法 評 価 学 I	1
		作 業 療 法 評 価 学 II	1
	作業治療学	作 業 療 法 評 価 学 III	1
		作 業 療 法 評 価 学 セ ミ ナ ー	1
		生 活 環 境 学	1
		身 体 活 動 序 論	1
		身 体 障 害 作 業 療 法 学 I	1
		身 体 障 害 作 業 療 法 学 II	1
		身 体 障 害 作 業 療 法 学 III	1
		精 神 機 能 作 業 療 法 学 I	1
		精 神 機 能 作 業 療 法 学 II	1
		精 神 機 能 作 業 療 法 学 III	1
	地域作業学	発 達 障 害 作 業 療 法 学 I	1
		発 達 障 害 作 業 療 法 学 II	1
		高 齢 期 作 業 療 法 学 I	1
		高 齢 期 作 業 療 法 学 II	1
		高 次 脳 機 能 概 論	1
		高 次 脳 機 能 障 害 作 業 療 法 学	2
義 肢 装 具 学		1	
義 肢 適 応 論 ※		2	
装 具 適 応 論 ※		2	
福 祉 住 環 境 論		2	
作 業 療 法 治 療 学 セ ミ ナ ー	2		
作 業 療 法 特 講	2		
臨床実習	地 域 作 業 療 法 学 I	1	
	地 域 作 業 療 法 学 II	1	
	地 域 作 業 療 法 学 III	1	
	福 祉 用 具 論 I	1	
	福 祉 用 具 論 II	2	
	地 域 実 習	3	
卒業研究	作 業 療 法 学 入 門 実 習 I	1	
	作 業 療 法 学 入 門 実 習 II	1	
	評 価 実 習	2	
	臨 床 実 習 I	8	
計	臨 床 実 習 II	8	
	卒 業 研 究	4	
作 業 療 法 学 総 合 演 習		1	
計		102	57

4 リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
教養科目	コモン・ベーシックス	基礎セミナー	1	
		情報科学	2	
		アカデミックスキルⅠ(入門)	2	
		アカデミックスキルⅡ(基礎)	2	
		アカデミックスキルⅢ(応用)	1	
		スキルアップセミナー	1	
	人文学	哲学	2	
		芸術と人間	2	
		文学入門	2	
	社会科学	心理学	2	
		社会学	2	
		教育学	2	
		法と人間	2	
		環境と経済	2	
	自然科学	文化と経済	2	
		統計学入門	2	
		生命と進化	2	
		環境と生命	2	
		健康スポーツ科学	2	
	コミュニケーションの技	情報処理技術	2	
		カウンセリング技法	1	
		レクリエーション技法	1	
		英語Ⅰ	1	
		英語Ⅱ	1	
		英語Ⅲ	1	
		英語Ⅳ	1	
		英語Ⅴ	1	
		英語Ⅵ	1	
		英語Ⅶ	1	
	保健科学基幹科目	保健医療概論	1	
		生活保健論	1	
		臨床検査概論	1	
		看護学概論	1	
		災害時における保健医療	1	
		生命と倫理	2	
専門基礎科目	チーム医療演習	1		
	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	
		解剖学Ⅱ	2	
		解剖学実習	2	
	生理学Ⅰ	1		
	生理学Ⅱ	1		
	生理学実習	2		
	基礎運動学	1		
	臨床運動学	2		
	運動学実習	1		
	人間発達学	1		
	薬理学	1		
	専門基礎科目	病理学	1	
整形外科学		1		
臨床医学総論Ⅰ		1		
臨床医学総論Ⅱ		1		
神経内科学Ⅰ		1		
神経内科学Ⅱ		1		
小児科学		1		
精神医学Ⅰ		1		
精神医学Ⅱ		1		
リハビリテーション医学		1		
代替医療		1		
臨床心理学		1		
画像診断学		1		
救急医学	1			
理学療法概論	1			
言語聴覚学概論	1			
保健医療福祉の理念	医療と福祉	1		
	リハビリテーション概論	1		
	関連法規	1		
	衛生・公衆衛生学	1		

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
専門科目	基礎作業療法学	作業療法学総論	1	
		基礎作業学Ⅰ	1	
		基礎作業学Ⅱ	2	
		基礎作業学技法Ⅰ	2	
		基礎作業学技法Ⅱ	2	
		研究法入門Ⅰ	1	
		研究法入門Ⅱ	1	
		作業療法研究法	1	
		作業療法集中セミナー	1	
		作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	1
	作業療法評価学Ⅱ		1	
	作業療法評価学Ⅲ		1	
	作業療法評価学セミナー		1	
	生活環境学		1	
	作業治療学	身体活動序論	1	
		身体障害作業療法学Ⅰ	1	
		身体障害作業療法学Ⅱ	1	
		身体障害作業療法学Ⅲ	1	
		精神機能作業療法学Ⅰ	1	
		精神機能作業療法学Ⅱ	1	
		精神機能作業療法学Ⅲ	1	
		発達障害作業療法学Ⅰ	1	
		発達障害作業療法学Ⅱ	1	
		高齢期作業療法学Ⅰ	1	
		高齢期作業療法学Ⅱ	1	
		高次脳機能概論	1	
		高次脳機能障害作業療法学	2	
		義肢装具学	1	
		義肢適応論	1	
	装具適応論	1		
	福祉住環境論	2		
	作業療法治療学セミナー	2		
	作業療法特講	2		
	地域作業学	地域作業療法学Ⅰ	1	
		地域作業療法学Ⅱ	1	
地域作業療法学Ⅲ		1		
福祉用具論Ⅰ		1		
臨床実習	福祉用具論Ⅱ	2		
	地域実習	3		
	作業療法学入門実習Ⅰ	1		
卒業研究	作業療法学入門実習Ⅱ	1		
	評価実習	2		
	臨床実習Ⅰ	8		
	臨床実習Ⅱ	8		
計	卒業研究	4		
	作業療法学総合演習	1		
計		105	58	

4 リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻

令和2年度以降入学生

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
教 養 科 目	コモン・ベーシックス	基礎セミナー	1	
		情報科学	2	
		アカデミックスキルⅠ(入門)	2	
		アカデミックスキルⅡ(基礎)	2	
		アカデミックスキルⅢ(応用)	1	
		スキルアップセミナー		1
	人 文 科 学	哲学		2
		芸術と人間		2
		文学入門		2
		心理学		2
	社 会 科 学	社会学		2
		教育学		2
		法と人間		2
		環境と経済		2
		文化と経済		2
	自 然 科 学	統計学入門		2
		生命と進化		2
		環境と生命		2
		健康スポーツ科学		2
		情報処理技術		2
	コミュニケーションの技	カウンセリング技法		1
		レクリエーション技法		1
		英語Ⅰ	1	
		英語Ⅱ	1	
		英語Ⅲ	1	
英語Ⅳ		1		
英語Ⅴ			1	
英語Ⅵ			1	
保健科学基幹科目	保健医療概論	1		
	生活保健論	1		
	臨床検査概論		1	
	看護学概論		1	
	災害時における保健医療		1	
	生命と倫理	2		
	チーム医療演習	1		
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1		
	解剖学Ⅱ	2		
	解剖学演習	2		
	生理学Ⅰ	1		
	生理学Ⅱ	1		
	生理学演習	1		
	基礎運動学	1		
	臨床運動学	2		
	運動学演習	1		
	基礎医学総合セミナー		2	
	人間発達学	1		
専門基礎科目	病理学	1		
	薬理学	1		
	整形外科学	1		
	臨床医学総論Ⅰ	1		
	臨床医学総論Ⅱ	1		
	神経内科学	1		
	精神・心理系リハビリテーション学	1		
	小児科学	1		
	精神医学	1		
	リハビリテーション医学	1		
	代替医療		1	
	臨床心理学	1		
	画像診断学	1		
	救急救命医学	1		
	理学療法概論		1	
言語聴覚学概論		1		
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医療と福祉	1		
	リハビリテーション概論	1		
	関連法規	1		
	衛生・公衆衛生学	1		

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
専 門 科 目	基礎作業療法学	作業療法学総論	1	
		基礎作業学	2	
		基礎作業学技法	2	
		作業療法臨床倫理学		1
		作業療法集中セミナー		2
	作業療法管理学	作業療法基礎管理学	1	
		作業療法管理学	1	
	作業療法評価学	身体機能基礎評価学	2	
		疾患別身体機能評価学	1	
		精神機能評価学	1	
		日常生活活動評価学	1	
	作業療法治療学	作業療法入門セミナー	1	
		基礎身体機能作業療法学	1	
		臨床身体機能作業療法学	1	
		疾患別身体機能作業療法学	1	
		障害者スポーツ指導論		1
		基礎精神機能作業療法学	1	
		応用精神機能作業療法学	1	
		臨床精神機能作業療法学	1	
		基礎発達支援作業療法学	1	
		応用発達支援作業療法学	1	
		老年期作業療法学	1	
		基礎高次脳機能作業療法学	1	
		応用高次脳機能作業療法学	1	
		義肢装具学	1	
装具適応論			1	
作業療法総合臨床基礎演習		2		
作業療法総合臨床演習		2		
先端作業療法学		1		
作業療法学総合セミナー	2			
地域作業療法学	基礎地域作業療法学	1		
	応用地域作業療法学	1		
	地域作業療法学演習	1		
臨床実習	福祉用具・住環境論	1		
	見学実習	1		
	地域実習	2		
	評価実習	4		
卒業研究	総合臨床実習(秋期)	9		
	総合臨床実習(春期)	9		
	作業療法研究法入門		1	
	作業療法研究法	1		
	卒業研究	3		
計		111	49	

5 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
教 養 科 目	コモン・ベーシックス	ライフサイエンス入門	2	
		基礎セミナー	1	
		情報科学	1	
		現代情報リテラシー	1	
	人 文 科 学	哲学	2	
		芸術と人間	2	
		文学入門	2	
	社会科学	心理学	2	
		社会学	2	
		教育学	2	
		法と人間	2	
	自 然 科 学	文化と経済	2	
		環境と経済	2	
		統計学入門	2	
		生命と進化	2	
	コミュニケーションの技	環境と生命	2	
		健康スポーツ科学	2	
		情報処理技術	2	
		カウンセリング技法	1	
		レクリエーション技法	1	
		英語 I	1	
		英語 II	1	
		英語 III	1	
	英語 IV	1		
	保健科学基幹科目	英語 V	1	
		英語 VI	1	
		英語 VII	1	
		保健医療概論	1	
		生活保健論	1	
		生命と倫理	2	
	専 門 基 礎 科 目	チーム医療演習	1	
		臨床検査概論	1	
		看護学概論	1	
		災害時における保健医療	1	
		人体の構造と機能及び心身の発達	解剖・生理学	1
音声言語医学			2	
聴覚医学			1	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		人間発達学	1	
		病理学	1	
		内科学	1	
	神経内科学	1		
	小児科学	1		
	精神医学	1		
	耳鼻咽喉科学	1		
	歯科・口腔外科学	1		
	形成外科学	1		
リハビリテーション医学	1			
心理と言語の科学	認知心理学	1		
	臨床心理学	1		
	言語心理学	1		
	心理測定法	1		
	言語学	2		
	音声学	2		
	音響学	1		
	聴覚心理学	1		
言語発達学	1			
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1		
	理学療法概論	1		
	作業療法概論	1		
	社会福祉	1		
衛生・公衆衛生学	1			

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
専 門 科 目	言語聴覚学総論	言語聴覚学総論 I	2	
		言語聴覚学総論 II	2	
		言語聴覚学特殊講義 I	2	
		言語聴覚学特殊講義 II	1	
		言語聴覚学特殊講義 III	1	
		言語聴覚学特殊講義 IV	1	
		言語聴覚学総合演習 I	2	
	言語聴覚学総合演習 II	2		
	言語聴覚障害診断学	言語聴覚障害診断学	2	
		言語聴覚障害診断学演習 I	1	
		言語聴覚障害診断学演習 II	1	
	失語・高次脳機能障害	失語症学総論	1	
		失語症学 I	1	
		失語症学 II	2	
		失語症学 III	1	
		高次脳機能障害学総論	1	
		高次脳機能障害学 I	1	
		高次脳機能障害学 II	1	
	言語発達障害学	言語発達障害学総論	1	
		言語発達障害学 I	1	
		言語発達障害学 II	1	
		言語発達障害学 III	2	
	発声発語・摂食・嚥下障害	言語発達障害学 IV	1	
		発声発語障害学総論	1	
		発声発語障害学 I	1	
		発声発語障害学 II	2	
		発声発語障害学 III	1	
		発声発語障害学 IV	1	
		摂食・嚥下障害学総論	1	
	摂食・嚥下障害学	2		
	聴覚障害学	聴覚障害学総論	1	
		聴覚障害学 I	2	
		聴覚障害学 II	2	
		聴覚障害学 III	1	
	地域言語聴覚学	聴覚障害学 IV	1	
地域言語聴覚学 I		1		
臨床実習	地域言語聴覚学 II	1		
	入門実習	1		
卒業研究	評価実習	3		
	臨床実習	8		
	言語聴覚学研究入門	1		
計	言語聴覚学研究法	2		
	卒業研究	4		
		100	48	

5 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
教養科目	コモン・ベーシックス	基礎セミナー	1	
		情報科学	2	
		アカデミックスキルⅠ(入門)	2	
		アカデミックスキルⅡ(基礎)	2	
		アカデミックスキルⅢ(応用)	1	
		スキルアップセミナー		1
	人文学	哲学	2	
		芸術と人間	2	
		文学入門	2	
		心理学	2	
	社会科学	社会学	2	
		教育学	2	
		法と人間	2	
		環境と経済	2	
		文化と経済	2	
	自然科学	統計学入門	2	
		生命と進化	2	
		環境と生命	2	
		健康スポーツ科学	2	
	コミュニケーションの技	情報処理技術	2	
		カウンセリング技法	1	
		レクリエーション技法	1	
		英語Ⅰ	1	
		英語Ⅱ	1	
		英語Ⅲ	1	
		英語Ⅳ	1	
		英語Ⅴ	1	
		英語Ⅵ	1	
		英語Ⅶ	1	
	保健科学基幹科目	保健医療概論	1	
		生活保健論	1	
		臨床検査概論	1	
		看護学概論	1	
災害時における保健医療		1		
専門基礎科目	生命と倫理	2		
	チーム医療演習	1		
	解剖・生理学	1		
	音声言語医学	2		
	聴覚医学	1		
	人間発達学	1		
	病理学	1		
	内科学	1		
	神経内科学	1		
	小児科学	1		
基礎科目	精神医学	1		
	耳鼻咽喉科学	1		
	歯科・口腔外科学	1		
	形成外科学	1		
	リハビリテーション医学	1		
	認知心理学	1		
	臨床心理学	1		
	言語心理学	1		
心理と言語の科学	心理測定法	1		
	言語学	2		
	音声学	2		
	音響学	1		
	聴覚心理学	1		
	言語発達学	1		
	リハビリテーション概論	1		
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	理学療法概論	1		
	作業療法概論	1		
	社会福祉	1		
	衛生・公衆衛生学	1		

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
専門科目	言語聴覚学総論	言語聴覚学総論Ⅰ	2	
		言語聴覚学総論Ⅱ	2	
		言語聴覚学特殊講義Ⅰ		2
		言語聴覚学特殊講義Ⅱ		1
		言語聴覚学特殊講義Ⅲ		1
		言語聴覚学特殊講義Ⅳ		1
		言語聴覚学総合演習Ⅰ		2
		言語聴覚学総合演習Ⅱ		2
	言語聴覚障害診断学	言語聴覚障害診断学	2	
		言語聴覚障害診断学演習Ⅰ	1	
	失語・高次脳機能障害	言語聴覚障害診断学演習Ⅱ	1	
		失語症学総論	1	
		失語症学Ⅰ	1	
		失語症学Ⅱ	2	
		失語症学Ⅲ	1	
		高次脳機能障害学総論	1	
	言語発達障害学	高次脳機能障害学Ⅰ	1	
		高次脳機能障害学Ⅱ	1	
		言語発達障害学総論	1	
		言語発達障害学Ⅰ	1	
	発声発語・摂食・嚥下障害	言語発達障害学Ⅱ	1	
		言語発達障害学Ⅲ	2	
		言語発達障害学Ⅳ	1	
		発声発語障害学総論	1	
		発声発語障害学Ⅰ	1	
		発声発語障害学Ⅱ	2	
		発声発語障害学Ⅲ	1	
		発声発語障害学Ⅳ	1	
	摂食・嚥下障害学総論	1		
	聴覚障害学	摂食・嚥下障害学	2	
		聴覚障害学総論	1	
		聴覚障害学Ⅰ	2	
		聴覚障害学Ⅱ	2	
地域言語聴覚学	聴覚障害学Ⅲ	1		
	聴覚障害学Ⅳ	1		
臨床実習	地域言語聴覚学Ⅰ	1		
	地域言語聴覚学Ⅱ	1		
卒業研究	入門実習	1		
	評価実習	3		
	臨床実習	8		
計	言語聴覚学研究入門	1		
	言語聴覚学研究法	2		
	卒業研究	4		
計		103	49	

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
教 養 科 目	コモン・ベーシックス	基礎セミナー	1	
		情報科学	2	
		アカデミックスキルⅠ(入門)	2	
		アカデミックスキルⅡ(基礎)	2	
		アカデミックスキルⅢ(応用)	1	
		スキルアップセミナー		1
	人 文 科 学	哲学		2
		芸術と人間		2
		文学入門		2
	社 会 科 学	心理学		2
		社会学		2
		教育学		2
		法と人間		2
		環境と経済		2
	自 然 科 学	文化と経済		2
		統計学入門		2
		生命と進化		2
		環境と生命		2
	コミュニケーションの技	健康スポーツ科学		2
		情報処理技術		2
		カウンセリング技法		1
		レクリエーション技法		1
		英語Ⅰ	1	
		英語Ⅱ	1	
		英語Ⅲ	1	
	英語Ⅳ	1		
	英語Ⅴ	1		
英語Ⅵ	1			
英語Ⅶ	1			
保健科学基幹科目	保健医療概論	1		
	生活保健論	1		
	臨床検査概論		1	
	看護学概論		1	
	災害時における保健医療		1	
	生命と倫理	2		
チーム医療演習	1			
専 門 基 礎 科 目	人体のしくみ・疾病と治療	解剖学・生理学	1	
		音声言語医学	2	
		聴覚医学	1	
		耳鼻咽喉科学	1	
		歯科・口腔外科学	1	
		形成外科学	1	
		内科学	1	
		病理学	1	
		救急救命医学	1	
		神経内科学	1	
		小児科学	1	
		精神医学	1	
		リハビリテーション医学	1	
		心のはたらき・言語とコミュニケーション	人間発達学	1
臨床心理学	1			
認知・学習心理学	1			
神経心理学	1			
心理測定法	1			
言語学	2			
音声学	2			
音響学	1			
聴覚心理学	1			
言語発達学	1			
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1		
	理学療法概論	1		
	作業療法概論	1		
	社会福祉	1		
衛生・公衆衛生学	1			

授 業 科 目		単位数		
		必修	選択	
専 門 科 目	総合言語聴覚学	言語聴覚学総論	2	
		言語聴覚療法マネジメント	1	
		言語聴覚学総合演習	2	
		学校教育連携	1	
		地域言語聴覚学	1	
		小児・成人言語聴覚障害診断学	2	
	言語聴覚障害診断学	言語聴覚障害臨床論	2	
		言語聴覚障害診断学演習	2	
		失語・高次脳機能障害学総論	1	
	失語・高次脳機能障害	失語症学	1	
		失語症学演習Ⅰ(評価)	1	
		失語症学演習Ⅱ(訓練)	1	
		高次脳機能障害学	1	
		高次脳機能障害学演習Ⅰ(評価)	1	
		高次脳機能障害学演習Ⅱ(訓練)	1	
		言語発達障害学総論	1	
	言語発達障害学	言語発達障害学Ⅰ(知的障害)	1	
		言語発達障害学Ⅱ(発達障害)	1	
		言語発達障害学Ⅲ(重複障害)	1	
		言語発達障害学演習	2	
	発声発語・摂食嚥下障害	発声発語・摂食嚥下障害学総論	1	
		成人系発話障害学	1	
		小児系発話障害学	1	
		成人系発話障害学演習	1	
		小児系発話障害学演習	1	
		吃音・流暢性障害学	1	
		音声障害学	1	
摂食嚥下障害学		1		
摂食嚥下障害学演習		1		
聴覚障害学	聴覚障害学総論	1		
	成人系聴覚障害学	2		
	小児系聴覚障害学	2		
	聴覚補償学	2		
言語聴覚先進科学	失語・高次脳機能障害先進科学		2	
	発声発語・聴覚障害先進科学		2	
	吃音・流暢性障害先進科学		2	
	言語発達障害先進科学		2	
	摂食嚥下障害先進科学		2	
	臨床コミュニケーション先進科学		2	
臨床実習	入門実習	1		
	臨床実習Ⅰ(評価)	3		
卒業研究	臨床実習Ⅱ(総合)	8		
	卒業研究Ⅰ(入門)	2		
	卒業研究Ⅱ(実践)	2		
計		104	51	

1 医学検査学科

平成28年度入学生

授業科目の区分		卒業に必要な単位数		
		必修	選択	小計
教養科目	コモン・ベシックス	9 単位	各区分より 1 単位以上 計 17 単位以上	26 単位以上
	人文科学			
	社会科学			
	自然科学			
	コミュニケーションの技法			
保健科学基幹科目		32 単位	4 単位以上 (看護学概論、リハビリテーション概論より1単位以上)	36 単位以上
専門基礎科目	生命科学の基礎			
	人体の構造と機能			
	医学検査の基礎と疾病の理解			
	保健医療福祉と医学検査			
	医療工学・情報科学			
専門科目	形態検査学	48 単位	17単位以上	65 単位以上
	生物化学分析検査学			
	病因・生体防御検査学			
	生理機能検査学			
	検査総合管理学			
	医療安全管理学			
	臨床検査学			
食品科学				
	特別科目			
合計		89 単位	38 単位以上	
総合計		127 単位以上		

1 医学検査学科

平成29～30年度入学生

授業科目の区分		卒業に必要な単位数		
		必修	選択	小計
教養科目	コモン・ベシックス	9 単位	各区分より 1 単位以上 計 17 単位以上	26 単位以上
	人文科学			
	社会科学			
	自然科学			
	コミュニケーションの技法			
保健科学基幹科目		31 単位	4 単位以上 (看護学概論、リハビリテーション概論より1単位以上)	35 単位以上
専門基礎科目	生命科学の基礎			
	人体の構造と機能			
	医学検査の基礎と疾病の理解			
	保健医療福祉と医学検査			
	医療工学・情報科学			
専門科目	形態検査学	59 単位	7単位以上	66 単位以上
	生物化学分析検査学			
	病因・生体防御検査学			
	生理機能検査学			
	検査総合管理学			
	医療安全管理学			
	臨床検査学			
食品科学				
	特別科目			
合計		99 単位	28 単位以上	
総合計		127 単位以上		

1 医学検査学科

平成31年度入学生

授 業 科 目 の 区 分		卒 業 に 必 要 な 単 位 数		
		必 修	選 択	小 計
教養科目	コモン・ベーシックス	12 単位	コモン・ベーシックスを除く各区分より1単位以上計 14 単位以上	26 単位以上
	人 文 科 学			
	社 会 科 学			
	自 然 科 学			
	コミュニケーションの技法			
保 健 科 学 基 幹 科 目		31 単位	4 単位以上 (看護学概論、リハビリテーション概論より1単位以上)	35 単位以上
専門基礎科目	生 命 科 学 の 基 礎			
	人 体 の 構 造 と 機 能			
	医 学 検 査 の 基 礎 と 疾 病 の 理 解			
	保 健 医 療 福 祉 と 医 学 検 査			
	医 療 工 学 ・ 情 報 科 学			
専門科目	形 態 検 査 学	59 単位	7単位以上	66 単位以上
	生 物 化 学 分 析 検 査 学			
	病 因 ・ 生 体 防 御 検 査 学			
	生 理 機 能 検 査 学			
	検 査 総 合 管 理 学			
	医 療 安 全 管 理 学			
	臨 床 検 査 学			
	食 品 科 学			
特 別 科 目				
合 計		102 単位	25 単位以上	
総 合 計		127 単位以上		

1 医学検査学科

令和2年度以降入学生

授 業 科 目 の 区 分		卒 業 に 必 要 な 単 位 数		
		必 修	選 択	小 計
区分	中 区 分			
教養科目	コモン・ベーシックス	12 単位	14単位以上 (人文科学、社会科学、自然科学、コミュニケーションの技法の中区分より各1単位以上)	26 単位以上
	人 文 科 学			
	社 会 科 学			
	自 然 科 学			
	コミュニケーションの技法			
保 健 科 学 基 幹 科 目		31 単位	4 単位以上 (看護学概論、リハビリテーション概論より1単位以上)	35 単位以上
専門基礎科目	生 命 科 学 の 基 礎			
	人 体 の 構 造 と 機 能			
	医 学 検 査 の 基 礎 と 疾 病 の 理 解			
	保 健 医 療 福 祉 と 医 学 検 査			
	医 療 工 学 ・ 情 報 科 学			
専門科目	形 態 検 査 学	59 単位	7単位以上	66 単位以上
	生 物 化 学 分 析 検 査 学			
	病 因 ・ 生 体 防 御 検 査 学			
	生 理 機 能 検 査 学			
	検 査 総 合 管 理 学			
	医 療 安 全 管 理 学			
	臨 床 検 査 学			
	食 品 科 学			
特 別 科 目				
合 計		102 単位	25 単位以上	
総 合 計		127 単位以上		

2 看護学科

平成26～30年度入学生

授業科目の区分		卒業に必要な単位数		
		必修	選択	小計
教養科目	コモン・ベーシックス	9 単位	各区分より 1 単位以上 計 17 単位以上	26 単位以上
	人文科学			
	社会科学			
	自然科学			
	コミュニケーションの技法			
保健科学基幹科目		25 単位	2 単位以上 (臨床検査概論、リハビリテーション概論より 1 単位以上、保健行政論、疫学、保健統計論より 1 単位以上)	27 単位以上
専門基礎科目	生命現象の基礎			
	健康障害の成り立ち			
	回復の援助技術			
	社会生活と健康			
専門科目	看護の基礎	70 単位	2 単位以上	72 単位以上
	社会生活と看護			
	健康と看護			
	看護の統合と展開			
合計		104 単位	21 単位以上	
総合計		125 単位以上		

2 看護学科

平成31年度入学生

授業科目の区分		卒業に必要な単位数		
		必修	選択	小計
教養科目	コモン・ベーシックス	12 単位	コモン・ベーシックスを 除く各区分より1 単位 以上計 14 単位以上	26 単位以上
	人文科学			
	社会科学			
	自然科学			
	コミュニケーションの技法			
保健科学基幹科目		23 単位	2 単位以上 (臨床検査概論、リハビリテーション概論より 1 単位以上、保健行政論、保健統計論より 1 単位以上)	25 単位以上
専門基礎科目	生命現象の基礎			
	健康障害の成り立ち			
	回復の援助技術			
	社会生活と健康			
専門科目	看護の基礎	74 単位	2 単位以上	76 単位以上
	社会生活と看護			
	健康と看護			
	看護の統合と展開			
合計		109 単位	18 単位以上	
総合計		127 単位以上		
保健師国家試験受験資格を取得する場合		141 単位以上		

2 看護学科

令和2年度以降入学生

授 業 科 目 の 区 分		卒 業 に 必 要 な 単 位 数		
区分	中 区 分	必 修	選 択	小 計
教養科目	コ モ ン ・ ベ ー シ ッ ク ス	12 単位	14単位以上 (人文科学、社会科学、自然科学、コミュニケーションの技法の中区分より各1単位以上)	26 単位以上
	人 文 科 学			
	社 会 科 学			
	自 然 科 学			
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 技 法			
保 健 科 学 基 幹 科 目		23 単位	2単位以上 (臨床検査概論、リハビリテーション概論より1単位以上、保健行政論、保健統計論より1単位以上)	25 単位以上
専門基礎科目	生 命 現 象 の 基 礎			
	健 康 障 害 の 成 り 立 ち			
	回 復 の 援 助 技 術			
	社 会 生 活 と 健 康			
専門科目	看 護 の 基 礎	74 単位	2単位以上	76単位以上
	社 会 生 活 と 看 護			
	健 康 と 看 護			
	看 護 の 統 合 と 展 開			
合 計		109 単位	18 単位以上	
総 合 計		127 単位以上		
保健師国家試験受験資格を取得する場合		141単位以上		

3 リハビリテーション学科 理学療法学専攻

平成26～30年度以降入学生

授 業 科 目 の 区 分		卒 業 に 必 要 な 単 位 数		
		必 修	選 択	小 計
教 養 科 目	コ モ ン ・ ベ ー シ ッ ク ス	9 単 位	各区分より 1 単位以上 計 17 単位以上	26 単位以上
	人 文 科 学			
	社 会 科 学			
	自 然 科 学			
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 技 法			
保 健 科 学 基 幹 科 目		35 単 位	2 単位以上 (臨床検査概論、看護学概論より1単位以上)	37 単位以上
専 門 基 礎 科 目	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達			
	疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進			
	保 健 医 療 福 祉 と リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン の 理 念			
専 門 科 目	基 礎 理 学 療 法 学	60 単 位	4 単位以上	64 単位以上
	理 学 療 法 評 価 学			
	理 学 療 法 治 療 学			
	地 域 理 学 療 法 学			
	臨 床 実 習			
	卒 業 研 究			
合 計		104 単 位	23 単位以上	
総 合 計		127 単位以上		

3 リハビリテーション学科 理学療法学専攻

平成31年度入学生

授 業 科 目 の 区 分		卒 業 に 必 要 な 単 位 数		
		必 修	選 択	小 計
教 養 科 目	コ モ ン ・ ベ ー シ ッ ク ス	12 単 位	コモン・ベーシックスを 除く各区分より 1 単位以上 計 14 単位以上	26 単位以上
	人 文 科 学			
	社 会 科 学			
	自 然 科 学			
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 技 法			
保 健 科 学 基 幹 科 目		35 単 位	2 単位以上 (臨床検査概論、看護学概論より1単位以上)	37 単位以上
専 門 基 礎 科 目	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達			
	疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進			
	保 健 医 療 福 祉 と リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン の 理 念			
専 門 科 目	基 礎 理 学 療 法 学	60 単 位	4 単位以上	64 単位以上
	理 学 療 法 評 価 学			
	理 学 療 法 治 療 学			
	地 域 理 学 療 法 学			
	臨 床 実 習			
	卒 業 研 究			
合 計		107 単 位	20 単位以上	
総 合 計		127 単位以上		

3 リハビリテーション学科 理学療法学専攻

令和2年度以降入学生

授 業 科 目 の 区 分		卒 業 に 必 要 な 単 位 数		
区分	中 区 分	必 修	選 択	小 計
教養科目	コ モ ン ・ ベ ー シ ッ ク ス	12 単位	14単位以上 (カウンセリング技法を含み、人文科学、社会科学、自然科学。コミュニケーション技法の中区分より1単位以上)	26 単位以上
	人 文 科 学			
	社 会 科 学			
	自 然 科 学			
	コミュニケーションの技法			
保 健 科 学 基 幹 科 目		35 単位	2 単位以上 (臨床検査概論、看護学概論より1単位以上かつ、専門基礎科目より1単位以上)	37 単位以上
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念			
専門科目	基 礎 理 学 療 法 学	58 単位	4 単位以上	62 単位以上
	理 学 療 法 管 理 学			
	理 学 療 法 評 価 学			
	理 学 療 法 治 療 学			
	地 域 理 学 療 法 学			
	臨 床 実 習			
合 計		105 単位	20 単位以上	
総 合 計		125 単位以上		

4 リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻

平成26～30年度入学生

授 業 科 目 の 区 分		卒 業 に 必 要 な 単 位 数		
		必 修	選 択	小 計
教 養 科 目	コ モ ン ・ ベ ー シ ッ ク ス	9 単 位	各区分より 1 単位以上 計 17 単位以上	26 単位以上
	人 文 科 学			
	社 会 科 学			
	自 然 科 学			
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 技 法			
保 健 科 学 基 幹 科 目		35 単 位	2 単位以上 (臨床検査概論、看護学概論より1単位以上)	37 単位以上
専 門 基 礎 科 目	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達			
	疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進			
	保 健 医 療 福 祉 と リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン の 理 念			
専 門 科 目	基 礎 作 業 療 法 学	58 単 位	6 単位以上	64 単位以上
	作 業 療 法 評 価 学			
	作 業 治 療 学			
	地 域 作 業 療 法 学			
	臨 床 実 習			
	卒 業 研 究			
合 計		102 単 位	25 単位以上	
総 合 計		127 単位以上		

4 リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻

平成31年度入学生

授 業 科 目 の 区 分		卒 業 に 必 要 な 単 位 数		
		必 修	選 択	小 計
教 養 科 目	コ モ ン ・ ベ ー シ ッ ク ス	12 単 位	コモン・ベーシックスを 除く各区分より 1 単位以上 計 14 単位以上	26 単位以上
	人 文 科 学			
	社 会 科 学			
	自 然 科 学			
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 技 法			
保 健 科 学 基 幹 科 目		35 単 位	2 単位以上 (臨床検査概論、看護学概論より1単位以上)	37 単位以上
専 門 基 礎 科 目	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達			
	疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進			
	保 健 医 療 福 祉 と リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン の 理 念			
専 門 科 目	基 礎 作 業 療 法 学	58 単 位	6 単位以上	64 単位以上
	作 業 療 法 評 価 学			
	作 業 治 療 学			
	地 域 作 業 療 法 学			
	臨 床 実 習			
	卒 業 研 究			
合 計		105 単 位	22 単位以上	
総 合 計		127 単位以上		

4 リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻

令和2年度以降入学生

授 業 科 目 の 区 分		卒 業 に 必 要 な 単 位 数		
区分	中 区 分	必 修	選 択	小 計
教養科目	コモン・ベーシックス	12 単位	14単位以上 (カウンセリング技法を含み、人文科学、社会科学、自然科学、コミュニケーション技法の中区分より1単位以上)	26 単位以上
	人 文 科 学			
	社 会 科 学			
	自 然 科 学			
	コミュニケーションの技法			
保 健 科 学 基 幹 科 目		35 単位	1 単位以上 (臨床検査概論、看護学概論より1単位以上)	36 単位以上
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念			
専門科目	基 礎 作 業 療 法 学	64 単位	2 単位以上	66 単位以上
	作 業 療 法 管 理 学			
	作 業 療 法 評 価 学			
	作 業 療 法 治 療 学			
	地 域 作 業 療 法 学			
	臨 床 実 習			
合 計		111 単位	17 単位以上	
総 合 計		128 単位以上		

5 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

平成26～30年度入学生

授 業 科 目 の 区 分		卒 業 に 必 要 な 単 位 数		
		必 修	選 択	小 計
教養科目	コモン・ベーシックス	9 単位	17 単位以上 (心理学、統計学入門、健康スポーツ科学を含み、各区分より人文科学4単位以上、社会科学4単位以上、自然科学6単位以上、他は1単位以上)	26 単位以上
	人 文 科 学			
	社 会 科 学			
	自 然 科 学			
	コミュニケーションの技法			
保 健 科 学 基 幹 科 目		33 単位	2 単位以上 (臨床検査概論、看護学概論より1単位以上)	35 単位以上
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進			
	心 理 と 言 語 の 科 学			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念			
専門科目	言 語 聴 覚 学 総 論	58 単位	8 単位以上	66 単位以上
	言 語 聴 覚 障 害 診 断 学			
	失 語 ・ 高 次 脳 機 能 障 害 学			
	言 語 発 達 障 害 学			
	発 声 発 語 ・ 摂 食 ・ 嚥 下 障 害 学			
	聴 覚 障 害 学			
	地 域 言 語 聴 覚 学			
	臨 床 実 習			
卒 業 研 究				
合 計		100 単位	27 単位以上	
総 合 計		127 単位以上		

5 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

平成31年度入学生

授 業 科 目 の 区 分		卒 業 に 必 要 な 単 位 数		
		必 修	選 択	小 計
教養科目	コモン・ベーシックス	12 単位	14 単位以上 (心理学、統計学入門、健康スポーツ科学を含み、コモン・ベーシックスを除く各区分より人文科学4単位以上、社会科学4単位以上、自然科学4単位以上、コミュニケーションの技法1単位以上)	26 単位以上
	人 文 科 学			
	社 会 科 学			
	自 然 科 学			
	コミュニケーションの技法			
保 健 科 学 基 幹 科 目		33 単位	2 単位以上 (臨床検査概論、看護学概論より1単位以上)	35 単位以上
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達			
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進			
	心 理 と 言 語 の 科 学			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念			
専門科目	言 語 聴 覚 学 総 論	58 単位	8 単位以上	66 単位以上
	言 語 聴 覚 障 害 診 断 学			
	失 語 ・ 高 次 脳 機 能 障 害 学			
	言 語 発 達 障 害 学			
	発 声 発 語 ・ 摂 食 ・ 嚥 下 障 害 学			
	聴 覚 障 害 学			
	地 域 言 語 聴 覚 学			
	臨 床 実 習			
卒 業 研 究				
合 計		103 単位	24 単位以上	
総 合 計		127 単位以上		

5 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

令和2年度以降入学生

授 業 科 目 の 区 分		卒 業 に 必 要 な 単 位 数		
区分	中 区 分	必 修	選 択	小 計
教養科目	コモン・ベシックス	12 単位	14単位以上 (心理学、統計学入門、健康スポーツ科学を含み、人文科学、社会科学、自然科学の中区分より各4単位以上、コミュニケーションの技法の中区分より1単位以上)	26 単位以上
	人 文 科 学			
	社 会 科 学			
	自 然 科 学			
	コミュニケーションの技法			
保 健 科 学 基 幹 科 目		34 単位	2 単位以上 (臨床検査概論、看護学概論より1単位以上)	36 単位以上
専門基礎科目	人体のしくみ・疾病と治療			
	心のはたらき・言語とコミュニケーション			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念			
専門科目	総合言語聴覚学	58 単位	8 単位以上	66 単位以上
	言語聴覚障害診断学			
	失語・高次脳機能障害学			
	言語発達障害学			
	発声発語・摂食・嚥下障害学			
	聴覚障害学			
	言語聴覚先進科学			
	臨床実習			
	卒業研究			
合 計		104 単位	24 単位以上	
総 合 計		128 単位以上		

（平成24～30年度入学生）

学 生 納 付 金 内 訳 表

（単位：千円）

学年		入 学 金	授 業 料	実験実習料	施設設備資金他	合 計	入学検定料
医 学 検 査 学 科	1年次	200	800	300	200	1500	30
	2年次		800	300	200	1300	
	3年次		800	300		1300	
	4年次		800	300	200	1300	
看 護 学 科	1年次	200	800	250	150	1400	30
	2年次		800	250	150	1200	
	3年次		800	250 (300)	150	1200 (1250)	
	4年次		800	250 (300)	150	1200 (1250)	
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 科	1年次	200	800	300	200	1500	30
	2年次		800	300	200	1300	
	3年次		800	300	200	1300	
	4年次		800	300	200	1300	

（ ）は保健師国家試験受験資格に必要な実習科目を履修する場合の金額

休学在籍料 1 Semester 60,000円

※但し、Semesterの途中から休学することになった場合、既に納付された学納金は返還しない。この場合、上記の在籍料は徴収しない。

(平成31年度入学生)

学 生 納 付 金 内 訳 表

(単位:千円)

学年	入 学 金	授 業 料	実験実習料	施設設備資金他	合 計	入学検定料	
医 学 検 査 学 科	1年次	200	800	300	200	1500	30
	2年次		800	300	200	1300	
	3年次		800	300	200	1300	
	4年次		800	300	200	1300	
看 護 学 科	1年次	200	800	300	200	1500	30
	2年次		800	300	200	1300	
	3年次		800	300 (350)	200	1300 (1350)	
	4年次		800	300 (350)	200	1300 (1350)	
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 科	1年次	200	800	300	200	1500	30
	2年次		800	300	200	1300	
	3年次		800	300	200	1300	
	4年次		800	300	200	1300	

()は保健師国家試験受験資格に必要な実習科目を履修する場合の金額

休学在籍料 1 Semester 60,000円

※但し、Semesterの途中から休学することになった場合、既に納付された学納金は返還しない。この場合、上記の在籍料は徴収しない。

(令和2年度以降入学生)

学 生 納 付 金 内 訳 表

(単位:千円)

学年	入 学 金	授 業 料	実験実習料	施設設備資金他	合 計	入学検定料	
医 学 検 査 学 科	1年次	200	800	350	200	1550	30
	2年次		800	350	200	1350	
	3年次		800	350	200	1350	
	4年次		800	350	200	1350	
看 護 学 科	1年次	200	800	350	200	1550	30
	2年次		800	350	200	1350	
	3年次		800	350 (400)	200	1350 (1400)	
	4年次		800	350 (400)	200	1350 (1400)	
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 科	1年次	200	800	350	200	1550	30
	2年次		800	350	200	1350	
	3年次		800	350	200	1350	
	4年次		800	350	200	1350	

()は保健師国家試験受験資格に必要な実習科目を履修する場合の金額

休学在籍料 1 Semester 60,000円

※但し、Semesterの途中から休学することになった場合、既に納付された学納金は返還しない。この場合、上記の在籍料は徴収しない。

（平成24～30年度入学生）

学 生 納 付 金 内 訳 表

（単位：千円）

学年		入 学 金	授 業 料	実験実習料	施設設備資金他	合 計	入学検定料
医 学 検 査 学 科	1年次	200	800	300	200	1500	30
	2年次		800	300	200	1300	
	3年次		800	300		1300	
	4年次		800	300	200	1300	
看 護 学 科	1年次	200	800	250	150	1400	30
	2年次		800	250	150	1200	
	3年次		800	250 (300)	150	1200 (1250)	
	4年次		800	250 (300)	150	1200 (1250)	
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 科	1年次	200	800	300	200	1500	30
	2年次		800	300	200	1300	
	3年次		800	300	200	1300	
	4年次		800	300	200	1300	

（ ）は保健師国家試験受験資格に必要な実習科目を履修する場合の金額

休学在籍料 1セメスター 60,000円

※但し、セメスターの途中から休学することになった場合、既に納付された学納金は返還しない。この場合、上記の在籍料は徴収しない。

(平成31年度入学生)

学 生 納 付 金 内 訳 表

(単位:千円)

学年	入 学 金	授 業 料	実験実習料	施設設備資金他	合 計	入学検定料	
医 学 検 査 学 科	1年次	200	800	300	200	1500	30
	2年次		800	300	200	1300	
	3年次		800	300	200	1300	
	4年次		800	300	200	1300	
看 護 学 科	1年次	200	800	300	200	1500	30
	2年次		800	300	200	1300	
	3年次		800	300 (350)	200	1300 (1350)	
	4年次		800	300 (350)	200	1300 (1350)	
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 科	1年次	200	800	300	200	1500	30
	2年次		800	300	200	1300	
	3年次		800	300	200	1300	
	4年次		800	300	200	1300	

()は保健師国家試験受験資格に必要な実習科目を履修する場合の金額

休学在籍料 1 Semester 60,000円

※但し、Semesterの途中から休学することになった場合、既に納付された学納金は返還しない。この場合、上記の在籍料は徴収しない。

(令和2年度以降入学生)

学 生 納 付 金 内 訳 表

(単位:千円)

学年	入 学 金	授 業 料	実験実習料	施設設備資金他	合 計	入学検定料	
医 学 検 査 学 科	1年次	200	800	350	200	1550	30
	2年次		800	350	200	1350	
	3年次		800	350	200	1350	
	4年次		800	350	200	1350	
看 護 学 科	1年次	200	800	350	200	1550	30
	2年次		800	350	200	1350	
	3年次		800	350 (400)	200	1350 (1400)	
	4年次		800	350 (400)	200	1350 (1400)	
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 科	1年次	200	800	350	200	1550	30
	2年次		800	350	200	1350	
	3年次		800	350	200	1350	
	4年次		800	350	200	1350	

()は保健師国家試験受験資格に必要な実習科目を履修する場合の金額

休学在籍料 1 Semester 60,000円

※但し、Semesterの途中から休学することになった場合、既に納付された学納金は返還しない。この場合、上記の在籍料は徴収しない。

目 次

ア 学則変更（収容定員変更）の内容	・・・・・・・・・・	2
イ 学則変更（収容定員変更）の必要性		
1) 現行での課題	・・・・・・・・・・	2
2) 学則変更（収容定員変更）の必要性	・・・・・・・・・・	3
ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容		
(ア) 教育課程の変更内容	・・・・・・・・・・	4
(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容	・・・・・・・・・・	4
(ウ) 教員組織の変更内容	・・・・・・・・・・	5
(エ) 大学全体の施設・設備の変更内容	・・・・・・・・・・	5

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

熊本保健科学大学保健科学部は、2022（令和4）年4月1日より、入学定員を以下の通り変更する。

リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員を現在の40名から60名に、収容定員を現在の160名から240名に変更する。これにより保健科学部の入学定員は340名、収容定員は1,360名となる。

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

1) 現行での課題

2011（平成23）年に制定されたスポーツ基本法では、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利」を実現するため、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国を実現する重要な指針が示された。ついで、2017（平成29）年3月に「第2期スポーツ基本計画」が策定された。その中で、①子供の体力向上、②学校体育・運動部活動の系統化・明確化、③生涯スポーツ社会の実現、④障がい者スポーツの充実、⑤国際競技力の向上、⑥スポーツによる地域・経済の活性化、⑦スポーツを通じた女性の活躍促進を掲げ、子供の体力向上からトップアスリートの競技力向上まで、健康維持や体力増進のために運動を意図的にかつ適切に日常生活へ組み込むことが重要になっており、そのための多様な支援が必要とされている。

また、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、障がい者スポーツ振興に関する事業を厚生労働省から文部科学省へ移管し、社会参加やリハビリテーションの観点に加え、競技性の向上とスポーツ振興の観点から推進していく必要性が高まっている。さらに、大会遠征や強化合宿の実施、競技アシスタントの設置、スポーツ医科学を活用した支援の拡充などが急速に進んでいる。

さらに、2011（平成23）年厚生労働省審議会において、国民の目指す姿を「全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会」とし、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善、の5つを示している。特に、人生100年時代と言われる日本において2040年には18～64歳が65歳以上を支える場合、支える側と支えられる側の比率は1.5:1であり、支える側を74歳まで広げた場合にその比は3.3:1になること、高齢者就労や社会参加は健

康維持や認知症リスクを軽減できるといった点からも、高齢者を含めた総就業者数の増加も課題として挙げられている。

特に、熊本県においては、65歳以上人口割合が30.6%（2018年）と全国平均（28.1%）より高く、65歳以上の就業率が全国平均（22.49%）よりも低い（21.94%）。2020年3月末時点での要介護・要支援認定率は全国47都道府県中9番目であり、2019年の県民の一人当たりの医療費は全国9位（約39万円：総医療費7,019億円）と多い。ちなみに、健診・レセプトデータ等の分析で全国との乖離の大きい課題疾病は、循環器疾患・精神神経疾患・骨折・糖尿病であり、県全体での予防・健康づくりの機運が高まっている。

2)学則変更（収容定員変更）の必要性

まずは、スポーツ現場における実務能力を有し、健康・スポーツをキーワードに地域貢献できる理学療法士の育成が急務である。これまで、スポーツ領域における理学療法士は、怪我をした選手の復帰に向けたアスレティックリハビリテーションにおいて中心的な役割を担ってきた。近年では、怪我の再発予防やパフォーマンス向上を目的とした理学療法介入に加え、中学・高校の学生スポーツや地域のスポーツクラブなどにおいて、理学療法士が日々の練習、合宿及び試合へ帯同し、怪我の予防、コンディショニングを行うことで、健康的なスポーツ活動や競技力の向上に貢献することが期待されている。このことは、運動部活動の社会体育への移行が進んでいることから、地域スポーツ振興における理学療法士の役割は極めて重要であると考えられる。

また、障がい者スポーツ振興における理学療法士の役割も重要であり、競技クラス分け、怪我の予防、コンディショニング及び使用する道具・機器開発などへの貢献が期待されている。

さらに、運動器系疾患、神経系疾患、呼吸器系疾患、循環・代謝系疾患などが原因で障害を有する対象者に対する理学療法（運動療法）に加え、人生100年時代に備えて、障害予防や介護予防・介護離職予防を目的としたアプローチなど理学療法士に対する需要は非常に高い。例えば、小児の理学療法、産前産後の女性の健康支援、就業者（生産年齢者）の腰痛予防・労働災害予防・生活習慣病予防、高齢者の主な要介護要因となるサルコペニアやフレイルの予防など、新生児期から高齢期まで様々なライフステージを対象とし、他職種との適切な連携の上で、栄養・運動・休養等に加え、口腔の健康なども考慮した理学療法の実践が求められている。さらに、理学療法の効果を分子生物学的レベルからヒトレベルまでのマルチスケールで検証することも必要である。

そのためには、科学的根拠に基づいた最適かつ効果的な理学療法介入を選択する必要があるが、対象者の有するデータを分析する研究力と理学療法の実践力を基に問題を解決する理学療法士の役割は重要であり、今回の理学療法学専攻の収容定員増は、現在の、そして将来の日本における社会的要請に対応しようとするものである。

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

理学療法学専攻の収容定員増に伴う、他学科・専攻における教育課程の変更は行わないため、特段の影響はない。

保健科学部における教育課程には、「教養科目」、「保健科学基幹科目」、「専門基礎科目」そして「専門科目」がある。

今回の学則変更（収容定員変更）に伴い、「スポーツデータサイエンス論」、「スポーツトレーニング論」、「健康スポーツ心理学」、「アスリートサポート演習」、「スポーツコンディショニング演習」を、理学療法学専攻の「専門科目」に新たに配当する。これらの新規科目は主に新設予定のスポーツリハビリテーションコース（2年次から選択制/20名定員）選択者が受講する。スポーツデータサイエンスや実業団とのアカデミック連携を視野に学外での演習・活動を予定している。

「教養科目」では、「情報科学」や「英語」が必修科目である。「情報科学」はパソコンを用いた演習科目であるが、本学2号館2階のPC室（2210講義室）の増改修等で一人一台パーソナルコンピューターを使用できるようにすることなどで、定員変更前の教育課程と比較して、同等以上の内容を担保する。

また、「英語」については1クラス増やし、受講者数に応じたクラス分けと非常勤講師の採用により定員変更前の教育課程と比較して、同等以上の内容を担保する。

さらに、保健科学部全学科の学生が受講する「基礎セミナー」は、受講者数に応じたグループ分けとセミナー担当教員の配置により、定員変更前の教育課程と比較して、同等以上の内容を担保する。

「保健科学基幹科目」において、保健科学部全学科の学生が受講する「チーム医療演習」では、受講者数に応じたグループ分けと演習担当教員の配置により、定員変更前の教育課程と比較して、同等以上の内容を担保する。

「専門基礎科目」において、演習が含まれる「救命救急医学」は、生活機能療法学専攻の学生と一緒に受講するが、分担教員を増員することにより、定員変更前の教育課程と比較して、同等以上の内容を担保する。そして、「解剖学演習」や「生理学実習」も生活機能療法学専攻の学生と一緒に受講する。これらは、現在、分担教員を配置している。しかしながら、増員によって演習・実習室が手狭になることから、当該教室の変更等により、定員変更前の教育課程と比較して、同等以上の内容を担保する。

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容

本学は、スモールグループ制度を採用し、単位取得や国家試験対策、就職指導、精神的ケア等を行うが、理学療法学専攻では1人の教員に各学年6名の学生を割り当てることで十分対応が可能である。

「理学療法評価学Ⅰ」などの演習が含まれる専門科目については、分担教員を増員す

ることやティーチングアシスタントにより演習補助を行うことで、定員変更前の教育方法及び履修指導方法と比較して、同等以上の内容を担保する。「物理療法学演習」、「徒手療法学」など機器やベッドを用いる科目については、演習に支障を来さぬよう必要備品数を確保し、定員変更前の教育方法及び履修指導方法と比較して、同等以上の内容を担保する。

臨床実習については、実習生の引き受けに協力的な連携協定施設（のちに主たる実習施設として登録予定）の確保が済んでおり、当該施設とその系列病院において、おおむね増員分の実習については対応可能となっており、定員変更前の教育方法及び履修指導方法と比較して、同等以上の内容を担保する。

（ウ）教員組織の変更内容

現在、理学療法学専攻専任教員は理学療法士 9 名（および医師 1 名、生理学者 1 名）で、内訳は教授 5 人、准教授 4 人、講師 2 人である。現在の教員構成は、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定められている理学療法士の免許を保有する専任教員数を超えたものであり、今回の学則変更（収容定員変更）に伴う教員の増員は実施しない。しかしながら、将来の教育体制を充実させるため、必要に応じて教員の増員を検討する。

（エ）大学全体の施設・設備の変更内容

今回の学則変更（収容定員変更）に伴った大学全体の施設・設備の変更は以下の通りである。

講義室については、1 号館の既存施設の改修により新たに中講義室を 3 室、① 1500 講義室 (232.5m²)、② 1501 講義室 (402.6m²)、③ 1502 講義室 (151.4m²) を設けた。2 号館については、パソコン演習時に一人一台パーソナルコンピューターを使用できるようにするため、2 階の 2209 講義室 (167.81m²) と 2210 PC 室 (84.42m²) を入れ替える予定である。

このことで、1 号館 3 室増、2 号館 1 室減により、中講義室は 2 室増となり、定員変更前の大学全体の施設・設備と比較して、同等以上の内容を担保する。

PC 室については上述の通り、中講義室との入れ替えにより、一人一台パーソナルコンピューターを使用できるようにする（旧 2210 PC 室が、新小講義室となる）ことで、定員変更前の大学全体の施設・設備と比較して、同等以上の内容を担保する。

徒手療法学などで治療用ベッドを使用して演習を行う実習室は(2404 講義室)、現在、生活機能療法学専攻（入学定員 40 名）が主に使用する実習室（2405 講義室）に隣接しているが、今回の学則変更（収容定員変更）に伴い、両室をまとめて理学療法学専攻の演習室にすることとし、定員変更前の大学全体の施設・設備と比較して、同等以上の内容を担保する。これに伴い、生活機能療法学専攻の演習室は、2 号館 3 階の小講義室 2 室分（2304 および 2305 講義室）をそれに転換する（2 号館 2 階に小講義室を 1 室設け

る、2210 講義室) ことで、定員変更前の大学全体の施設・設備と比較して、生活機能療法学専攻においても同等以上の内容を担保する。

運動療法室や物理療法室の面積については、今回の学則変更(収容定員変更)によっても講義・演習における教育活動に支障は来さない。物理療法機器については演習に支障を来さぬよう必要数を確保し、定員変更前の大学全体の施設・設備と比較して、同等以上の内容を担保する。

将来の専任教員の増員に対応するために、2号館5階の合同教員室(2501 および 2502 研究室)の面積を拡大する。そして、准教授以上の職人が個人で使用する教員室2室も新たに増築し、定員変更前の大学全体の施設・設備と比較して、同等以上の内容を担保する。

さらに、学生用のロッカー(336名分)を2号館1階に増設し、かつ2号館3階の学生更衣室の面積も拡大することで、定員変更前の大学全体の施設・設備と比較して、同等以上の内容を担保する。

レストラン(650人収容)およびキャンパステラス・学習室は、2020(令和2)年度にリニューアル移転を済ませており、それぞれ座席数も増やしていることから、定員変更前の大学全体の施設・設備と比較して、同等以上の内容を担保する。

資 料 目 次

教育課程等の概要	・ ・ ・ ・ ・ 2
施設・設備	
・ 1号館改修平面図	・ ・ ・ ・ ・ 5
・ 2号館 1階改修平面図	・ ・ ・ ・ ・ 6
・ 2号館 2階改修平面図	・ ・ ・ ・ ・ 7
・ 2号館 3階改修平面図	・ ・ ・ ・ ・ 8
・ 2号館 4階改修平面図	・ ・ ・ ・ ・ 9
・ 2号館 5階改修平面図	・ ・ ・ ・ ・ 10

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健科学部リハビリテーション学科理学療法専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	コモン・ベーシック	基礎セミナー	1前	1				○			1	1	1			兼28
		情報科学	1前	2				○	○							兼1
		アカデミックスキルⅠ (入門)	1前	2				○	○							兼4
		アカデミックスキルⅡ (基礎)	1後	2				○	○							兼4
		アカデミックスキルⅢ (応用)	2前	1				○	○							兼3
		スキルアップセミナー	2後		1			○	○							兼1
	人文科学	哲学	2前・4後		2			○								兼1
		芸術と人間	1前・2後		2			○								兼1
		文学入門	2前		2			○								兼1
		心理学	1前		2			○								兼1
	社会科学	社会学	1後		2			○								兼2
		教育学	2後		2			○								兼1
		法と人間	2前		2			○								兼1
		環境と経済	1前		2			○								兼1
		文化と経済	2後		2			○								兼1
	自然科学	統計学入門	1後		2			○								兼1
		生命と進化	2前		2			○								兼1
		環境と生命	1前		2			○								兼1
		健康スポーツ科学	1前		2			○	○							兼1
		情報処理技術	2前		2			○	○							兼1
	コミュニケーションの技法	カウンセリング技法	1後		1			○	○							兼1
		レクリエーション技法	1前		1			○	○							兼1
		英語Ⅰ	1前	1				○								兼4
		英語Ⅱ	1後	1				○								兼4
		英語Ⅲ	2前	1				○	○							兼2
		英語Ⅳ	2後	1				○								兼2
		英語Ⅴ	3前	1				○								兼1
		英語Ⅵ	3前	1				○								兼1
		英語Ⅶ	3前	1				○								兼1
小計 (29科目)	—	12	34	0		—			1	1	1	0	0	兼51		
保健科学基幹科目	保健医療概論	2前	1				○								兼1	
	生活保健論	1前	1				○								兼1	
	臨床検査概論	1前		1			○								兼6	
	看護学概論	1前		1			○								兼2	
	災害時における保健医療	1・2・3・4前		1			○	○							兼2	
	生命と倫理	1後	2				○								兼1	
	チーム医療演習	4後	1				○								兼1	
	小計 (7科目)	—	5	3	0		—		0	0	0	0	0	0	兼13	
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	1			○								兼2	
		解剖学Ⅱ	1後	2			○								兼1	
		解剖学演習	1後	2				○							兼4	
		生理学Ⅰ	1前	1			○				2	1				
		生理学Ⅱ	1後	1			○					1				
		生理学実習	1後	2					○		2	1				
		基礎運動学	1前	1			○					1				
		臨床運動学	1後	2			○	○				1				
		運動学実習	1後	1			○		○		1		1			
		人間発達学	1後	1			○									兼1

専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	2前	1			○											兼2	
		薬理学	2後	1			○			1									
		画像診断学	3前	1			○			2									
		臨床医学総論Ⅰ	2前	1			○			1									
		臨床医学総論Ⅱ	2後	1			○			1									
		リハビリテーション医学	2前	1			○			1									
		救急救命医学	3前	1			○				1								兼1
		臨床心理学	2前	1			○												兼1
		精神医学	2前	1			○												兼1
		整形外科学	2後	1			○												兼1
		神経内科学	2前	1			○												兼2
		小児科学	2後	1			○												兼1
		代替医療	4後		1			○	○		1	1	1						兼2
		作業療法概論	1前		1			○	○										兼8
		言語聴覚学概論	1前		1			○											兼4
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医療と福祉	3前	1			○	○											兼1	
	リハビリテーション概論	1後	1			○			1										
	関連法規	2後	1			○	○											兼1	
	衛生・公衆衛生学	1後	1			○												兼1	
	小計(29科目)	—	30	3	0		—		4	2	2							兼29	
基礎理学療法学	理学療法学総論	1前	1			○			2	2	2								
	基礎理学療法学	1後	1			○	○		1										
	理学療法学総合演習	4後	1				○		5	4	2								
	理学療法研究法	3前	2			○	○		5	4	2								
	理学療法セミナー	3前	1			○	○		1										
理学療法管理学	基礎理学療法管理・運営学	2後	1			○				1									
	応用理学療法管理・運営学	4前	1			○				1									
理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	2前	2			○	○				1								
	理学療法評価学Ⅱ	2前	2				○			1								兼1	
	理学療法評価学Ⅲ	2後	2				○		2	1								兼1	
理学療法治療学	運動器理学療法学	2後	1			○					1								
	運動器理学療法学演習	3前	2				○				2								
	神経系理学療法学Ⅰ	2後	2			○	○				1								
	神経系理学療法学Ⅱ	3前	1			○			1	1									
	内部障害系理学療法学	3前	1			○				1									
	呼吸器系理学療法学	2後	1			○	○			1									
	循環器系理学療法学	3前	1			○	○			1	1								
	発達障害系理学療法学	3前	1			○	○											兼1	
	徒手療法学Ⅰ	3前	1			○	○		1										
	徒手療法学Ⅱ	4前		1		○	○		1										
	徒手療法学Ⅲ	4前		1		○	○				1								
	物理療法学	2後	1			○			1										
	物理療法学演習	3前	1				○		1										
	義肢学	2後	1			○				1									
	装具学	3前	1			○	○			1									
	生活技術学	2前	1			○	○			1									
	スポーツ理学療法学	4前		1		○	○					1							
	障害者スポーツ指導論	2後	1			○	○		1		1								
	高次脳機能障害理学療法	4前	1			○					1							兼2	
	摂食嚥下理学療法学	4前	1			○			1										
	リハビリテーション工学	4前	1			○					1								
	スポーツデータサイエンス論	2前		1		○					1								
	スポーツトレーニング論	2前		1		○						1							
健康スポーツ心理学	2後		1		○														
アスリートサポート演習	2後		1			○				1									
スポーツコンディショニング演習	3前		1			○					1								
地域理学療法学	地域理学療法学	2前	2			○					2								
	生活環境支援系理学療法学	2後	1			○					1								

専門科目	臨床実習	臨床見学実習	1前	1					○	5	4	2			
		臨床評価実習	3後	4					○	5	4	2			
		臨床総合実習Ⅰ	3後	7					○	5	4	2			
		臨床総合実習Ⅱ	4前	8					○	5	4	2			
		地域実習	2前	2					○	5	4	2			
	卒業研究	卒業研究	4後	3					○	5	4	2			
		小計(44科目)	—	58	7	5			—	5	4	2	0	0	兼4
合計(109科目)			—	105	47	5		—	5	4	2	0	0		
学位又は称号		学士(保健学)		学位又は学科の分野				保健衛生学							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修科目105単位、教養科目の選択科目から14単位以上、保健科学基幹科目・専門基礎科目の選択科目より2単位以上、専門科目の選択科目より4単位以上を修得し、125単位以上修得すること。なお、教養科目の選択科目のうちカウンセリング技法を含む、人文科学、社会科学、自然科学、コミュニケーションの技法の中区分より各1単位以上、保健科学基幹科目・専門基礎科目の選択科目のうち臨床検査概論、看護学概論より1単位以上かつ専門基礎科目より1単位以上を選択必修とする。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

理学療法学専攻の入学定員を 60 名としたい。現理学療法学専攻の入学定員は 40 名であるが、九州地区の私立 7 大学の入学定員の平均値は約 57 名であり妥当な水準であると考えられる（資料 1）。

また、学校基本調査のデータで 18 歳人口の推移をエリア毎にみると、2020 年を指数 100 とした場合、2032 年の全国平均が 87.7 に対し、九州・沖縄は 93.2 と国内でも減少率が極めて低いエリアであり、その中でも熊本県は沖縄県、福岡県に次ぐ減少率の低さである（資料 2）。本学の理学療法学専攻の都道府県別志願者エリアを見てみると、ほぼ九州内であり、その中でも地元熊本県の過去 5 年平均の比率は 57% と高く、将来的に 18 歳人口減を理由とした志願者減については、他と比較してさほど心配する必要がないエリアと考えられる（資料 3）。

なお、教育課程等の変更内容で記載している新設予定のスポーツリハビリテーションコース（資料 4）について、学内の理学療法学専攻学生の全学年対象に取ったアンケート結果では、理学療法士を目指す学生のほとんどがスポーツリハビリテーションに関心を示している（資料 5）。また、本学の今年度の資料請求者やオープンキャンパス参加の高校生に実施したアンケート（資料 6）では、理学療法士に興味を持つ高校生の約 77% がスポーツリハビリテーションコースの選択を希望しており、新コースの内容をしっかりと広報することで九州圏内の多くのスポーツに関心を持つ高校生の興味を引き、志願者増につながる事が期待できる。

また、熊本県教育委員会からは、本学と連携することで高校生の資質や能力の向上に努めたいことや、本県高校生の進路の選択肢の拡大につながる取り組みとして期待している旨の意見を頂いている。（資料 7）

イ 定員充足の根拠となる客観的データの概要

本学を含む九州内の理学療法分野を有する 7 大学の定員合計は 400 名であるのに対し、志願者数の合計は、2018 年度入試では 1,024 名、2019 年度入試では 1,174 名、2020 年度入試では 1,306 名となっており増加傾向である（資料 8）。

また、本学の理学療法学専攻の志願倍率は学内の既存学科・専攻の中でも一番高く、過去 5 年（2016～2020 年度入試）のデータでは 4.7～5.9 倍、理学療法分野を有する九州の私立大学の中でもトップクラスの志願倍率を維持しており、定員は十分に充足できる（資料 9）。

なお、前述した本学の今年度の資料請求者等に実施したアンケートでは、理学療法士に興

味を持っている高校生のみならず、理学療法士に興味のなかった高校生においても、約 58% が新コースのある本学理学療法学専攻を選択肢の1つに加えたいと回答している(資料6)。このアンケート結果からも、入学定員は将来にわたって十分に充足できるものと考えている。

ウ 学生納付金の設定の考え方

九州地区の理学療法士養成私立大学の4年間の学費総額は511万円から590万円となっている(資料10)。現在の本学における理学療法学専攻の学費は、4年間総額で560万円と妥当な金額設定にしている。今回の増員後も金額設定を変更せず、今までと同様に4年間総額で560万円とする。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

2020年度は、コロナ禍のため例年とは違う取り組みとなったが、2021年度は新型コロナウイルスの感染状況を見て2019年度までの取組内容に戻すことを予定している。

【オープンキャンパスの開催】

例年実施していた7月・8月の来場型オープンキャンパスは、新型コロナウイルスの感染対策のため開催を取り止め、Web上での開催(各説明動画の公開や個別Zoom相談)とした。感染者数が落ち着いた2021年の3月に、初めての試みとしてキャンパス見学会(春のオープンキャンパス)を開催し、学科紹介・見学をはじめ、進学相談などのメニューを用意した。参加者については感染対策のため各学科40名定員(3学科合計で最大120名)とし、定員に近い112名の参加があった。

2019年までの来場型オープンキャンパスでは、参加者が進学後のミスマッチを少しでもなくすことができるよう、「大学での学習内容や実際の仕事内容の理解が深められること」、「大学の雰囲気を感じられること」、などを意識した構成とした。具体的には、開始時の全体オリエンテーションで学長自ら大学の特長や入学してほしい学生像の説明を行うことや、多数の学生スタッフを動員した多くの模擬演習、大学見学ツアー、学生/教職員への相談コーナー、保護者向けの進学説明会等である。当日のアンケート結果からも参加者は大変満足していることが分かった(資料11)。また、無料送迎バスも熊本市内2ルート以外に九州各県を網羅した7ルートを設定している。ルート設定は、前年度の志願状況や資料請求状況を考慮し乗車エリアの見直しを毎年行っている。過去3年間(2017年～2019年度)の参加者数は資料12の通りである。

【入試対策講座の開催】

例年実施していた8月末・12月の来場型入試対策講座は、オープンキャンパスと同様に2020年度は開催を取り止め、Web上での開催(講義動画の公開)とした。

2019年までの来場型入試対策講座では、8月末が「推薦入試対策講座」、12月が「一般入試対策講座」として、地元大手予備校講師による対策講座を実施してきた。当日のアンケート結果からも参加者は大変満足していることが分かった（資料13）。こちらも九州各地より3ルートの無料送迎バスを設定し参加者を増やす取り組みを行った。過去3年間（2017年～2019年度）の参加者数は資料12の通りである。

【高校訪問】

九州・沖縄・山口に幅広く訪問している。2020年度は、熊本県外はほとんど訪問ができない状況であったが、例年は志願実績等を基にターゲット校を計250校ほどに絞って年に3回、エリア毎に担当者を配置し、入学者の状況報告や次年度入試情報、オープンキャンパス等の告知を行い、高校との信頼関係を構築している。

【学外進学ガイダンス／出前授業の参加】

九州・沖縄・山口に幅広く参加している。2020年度は感染対策の観点から大幅に参画数を減らしたが、2019年度までは費用対効果を意識しながら参加会場の取捨選択を行い、積極的に参加している。教育内容、学生生活、入試情報、就職状況などの疑問や不安を解消するため、きめ細やかな対応を行っている。過去3年間（2017年～2019年度）の参加状況は資料14の通りである。

【マスメディア広報】

ほとんどの高校生がスマホを所持している現在、時代のニーズに合わせ2018年度よりTVCMからWeb上での広報に比重を移した。Webでは本学への入学意欲が高い層から低い層まで、各個人の検索履歴などから推測することができるため、高い層と、低い層に効果的な広告手法を使い分けて、ターゲットを絞ったWeb広告を展開してきた。主にランディングページや本学ホームページへの誘導であるが、ランディングページの内容は本学の特長をまとめたものやオープンキャンパス日程などで、入試前になると入試に特化した内容へ変更している。今後もWeb上での広報を充実させていくとともに、状況に応じてTVCMで周知を図っていく。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学は、「保健医療に関する学問の教育及び研究を行い、併せて豊かな教養と人格とを兼ね備え、国民の保健衛生並びに医療に寄与する人材を育成する」ことを目的及び使命としている。本学の保健科学部リハビリテーション学科内には3専攻あり、その中の1つが理学療法学専攻である。具体的な理学療法学専攻の教育目標は以下のとおりに設定している。

1. 対象者の基本的動作能力の向上やADL拡大のための実践力を持った理学療法士を養成する
 2. エビデンスに基づいた思考と理学療法評価及び介入ができる理学療法士を育成する
 3. チームアプローチを推進するための専門職としての知識、技術を持った理学療法士を育成する
 4. 社会貢献と医療の発展に寄与するために必要な探究心を持った理学療法士を育成する
- さらに、現存の理学療法学専攻内において、新たにスポーツリハビリテーションコースを配置し、健康・スポーツをキーワードに実務能力を有し、地域貢献できる理学療法士を育成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠【理学療法学専攻全体で養成される人材】

(社会的な人材需要の動向)

平成 11 年に国家試験受験資格付与のための学校養成施設の指定規則が見直され、各大学が社会のニーズに適切に対応した多様な医療技術者等の養成ができるようになった(第 2 回理学療法士・作業療法士需給分科会)。

その間、国においては団塊世代が 75 歳以上となる 2025 年に向けて、地域包括ケアシステムの構築を進めていく中、介護などの分野において理学療法士の需要が見込まれている一方で、健康寿命の延伸に着目した予防医学分野の人材育成が必要とされている。

事実、国民の健康増進を図るため、「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動(健康日本 21)」が推進されている(資料 15)。その中では、次世代(子供)及び高齢者の健康に関する目標を含め、運動習慣の定着や身体活動量の増加に関する目標とともに、身体活動や運動に取り組みやすい環境整備に取り組むこととしている(資料 15)。

(地域的な人材需要の動向)

熊本県においても「健康日本 21」との整合性を図った「第 4 次くまもと 21 ヘルスプラン(熊本県健康増進計画)」を策定し、「健康寿命の延伸」や「生活の質の向上」を目標に健康づくり施策を推進している(資料 16)。

このような社会的、地域的な人材需要の動向は、介護領域を含め、健康寿命の延伸に着目した予防医学領域に関する実務能力を身に付けた理学療法士の育成が重要である事を示すものである。

一方で、現在の本学理学療法学専攻(40 名)における求人件数は、年間約 600 施設を超えている(資料 17)。昨年度はコロナ禍の影響で、関東からの求人数は減少したものの、例年、卒業生を大幅に上回る求人数があり、就職率は理学療法学専攻を平成 19 年に開設以来 100 % を継続している。さらに、令和 2 年度における理学療法学専攻卒業生の就職先は、全体の 90 % が九州圏であり、関東圏からの求人数が減少しても、就職率にはほとんど影響を及ぼさなかった(資料 17)。

このように、卒業生に対して 15 倍を超える求人数があることに加え、過去 5 年間の求人施設の内訳は、医療領域以外の施設が全体の約 10 %を占めており多様化している（医療領域の平均求人数 575 件、その他領域の平均求人数 57 件：資料 17）。また、今年度現時点では一昨年度並みのペースで求人施設数が回復（増加）している。

以上のような社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえ、理学療法学専攻全体では、これまでと同様に卒業生以上の求人数がある医療領域へ人材を輩出する事に加え、介護および予防医学領域など、多様な実務能力を身に付けた理学療法士を輩出することが可能である。従って、卒業生を大幅に上回る求人数があること、医療以外の領域へ人材を輩出する余地もあることから、入学定員を 20 名増員する必要性がある。

【新設するスポーツリハビリテーションコースで養成される人材】

（社会的な人材需要の動向）

平成 31 年の理学療法士・作業療法士の需給推計（案）において、2040 年頃における理学療法士の供給数は需要数の約 1.5 倍になる事が報告された（第 3 回 理学療法士・作業療法士需給分科会）。このことは、理学療法士の職域拡大が急務であることを示すものである。

そこで、他領域の動向を概観すると、平成 23 年に制定されたスポーツ基本法では、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利」を実現するため、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国を実現する重要な指針が示されている。その中で、子供の体力向上からトップアスリートの競技力向上まで、健康維持や体力増進のために運動を意図的にかつ適切に日常生活へ組み込むことが重要になっており、そのための多様な支援が必要とされている。

しかしながら、スポーツ庁が 2019 年に実施した 18～79 歳の男女を対象とした WEB アンケートによると、有効回答者 20,000 件のうち、過去 1 年間に「運動やスポーツを行った」とする者は 80.2%、「運動やスポーツを行わなかった」とする者は 19.8%であったとの報告がある（資料 14）。特に「運動やスポーツを行った」とする者の割合は男性が女性より高く、10 代、20 代及び 70 代でそれぞれ高くなっている（資料 18）。また、この 1 年間に、「運動やスポーツを行った」理由について、「健康のため」とする者は 77.9%で最も高く、次いで「体力増進・維持のため」が 58.3%であった。（資料 18）。

このように高齢者においても「運動やスポーツを行った」とする割合が高いことから、運動やスポーツによるケガやその予防に対して、理学療法士の果たす役割がますます高まることが予想され、次世代（子供）及び高齢者のスポーツ参加を支援し、それに伴う障害などを予防する理学療法士の育成は極めて重要であると考えられる。さらに、日本の高齢化社会を考えた時、平均寿命と健康寿命の差が、女性で 12 年、男性でも 8 年に達している点は注目すべきである。人生の最後に 10 年もの不健康な生活を送ることを防ぐには、継続したスポーツ活動によって、体力の維持や生活習慣病の予防を図ることが重要であり、シニアに対するスポーツ活動支援を充実させることが必要である

(地域的な人材需要の動向)

熊本県ならびに熊本県スポーツ協会においても、子どもたちの体力づくりやコミュニケーション能力の向上などを目的としたアクティブチャイルドプログラム、育成指定選手に対してメディカルチェックやトレーナー派遣等を実施するマルチサポート事業（資料 19）、選手の応急処理や健康管理等のコンディショニングを図るスポーツトレーナー事業などの取り組みを行なっている（資料 20）。熊本県スポーツ協会からは、スポーツを支える人材の育成と拡大、地域の活性化に貢献する取り組みに期待している旨のご意見を頂戴しており（資料 21）、そして、知的障がいのある方へ様々なスポーツ活動を提供・サポートしているスペシャルオリンピックス日本・熊本からは、本専攻のスポーツリハビリテーションコース設置が、これからの日本社会における健康寿命増進に資する内容であり全面的にご支援をしたい旨のご意見も頂戴している（資料 22）。

これらのことは、怪我をした選手の復帰に向けたアスレチックリハビリテーションにおいて中心的な役割を担ってきた理学療法士が、健康的なスポーツ活動や競技力の向上にも貢献することが期待されていることを示すものである。したがって、このような役割を担う理学療法士の育成は重要であると考えられる。さらに、熊本県の健康寿命の延伸等を含めた「UX プロジェクト」に取り組む商工労働部産業振興局や、「人生 100 年くまもとコンソーシアム」を発表している健康福祉部健康局からは、本専攻のスポーツリハビリテーションコース設置について、「健康寿命の延伸」という本県のプロジェクトに合致した人材育成の取り組みであり期待している旨（資料 23）、本学が志向するスポーツリハビリテーション領域の人材需要が高まっている。

(社会的・地域的な人材需要に対する本学の取り組みとアンケート結果と人材需要予測)

前述のような社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえ、本学ではスポーツリハビリテーションコースの設置を前に、様々な取り組みに着手している。

熊本県水上村では、標高 1000m の高地にある日本有数のクロスカントリー施設であるスカイビレッジで合宿中の高校生アスリートに対し、メディカルフィットネスチェックを行い、障害予防およびトレーニング効果を最大化するための支援を行っている（資料 20）。

また、車いすマラソンの駆動技術に着目した実践研究を行い、パラリンピック車いすマラソン選手のサポートを行っている。その結果、令和 3 年に開催された東京パラリンピックにおいて、サポート選手が男子車いす 100m で銀メダルを、女子車いすマラソンで 4 位入賞を果たすなど一定の成果を上げつつある（資料 20）。

また、熊本県の肥後銀行女子駅伝部に対するメディカルサポートを行い、4 年連続で全日本実業団女子駅伝競走大会の出場権を獲得した。

さらに、熊本県スポーツ協会と包括協定を結び、熊本県出身の育成指定選手に対する「くまもとワールドアスリート」事業において、フィットネスチェックを開始する予定である。

これらのことから、理学療法学専攻内に新たに設置され、理学療法士のための実践的能力

に関する学びの場を提供するスポーツリハビリテーションコースの果たす役割は大きいと言えよう。

また、本学リハビリテーション学科において九州圏の過去 2 年の就職説明会参加、または実習施設を対象にスポーツリハビリテーションコースについてアンケート調査を実施したところ、89 件の回答のうち、新コース（20 名）修了生の採用に約 45%の施設が興味ありと回答した（資料 24）。従って、収容定員増員後も現在の卒業生数に上積みして、十分に就職先を確保可能と考えられる。

また、医療系以外の企業、行政組織、熊本に拠点をおくプロスポーツ団体、障がい者スポーツ団体、メディカルフィットネスジム等にアンケート調査を実施したところ、16 施設から回答を得ることができ、10 の施設が新コース修了生の採用に興味があると回答した（資料 25）。この結果から、新コースの設置によって、従来の理学療法士の就職先として想定されていなかった組織・団体からも求人の可能性があり、理学療法士の新しい職域開拓につながるものと考えられる。実際には、新コース修了者の大部分は、当面はスポーツ障害を対象の一つとする整形外科を有する医療機関が就職先となることが想定されるが、2030 年を超える頃までには、メディカルフィットネス施設（令和 3 年 7 月現在で厚生労働省認定 335 施設）やスポーツジム、総合型地域スポーツクラブ（熊本県内で 69 団体）の指導者などへの人材輩出を行うよう、職域拡大に取り組んでいきたい。

以上のように、「スポーツリハビリテーションコース」の設置は、健康寿命を延伸させるという我が国の大命題に貢献する人材の育成にも繋がるもので、健全な高齢化社会の構築を見据えたものでもある。

本学としても「保健科学」という領域を強化することで、熊本県のプロジェクトと連携し、健康寿命延伸のための新たな取り組みを展開して、卒業生の職域拡大にチャレンジしていきたい。

学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

目 次

- 資料 1 入学定員数（同分野を有する九州内私立大学）
- 資料 2 九州沖縄の 18 歳人口予測（2020～2032 年）
- 資料 3 本学理学療法学専攻 都道府県別 入試志願者（過去 5 年）
- 資料 4 スポーツリハビリテーションコースの説明
- 資料 5 スポーツ関連の学内アンケート結果
- 資料 6 今年度の資料請求者やオープンキャンパス参加者へのアンケート結果
- 資料 7 熊本県教育委員会のご意見
- 資料 8 志願者・志願倍率（同分野を有する九州内私立大学）
- 資料 9 志願者・志願倍率・合格者・入学者（本学 2016～2020 年度入試分）
- 資料 10 学費一覧（同分野を有する九州内私立大学）
- 資料 11 オープンキャンパスアンケート集計（2017～2019 年度分）
- 資料 12 オープンキャンパス・入試対策講座動員数（2017～2019 年度分）
- 資料 13 推薦・一般入試対策講座アンケート集計（2017～2019 年度分）
- 資料 14 進学ガイダンス・出前授業参加状況（2017～2019 年度分）
- 資料 15 国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針（厚生労働省告示第四百三十号） ※抜粋
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/dl/kenkounippon21_01.pdf
- 資料 16 健康福祉行政の概要（令和元年度）熊本県 ※抜粋
- 資料 17 令和 2 年度 本学理学療法学専攻の求人・就職状況

- 資料 18 世論調査報告書調査（平成 31 年 1 月調査）内閣府 ※抜粋
<https://survey.gov-online.go.jp/h21/h21-tairyoku/index.html>
- 資料 19 公益財団法人熊本県スポーツ協会令和 2 年度事業計画 ※抜粋
http://kumamoto-sports.or.jp/soshiki/jigyuu_pdf/r2plan.pdf
- 資料 20 熊本県スポーツ協会のご意見
- 資料 21 スペシャルオリンピックス日本・熊本のご意見
- 資料 22 熊本県の商工労働部産業振興局と健康福祉部健康局のご意見
- 資料 23 本学のスポーツリハビリテーションに関する研究および実践
- 資料 24 本学リハビリテーション学科の過去 2 年の就職説明会参加または実習施設へのアンケート結果
- 資料 25 医療系以外の企業・行政組織・プロスポーツ団体等へのアンケート調査結果

【九州内】理学療法士養成 他大学データ(入学定員数)

地区	区分	校名	学部・学科・専攻		入学定員
1 九州	私立	熊本保健科学大学	保健科学部	リハビリテーション学科理学療法学専攻	40
2 九州	私立	九州看護福祉大学	看護福祉学部	リハビリテーション学科	60
3 九州	私立	国際医療福祉大学	福岡保健医療学部	理学療法学科	60
4 九州	私立	福岡国際医療福祉大学	医療学部	理学療法学科※2019年4月開校	40
5 九州	私立	九州栄養福祉大学	リハビリテーション学部	理学療法学科	80
6 九州	私立	帝京大学	福岡医療技術学部	理学療法学科	80
7 九州	私立	西九州大学	リハビリテーション学部	リハビリテーション学科理学療法学専攻	40

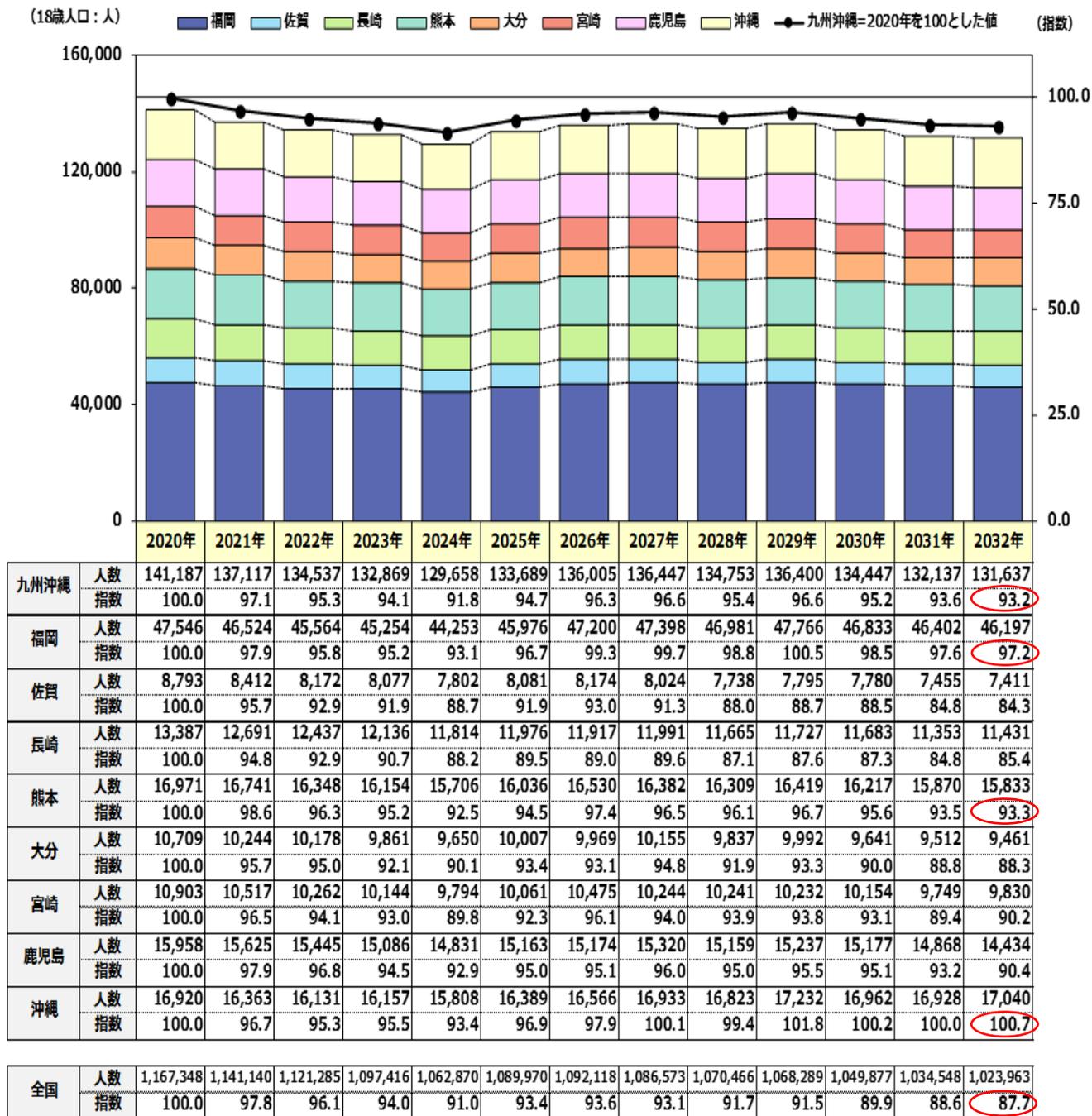
400

【入学定員】

◎平均値は約57名であることから、本学は最少クラスの定員数であることが分かった

九州沖縄の18歳人口予測 (2020~2032年)

18歳人口予測 (全体：九州沖縄：2020~2032年)



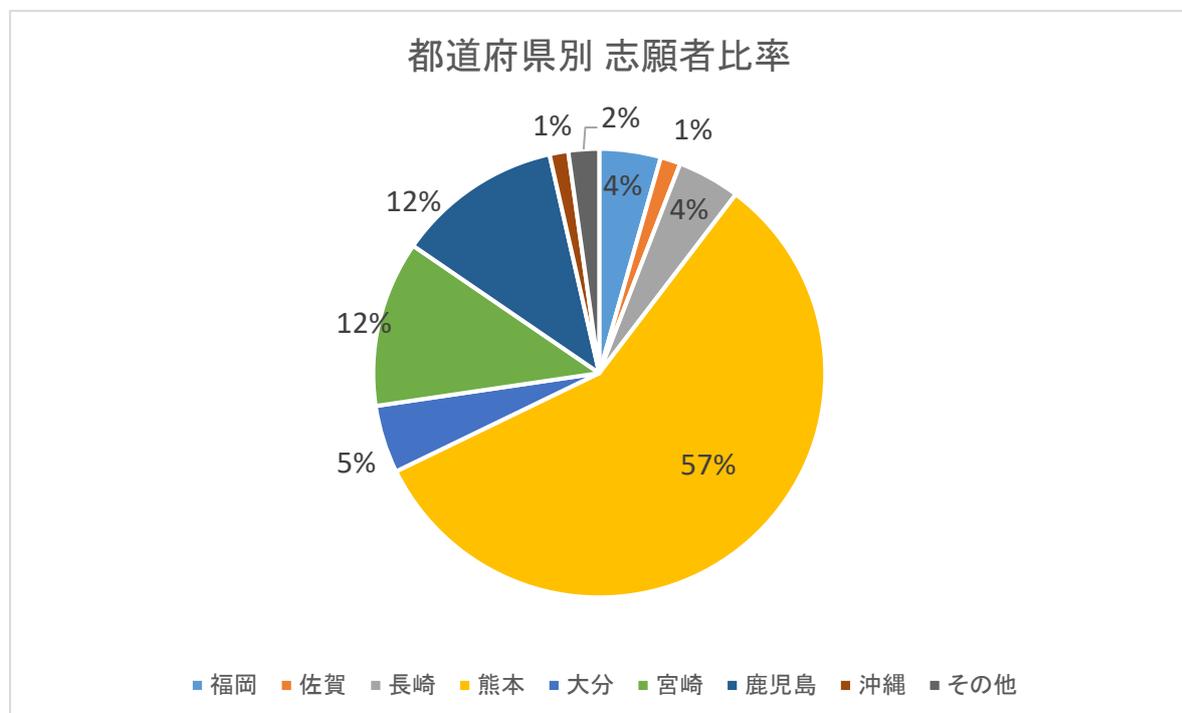
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

※学校基本調査を基にリクルート進学総研にて作成

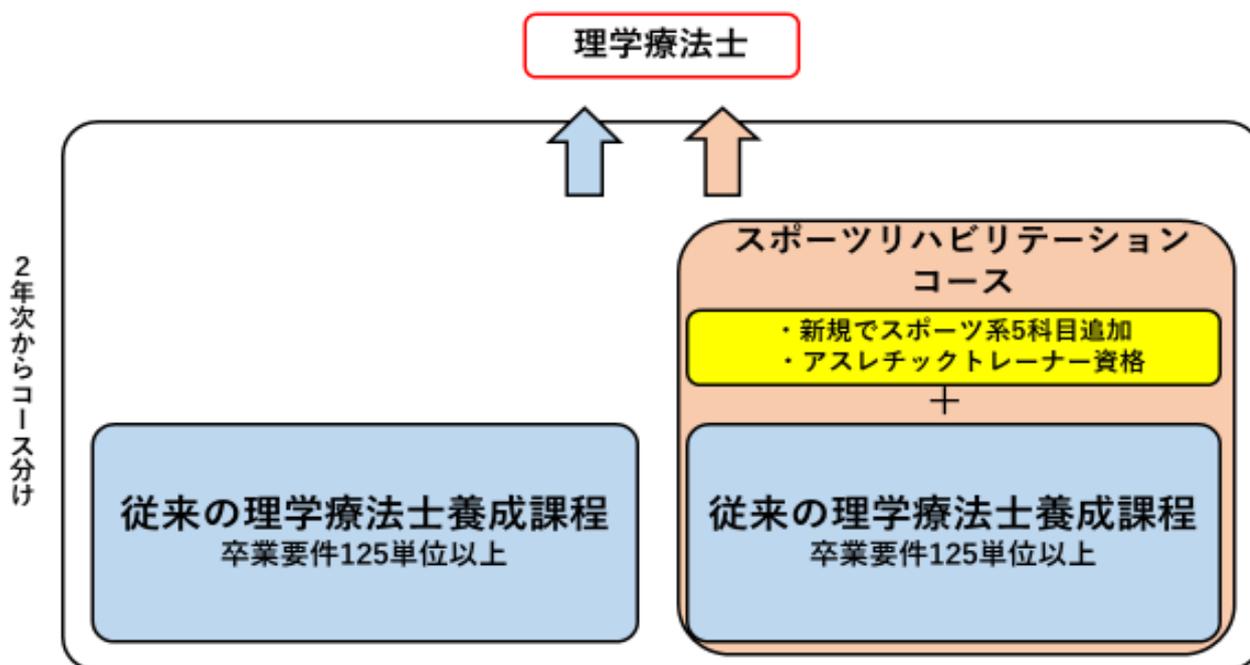
本学理学療法学専攻 都道府県別 入学志願者(過去5年)

県名	2017	2018	2019	2020	2021	合計	比率
福岡	9	7	9	13	8	46	4%
佐賀	1	4	7	1	2	15	1%
長崎	6	9	11	8	13	47	4%
熊本	134	95	108	134	130	601	57%
大分	10	9	12	15	5	51	5%
宮崎	30	34	11	35	15	125	12%
鹿児島	24	24	31	20	25	124	12%
沖縄	5	3	0	4	2	14	1%
その他	6	2	9	4	2	23	2%
合計	225	187	198	234	202	1046	100%

※県名は志願者の高校所在地をカウント



◆スポーツリハビリテーションコースとは



○定員について

健康・スポーツをキーワードに地域貢献できる人材やデータ分析等の研究力を有した人材の育成を目指しているコースで、通常の理学療法士養成課程にプラスαで付加価値を付けるカリキュラムとする。定員は実習配置が可能な人数として 20名 を予定している。

○コース選択時期について

コース選択のタイミングは 2年次から であり、定員を超えるエントリーの場合は 1年次の成績等 を基に選抜する。

○新コースの科目設定について

新規の科目として 5科目追加 し、そのうち 2科目 で実業団やプロスポーツチームとのアカデミック連携を視野に学外での演習・活動を予定している。他にスポーツデータサイエンスや、スポーツ心理学、スポーツトレーニング論の講義も予定している。5科目とした理由は、もともと理学療法士養成カリキュラムがタイトで、時間割上あまり空き時間がない現状を踏まえて、詰め込みすぎないように意識したことと、キャップ制度にも抵触しないようにするためである。

また、この 5科目 を自由科目にした理由は、必修科目とした場合、コース選択者が単位取得状況を理由に留年や卒業延期とならないようにとの配慮からである。選択科目を避けた理由は、選択科目群の中で必要単位を取得するにあたって、高い人気が見込まれる新規のスポーツ系科目だけに集中してしまう可能性があり、既存の重要な選択科目の履修者が少なくなることを避けるためである。

○アスレチックトレーナーの資格取得について

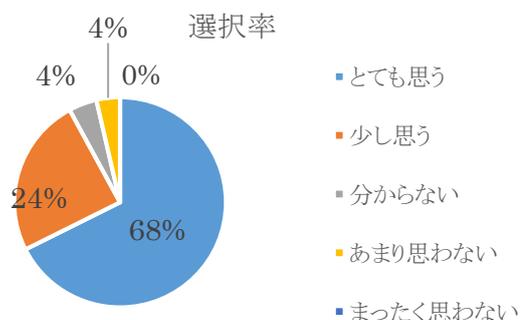
本コース選択者には理学療法士受験資格に加え、日本アスレチックトレーナーズ協会が認定している アスレチックトレーナー資格 が卒業時（理学療法士ライセンス取得後）に付与される（認定校申請中）。協会が指定した科目を既存科目と読み替えてもらうため、新規 5科目 中の 3科目 を含めた計 15科目 の読み替えを申請中である。

【PT 全学年へのアンケート結果は以下のとおり(180 名中 139 名回答)】

(将来、希望する活躍の場)

問 1. 卒業後、医療分野に就くことが多いと思いますが、スポーツ分野にも活躍の場を拡げることができれば良いと思いますか？

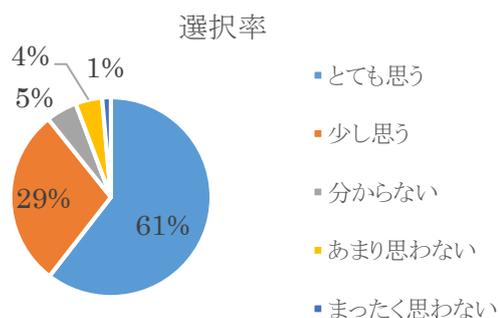
選択肢	選択者数
とても思う	94
少し思う	34
分からない	6
あまり思わない	5
まったく思わない	0
合計	139



(スポーツ資格のニーズ)

問 2. 本学で、理学療法士国家試験受験資格だけでなく、スポーツ関連の資格(アスレチックトレーナーやスポーツトレーナー等)も取得できれば、取得したいと思いますか？

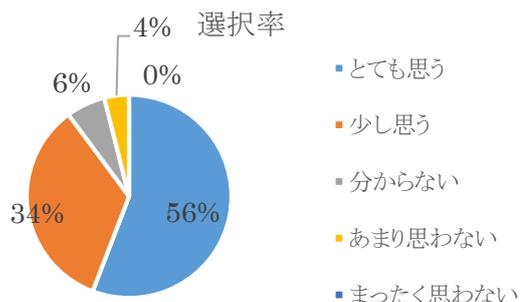
選択肢	選択者数
とても思う	84
少し思う	40
分からない	7
あまり思わない	6
まったく思わない	2
合計	139



(コース分けの感触)

問 3. 前問でスポーツ関連資格を取得したいと「思う」と回答した方にお尋ねします。
仮に「基本コース」と「スポーツコース」に分かれていて、スポーツコース選
択者だけが理学療法士とスポーツ関連資格のダブル取得ができるシステムだ
った場合、スポーツコースを選択してまでダブル取得を目指したいと思いま
すか？

選択肢	選択者数
とても思う	72
少し思う	44
分からない	8
あまり思わない	5
まったく思わない	0
合計	129

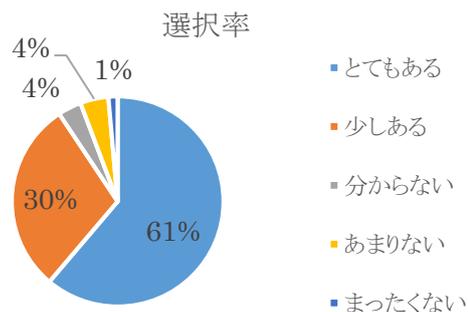


(AT の感触)

問 4. アスレチックトレーナー*の資格に興味がありますか？

*アスレチックトレーナーとは・・・スポーツ現場で選手が受傷したときの応急処置や
傷害の評価、復帰までの手順を考えたり、傷害の予防のために働く、スタッフの一員
である。現在ではスポーツ現場に限らず、高齢者の健康づくりなど、職域が広がって
いる。

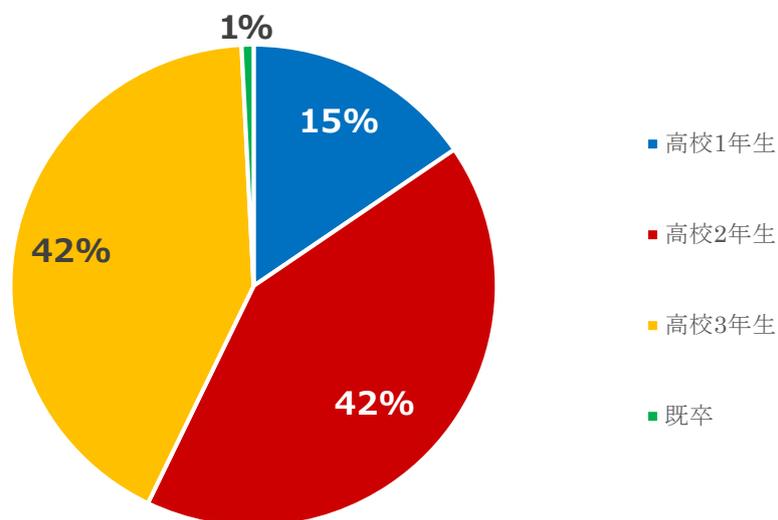
選択肢	選択者数
とてもある	85
少しある	41
分からない	5
あまりない	6
まったくない	2
合計	139



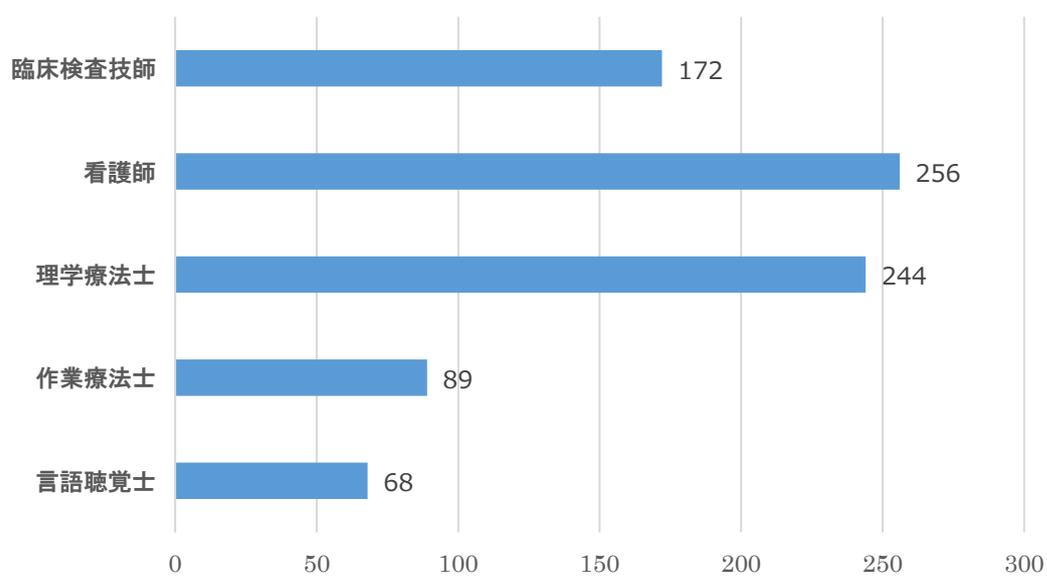
高校生向けアンケート

628名/4451名 回答

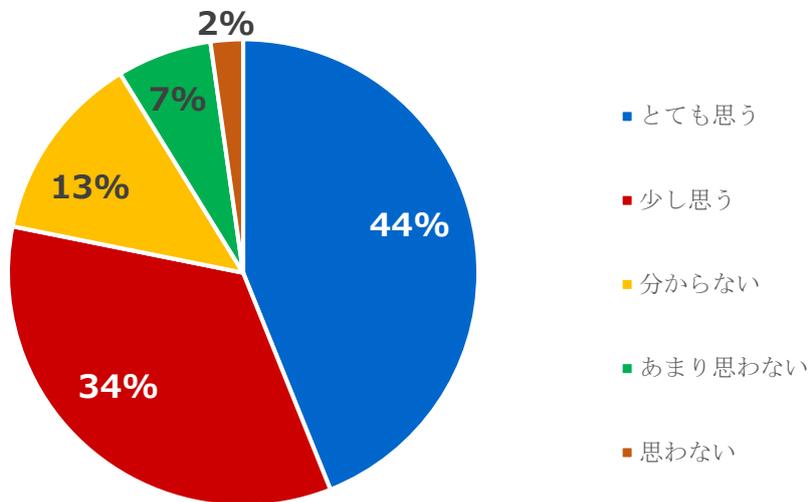
1) あなたの学年を教えてください。



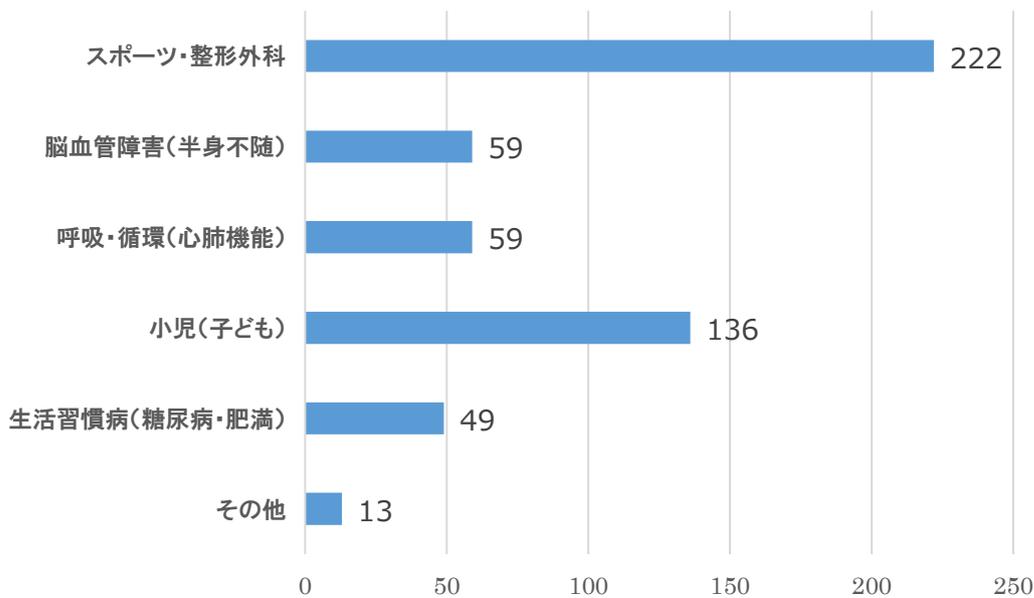
2) 本学の既存の5分野の中で、現在、興味を持っている分野を全て選択してください。



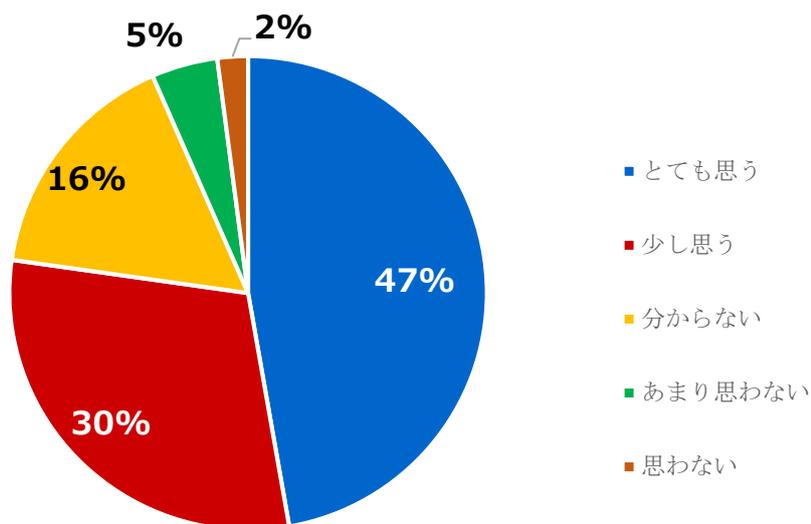
3) 将来、医療分野に就職することに興味をお持ちだと思いますが、医療人としてスポーツ分野にも活躍の場を拡げることに関心がありますか？



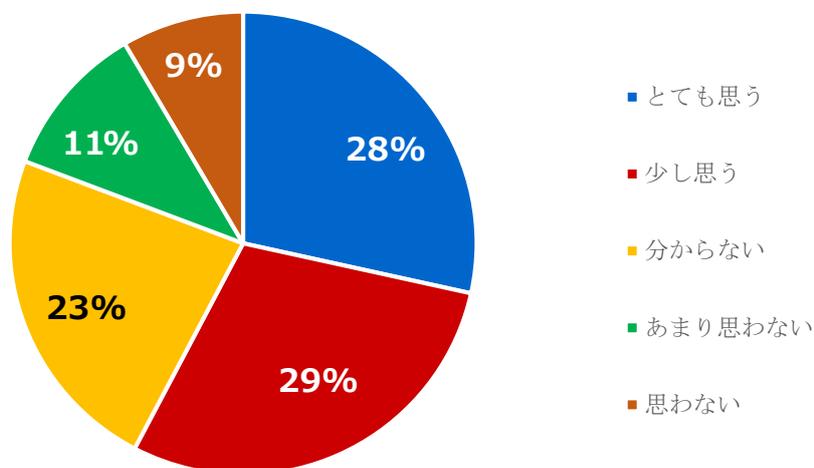
4) 【理学療法士に興味がある方へ質問です】あなたの興味のある理学療法士の学問の分野を全て選択してください。



5) 【理学療法士に興味がある方へ質問です】本学の理学療法士を養成する専攻において、通常の理学療法士養成の「基本コース」とは別に、理学療法士養成の学習に加えて、スポーツ分野でも活躍できる学習内容を盛り込んだ「スポーツリハビリテーションコース（理学療法士及びアスレチックトレーナーの両方の資格取得が可能）」が新設された場合は、選択したいと思いませんか？



6) 【理学療法士以外に興味がある方へ質問です】本学の理学療法士を養成する専攻において、「スポーツリハビリテーションコース（理学療法士及びアスレチックトレーナーの両方の資格取得が可能）」が新設された場合は、理学療法学専攻を進学先の選択肢の1つとして加えたいと思いませんか？

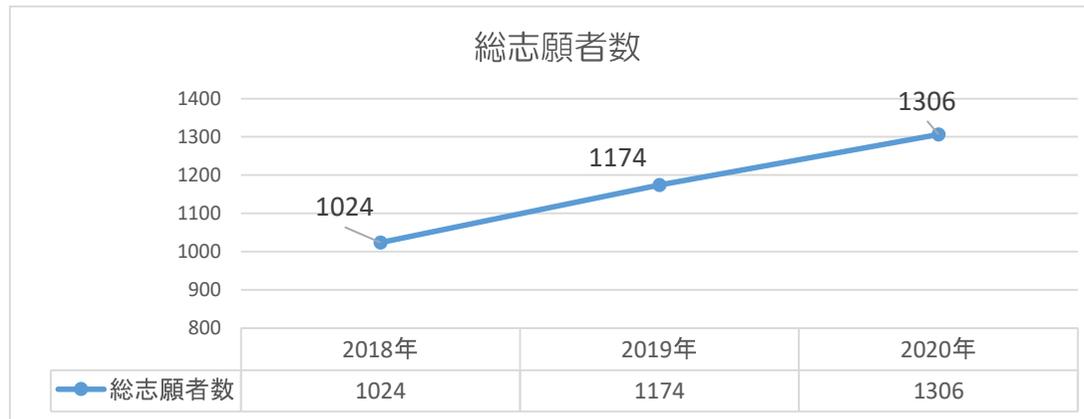


- ① 熊本県教育委員会のご意見【資料7】
本文1 ページ引用
- ② 熊本県教育委員会
- ③ ー
- ④ 本学が収容定員を変更（増員）し、スポーツリハビリテーションコースを設置することに対して期待するという旨の文書。

【九州内】理学療法士養成 他大学基礎データ(志願状況)

地区	区分	校名	入学定員	志願状況						
				H30(2018)		R1(2019)		R2(2020)		
				志願者数	志願倍率	志願者数	志願倍率	志願者数	志願倍率	
1	九州	私立	熊本保健科学大学	40	187	4.7	198	5.0	234	5.9
2	九州	私立	九州看護福祉大学	60	157	2.6	178	3.0	171	2.9
3	九州	私立	国際医療福祉大学	60	239	4.0	239	4.0	250	4.2
4	九州	私立	福岡国際医療福祉大学 ※2019年4月開校	40		0.0	181	4.5	260	6.5
5	九州	私立	九州栄養福祉大学	80	181	2.3	165	2.1	164	2.1
6	九州	私立	帝京大学	80	202	2.5	161	2.0	168	2.1
7	九州	私立	西九州大学	40	58	1.5	52	1.3	59	1.5
				400	1024		1174		1306	

【九州内私立大学 総志願者数の推移】



◎過去3年間、九州内において、志願者数・志願倍率は順調に伸びている

本学の理学療法学専攻(入学定員40名)志願等データ

	2017年度入試	2018年度入試	2019年度入試	2020年度入試	2021年度入試
志願者数	225	187	198	234	202
志願倍率	5.6	4.7	5.0	5.9	5.1
合格者数	72	84	79	70	70
入学者数	44	47	48	45	44
定員超過率	1.1	1.175	1.2	1.125	1.1

【九州内の理学療法士養成私立大学の学生納付金】

令和3年4月現在

分野	大学名	所在地	学科名	入学金	授業料等（年間）	4年間納付金総額
理学療法士	福岡国際医療福祉大学	福岡	理学療法学科	300,000	1,400,000	5,900,000
	帝京大学	福岡	理学療法学科	263,000	1,377,250	5,772,000
	西九州大学	佐賀	リハビリテーション学科	200,000	1,379,575	5,718,300
	国際医療福祉大学	福岡	理学療法学科	300,000	1,337,500	5,650,000
	熊本保健科学大学	熊本	リハビリテーション学科	200,000	1,350,000	5,600,000
	九州看護福祉大学	熊本	リハビリテーション学科	200,000	1,300,000	5,400,000
	九州栄養福祉大学	福岡	リハビリテーション学科	230,000	1,220,000	5,110,000

※記載の学生納付金は、令和3年4月時点で各大学のホームページ等で公表されている、2020年度入学生または2021年度入学生の金額です。

※委託徴収金（学友会費・後援会費・同窓会費・保険料等）は除いています。

2017年度 オープンキャンパス（7/23・8/20） アンケート結果

■アンケート回収率

種別	参加者	回答者	回収率
生徒	1305	1315	74.1%
保護者	469		
計	1774	1315	74.1%

〔前年度〕 80.1%

■Q1. 本日のOCの感想を教えてください

1.満足	2.ほぼ満足	3.普通	4.やや不満	5.不満	未回答
945	214	25	0	0	132
79%	18%	2%	0%	0%	-

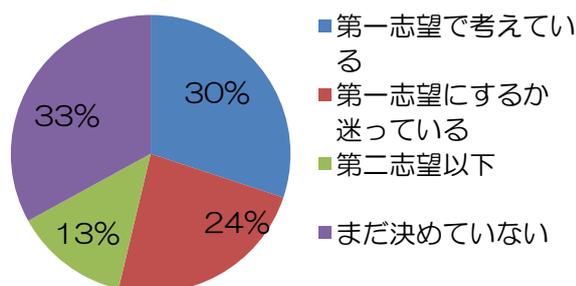
■Q2. 本学の特徴の中で、もっとも気に入ったものを教えてください（複数回答可）

項目	人数	選択率
就職率100%の実績	838	64%
国家試験合格率の高さ	768	58%
最新鋭の施設設備が整っていること	463	35%
学費の安さ	359	27%
少人数の学生と教員で構成されるスモールグループにより学習と生活、試験対策のサポートが充実	350	27%
駅から近く便利が良い	341	26%
緑に囲まれた清潔感のあるキャンパス	336	26%
専門領域を横断した演習などでチーム医療が学べる	210	16%
補講や模擬試験などの資格取得支援の充実	204	16%
学生の希望を優先した学外実習先の選定	115	9%
文化系・体育系を合わせ30以上ある部活動	72	5%
ピアサポーター制度があること	72	5%
その他	26	2%

■Q3. 入学志望度を教えてください。〔参加前〕

項目	人数	構成比
第一志望で考えている	383	30%
第一志望にするか迷っている	300	24%
第二志望以下	169	13%
まだ決めていない	420	33%
計	1272	100%

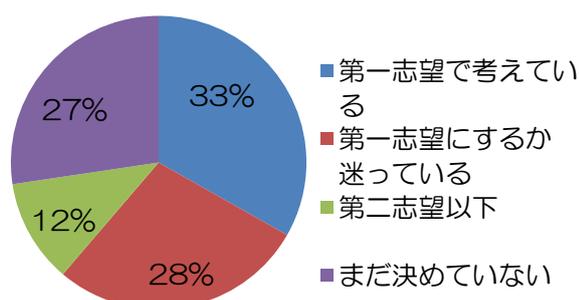
(無回答：43)



■Q3-1. 入学志望度を教えてください。〔参加後〕

項目	人数	構成比
第一志望で考えている	425	33%
第一志望にするか迷っている	358	28%
第二志望以下	146	11%
まだ決めていない	350	27%
計	1279	100%

(無回答：36)



2018年度 オープンキャンパス（7/22・8/19） アンケート結果

■アンケート回収率

種別	参加者	回答者	回収率
生徒	1227	1156	67.6%
保護者	482		
計	1709	1156	67.6%

〔前年度〕 74.1%

■Q1. 本日のOCの感想を教えてください

項目	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	未回答
人数	862	172	28	0	0	94
構成比	81%	16%	3%	0%	0%	-

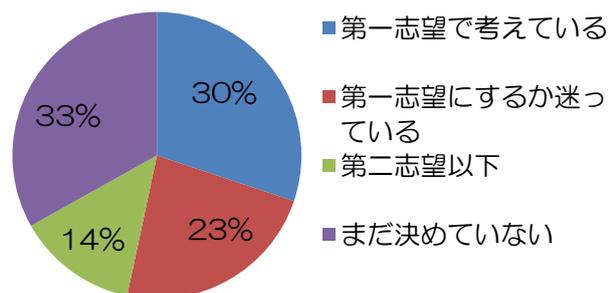
■Q2. 本学の特徴の中で、もっとも気に入ったものを教えてください（あてはまるものすべて○印をつけてください）

項目	人数	選択率	〔前年度〕
国家試験合格率の高さ	745	64%	58%
就職率100%の実績	735	64%	64%
最新鋭の施設設備が整っていること	447	39%	35%
駅から近く便利が良い	404	35%	26%
緑に囲まれた清潔感のあるキャンパス	334	29%	26%
学費の安さ	289	25%	27%
少人数の学生と教員で構成されるスモールグループにより学習と生活、試験対策のサポートが充実	258	22%	27%
補講や模擬試験などの資格取得支援の充実	187	16%	16%
専門領域を横断した演習などでチーム医療が学べる	174	15%	16%
学生の希望を優先した学外実習先の選定	101	9%	9%
文化系・体育系を合わせ30以上ある部活動	81	7%	5%
ピアサポーター制度があること	55	5%	5%
その他	18	2%	2%

■Q3. 入学志望度を教えてください。〔参加前〕

項目	人数	構成比
第一志望で考えている	341	30%
第一志望にするか迷っている	262	23%
第二志望以下	153	14%
まだ決めていない	375	33%
計	1131	100%

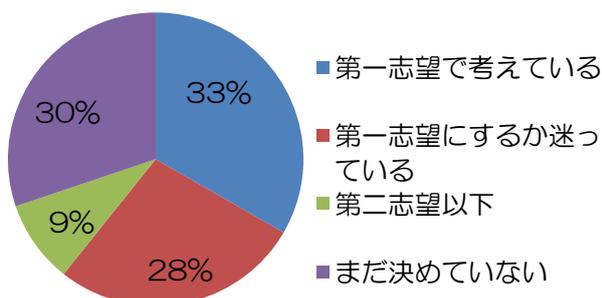
(無回答：25)



■Q3-1. 入学志望度を教えてください。〔参加後〕

項目	人数	構成比
第一志望で考えている	373	33%
第一志望にするか迷っている	306	28%
第二志望以下	102	9%
まだ決めていない	338	30%
計	1119	100%

(無回答：37)



2019年度 オープンキャンパス（7/21・8/18） アンケート結果

■アンケート回収率

種別	参加者	回答者	回収率
生徒	1291	1000	54.1%
保護者	556		
計	1847	1000	54.1%

〔前年度〕
67.6%

■Q1. 進学先を検討する際、どんなことをやっていますか？（複数回答可）

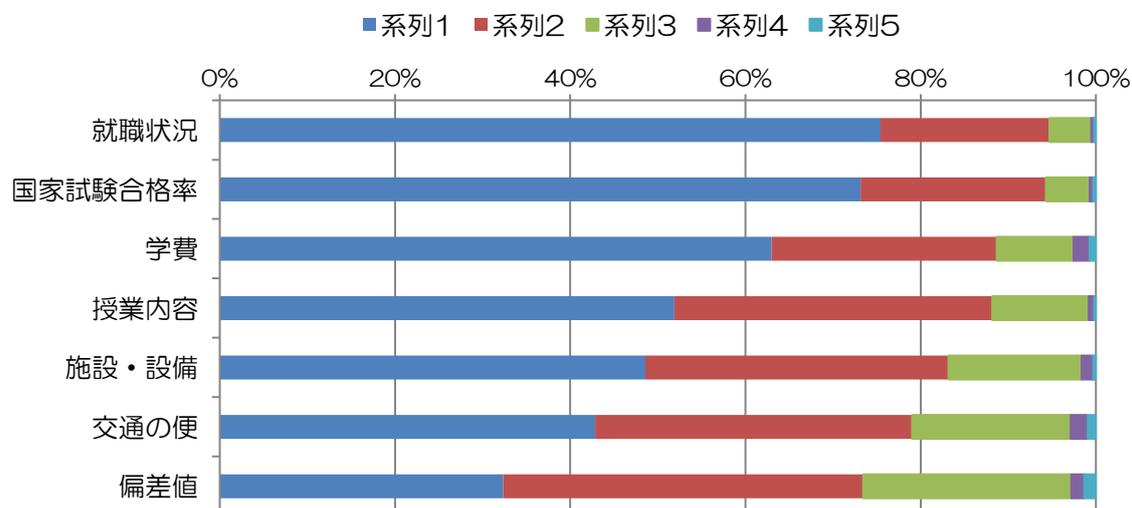
項目	人数	選択率
オープンキャンパスに参加	825	83%
保護者と相談	724	72%
インターネットの活用	514	51%
先生（担任、進路指導）に相談	493	49%
先輩との情報交換	140	14%
進学情報誌の活用	136	14%
進路指導室で資料調べ	130	13%
進学ガイダンスに参加	109	11%

■Q2. 進学先を選択するうえで、重要視していることを5段階評価してください。

重視する ←————→ 重視しない

項目	1	2	3	4	5
就職状況	740	189	47	3	2
国家試験合格率	716	207	49	4	3
学費	617	252	86	18	7
授業内容	505	353	107	6	2
施設・設備	473	337	148	13	3
交通の便	417	352	176	19	9
偏差値	313	398	230	14	13

（単位：名）



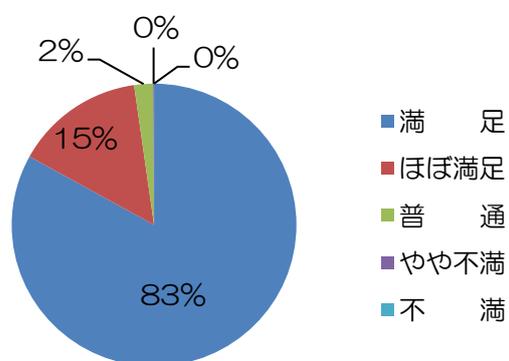
■Q3. 本学のOCに参加したきっかけは？（複数回答可）

項目	人数	選択率
ホームページを見て	541	54%
家族・友人に聞いて	498	50%
請求した資料に入っていたリーフレットを見て	131	13%
先生に聞いて	117	12%
進学情報誌を見て	66	7%
進学ガイダンスに行って	42	4%
本学のLINE配信を見て	32	3%
その他	18	2%

■Q4. 模擬実習に参加していかがでしたか？

項目	人数	構成比
満足	813	83%
ほぼ満足	144	15%
普通	21	2%
やや不満	1	0%
不満	0	0%
計	979	100%

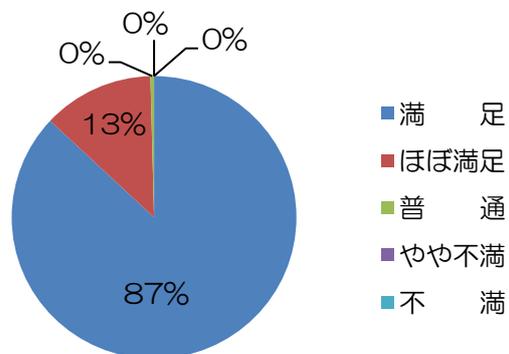
(無回答：21)



■Q5. OCに参加していかがでしたか？

項目	人数	構成比
満足	848	87%
ほぼ満足	123	13%
普通	4	0%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
計	975	100%

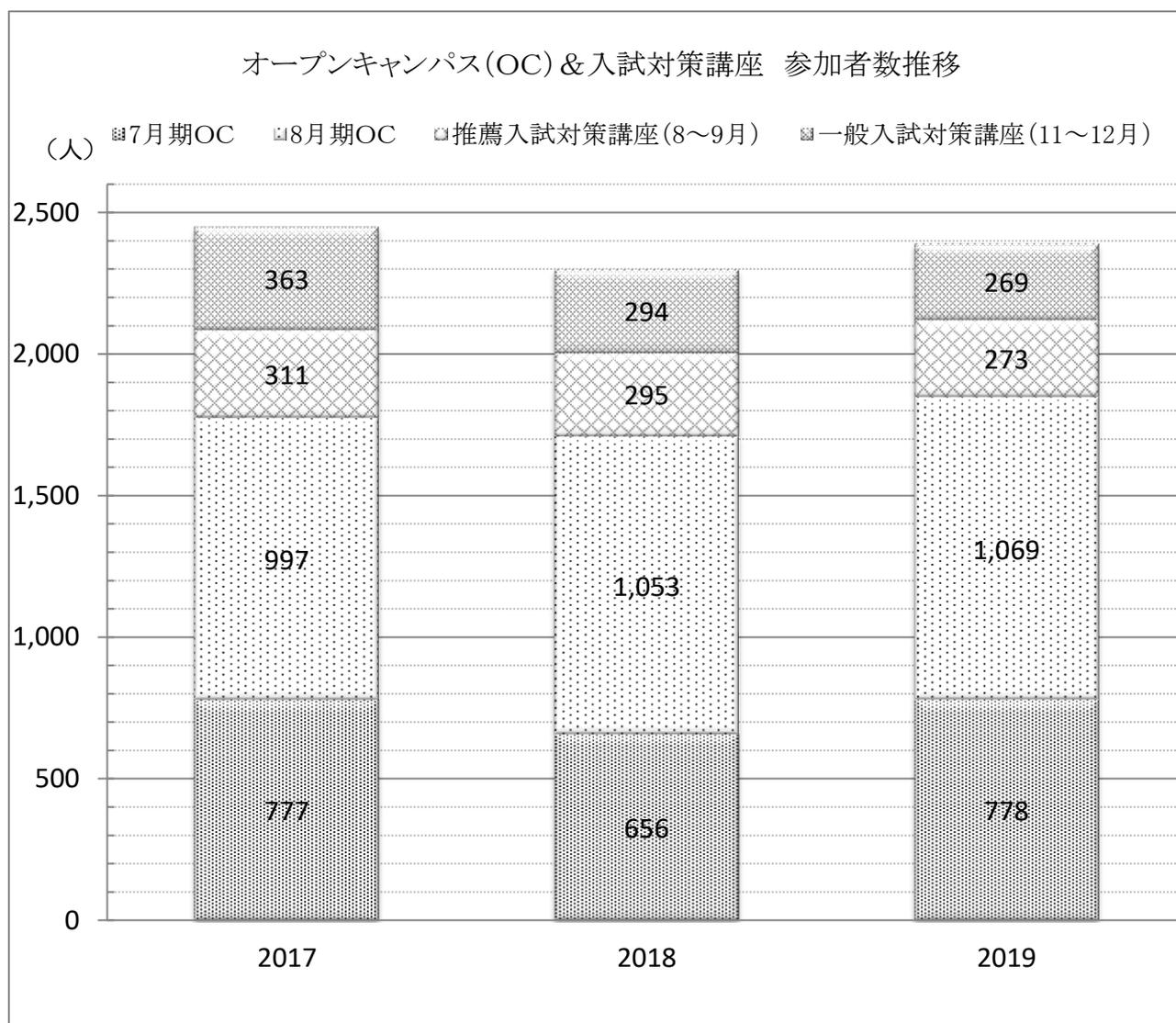
(無回答：25)



■Q6. もし本学を受験する場合は、どの入試区分で受験しようとお考えですか？（複数回答可）

入試区分	人数	選択率
一般入試	516	62%
推薦入試	506	61%
センター利用入試	140	17%

※生徒のみ



年度	① 7月期OC	② 8月期OC	③ 推薦入試対策講座 (8~9月)	④ 一般入試対策講座 (11~12月)	①~②計 狭義のOC	①~④計 広義のOC
2017	777	997	311	363	1,774	2,448
2018	656	1,053	295	294	1,709	2,298
2019	778	1,069	273	269	1,847	2,389

2017年度 推薦入試対策講座 (8/27) アンケート結果

■ アンケート回収率

参加者	回答者	回収率	〔前年度〕
240	215	89.6%	92.3%

■ Q1. 本学のOCに参加しましたか？ (複数回答可)

項目	人数	選択率	〔前年度〕
7月23日(日)	103	48%	43%
8月20日(日)	83	39%	36%
以前参加した	59	27%	30%
参加していない	15	7%	9%

■ Q2. 他大学のOCに参加しましたか？

項目	人数	構成比	〔前年度〕
参加した	94	44%	42%
参加していない	119	56%	58%
計	213	100%	

(無回答：2)

■ Q3. 満足度 (英語)

項目	人数	
満足	173	96%
ほぼ満足	33	
普通	8	
やや不満	0	
不満	1	
計	215	

(無回答：0)

■ Q3. 満足度 (国語)

項目	人数	
満足	166	97%
ほぼ満足	42	
普通	6	
やや不満	0	
不満	0	
計	214	

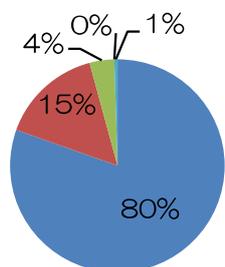
(無回答：1)

■ Q3. 満足度 (数学)

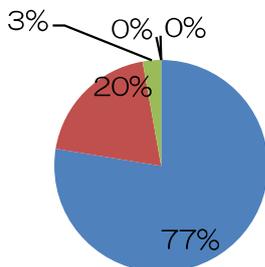
項目	人数	
満足	178	96%
ほぼ満足	26	
普通	6	
やや不満	2	
不満	0	
計	212	

(無回答：3)

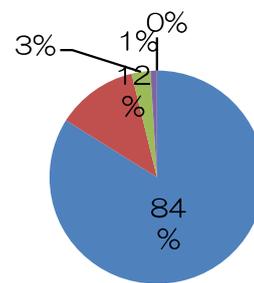
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通
■ やや不満 ■ 不満



■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通
■ やや不満 ■ 不満



■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通
■ やや不満 ■ 不満

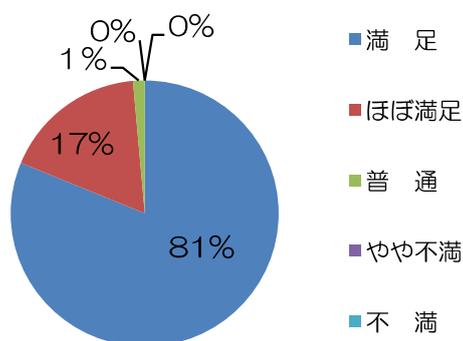


■ Q4. 「推薦入試対策講座」への満足度は？

項目	人数	構成比
満足	173	81%
ほぼ満足	37	17%
普通	3	1%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
計	213	100%

(無回答：2)

〔前年度〕
85%
15%
0%
0%
0%



■ Q5. 本学の一般推薦入試を受験したいと考えていますか？

項目	人数	構成比	〔前年度〕
はい	204	95%	94%
いいえ	7	3%	5%
未定	4	2%	1%
計	215	100%	

(無回答：0)

2018年度 推薦入試対策講座（8/26） アンケート結果

■ アンケート回収率

参加者	回答者	回収率	〔前年度〕
233	193	82.8%	89.6%

■ Q1. 本学のOCに参加しましたか？（複数回答可）

項目	人数	選択率	〔前年度〕
7月22日（日）	83	43%	48%
8月19日（日）	78	40%	39%
以前参加した	59	31%	27%
参加していない	7	4%	9%

■ Q2. 他大学のOCに参加しましたか？

項目	人数	構成比	〔前年度〕
参加した	81	43%	44%
参加していない	109	57%	56%
計	190	100%	

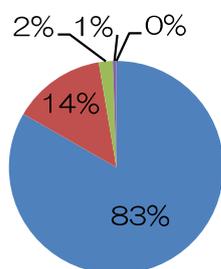
（無回答：3）

■ Q3. 満足度（英語）

項目	人数
満足	160
ほぼ満足	27
普通	4
やや不満	1
不満	0
計	192

（無回答：1）

■満足 ■ほぼ満足 ■普通
■やや不満 ■不満

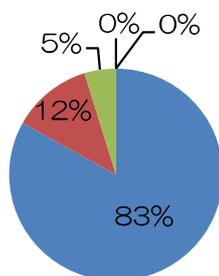


■ Q3. 満足度（国語）

項目	人数
満足	157
ほぼ満足	23
普通	9
やや不満	0
不満	0
計	189

（無回答：4）

■満足 ■ほぼ満足 ■普通
■やや不満 ■不満

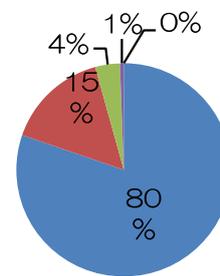


■ Q3. 満足度（数学）

項目	人数
満足	151
ほぼ満足	29
普通	7
やや不満	1
不満	0
計	188

（無回答：5）

■満足 ■ほぼ満足 ■普通
■やや不満 ■不満

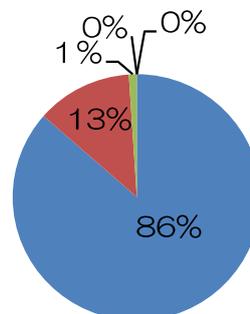


■ Q4. 「推薦入試対策講座」への満足度は？

項目	人数	構成比
満足	166	86%
ほぼ満足	24	13%
普通	2	1%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
計	192	100%

（無回答：1）

〔前年度〕
81%
17%
1%
0%
0%



■満足
■ほぼ満足
■普通
■やや不満
■不満

■ Q5. 本学の一般推薦入試を受験したいと考えていますか？

項目	人数	構成比
はい	177	93%
いいえ	13	7%
計	190	100%

（無回答：3）

〔前年度〕
97%
3%

2019年度 推薦入試対策講座（8/25） アンケート結果

■ アンケート回収率

参加者	回答者	回収率
219	210	95.9%

〔前年度〕
88.1%

■ Q1. 本学のOCに参加しましたか？（複数回答可）

項目	人数	選択率	〔前年度〕
7月21日（日）	95	45%	43%
8月18日（日）	91	43%	40%
以前参加した	45	21%	31%
参加していない	12	6%	4%

■ Q2. 他大学のOCに参加しましたか？

項目	人数	構成比	〔前年度〕
参加した	98	47%	43%
参加していない	109	53%	57%
計	207	100%	

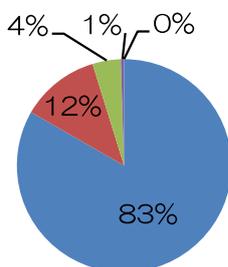
（無回答：3）

■ Q3. 満足度（英語）

項目	人数
満足	175
ほぼ満足	25
普通	9
やや不満	1
不満	0
計	210

（無回答：0）

■満足 ■ほぼ満足 ■普通
■やや不満 ■不満

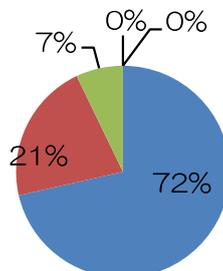


■ Q3. 満足度（国語）

項目	人数
満足	150
ほぼ満足	45
普通	15
やや不満	0
不満	0
計	210

（無回答：0）

■満足 ■ほぼ満足 ■普通
■やや不満 ■不満

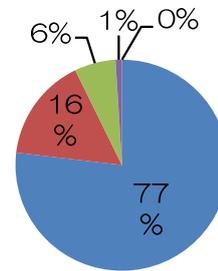


■ Q3. 満足度（数学）

項目	人数
満足	160
ほぼ満足	33
普通	13
やや不満	2
不満	0
計	208

（無回答：2）

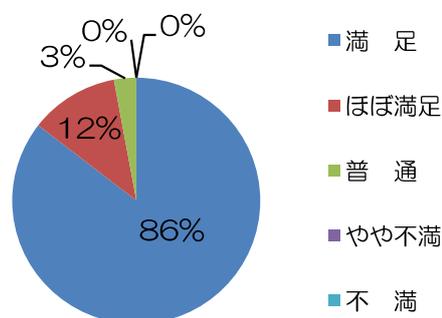
■満足 ■ほぼ満足 ■普通
■やや不満 ■不満



■ Q4. 「推薦入試対策講座」への満足度は？

項目	人数	構成比
満足	177	86%
ほぼ満足	24	12%
普通	6	3%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
計	207	100%

（無回答：3）

〔前年度〕
86%
13%
1%
0%
0%

■ Q5. 本学の一般推薦入試を受験したいと考えていますか？

項目	人数	構成比
はい	193	93%
いいえ	14	7%
計	207	100%

（無回答：3）

〔前年度〕
93%
7%

2017「チャレンジ 熊保大！ 一般入試対策講座」アンケート結果

《参加者総数363名(内 生徒275名)》

■ アンケート回収率

開催日	回収人数	回収率
2017/12/10	210	76.4%

Q1. 希望(興味のある)学科 ※複数回答可

項目	人数
医学検査	62
看護	82
リハ(理学)	39
リハ(生活)	27
リハ(言語)	22
助産	12
未定	2

Q2. オープンキャンパス参加 ※複数回答可

項目	人数
7月23日(日)	55
8月20日(日)	60
8月27日(日)	61
以前参加した	27
参加していない	76
無回答	1

Q3. 今年、他大学のオープンキャンパスに参加されましたか？

項目	人数
参加した	102
参加していない	100
無回答	8

Q4. 国公立大学との併願を考えていますか？

項目	人数
はい	63
いいえ	115
センター試験次第	30
その他	1
無回答	1

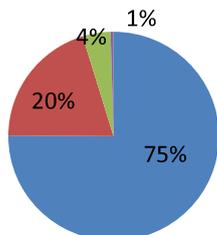
Q5. 受講した科目 ※複数回答可

項目	英語	国語	数学Ⅰ・Ⅱ	数学Ⅰ・A	物理	化学	生物	小論文
人数	209	134	72	161	8	46	93	9

Q5. 問題解説満足度(英語)

項目	人数
満足	157
ほぼ満足	42
普通	9
やや不満	1
不満	0

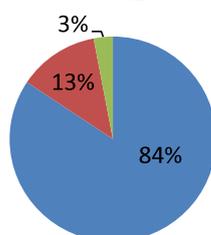
■満足 ■ほぼ満足 ■普通 ■やや不満 ■不満



Q5. 問題解説満足度(国語)

項目	人数
満足	113
ほぼ満足	17
普通	4
やや不満	0
不満	0

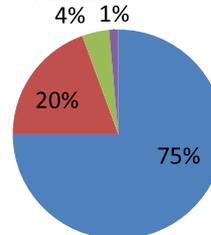
■満足 ■ほぼ満足 ■普通 ■やや不満 ■不満



Q5. 問題解説満足度(数学Ⅰ・Ⅱ)

項目	人数
満足	54
ほぼ満足	14
普通	3
やや不満	1
不満	0

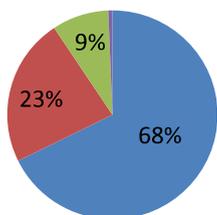
■満足 ■ほぼ満足 ■普通 ■やや不満 ■不満



Q5. 問題解説満足度 (数学I-A)

項目	人数
満足	109
ほぼ満足	37
普通	14
やや不満	1
不満	0

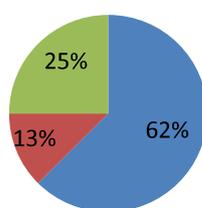
■満足 ■ほぼ満足 ■普通 ■やや不満 ■不満



Q5. 問題解説満足度 (物理)

項目	人数
満足	5
ほぼ満足	1
普通	2
やや不満	0
不満	0

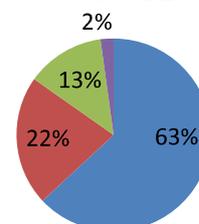
■満足 ■ほぼ満足 ■普通 ■やや不満 ■不満



Q5. 問題解説満足度 (化学)

項目	人数
満足	29
ほぼ満足	10
普通	6
やや不満	1
不満	0

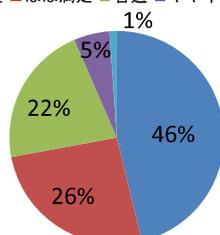
■満足 ■ほぼ満足 ■普通 ■やや不満 ■不満



Q5. 問題解説満足度 (生物)

項目	人数
満足	43
ほぼ満足	24
普通	20
やや不満	5
不満	1

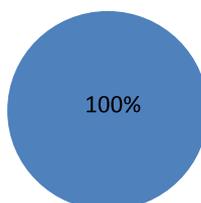
■満足 ■ほぼ満足 ■普通 ■やや不満 ■不満



Q5. 問題解説満足度 (小論文)

項目	人数
満足	9
ほぼ満足	0
普通	0
やや不満	0
不満	0

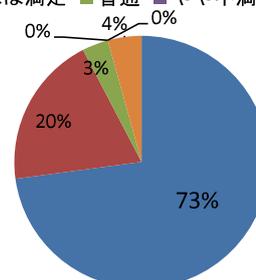
■満足 ■ほぼ満足 ■普通 ■やや不満 ■不満



Q6. 「一般入試対策講座」に参加した満足度

項目	人数
満足	153
ほぼ満足	41
普通	7
やや不満	0
不満	0
無回答	9

■満足 ■ほぼ満足 ■普通 ■やや不満 ■不満 ■無回答



2018「チャレンジ 熊保大！ 一般入試対策講座」アンケート結果

«参加者総数294名 (内 生徒223名) »

■ アンケート回収率

開催日	回収人数	回収率
2018/12/9	170	76.2%

Q1. 希望（興味のある）学科 ※複数回答可

項目	人数
医学検査	44
看護	78
リハ（理学）	31
リハ（生活）	13
リハ（言語）	15
助産	15
未定	2

Q2. オープンキャンパス参加 ※複数回答可

項目	人数
7月22日（日）OC	43
8月19日（日）OC	51
8月26日（日）チャレンジ熊保大	60
以前参加した	28
参加していない	43
無回答	1

Q3. 今年、他大学のオープンキャンパスに参加されましたか？

項目	人数
参加した	92
参加していない	73
無回答	5

Q4. 国公立大学との併願を考えていますか？

項目	人数
はい	49
いいえ	91
センター試験次第	26
その他	1
無回答	3

Q5. 受講した科目 ※複数回答可

項目	英語	国語	数学Ⅰ・Ⅱ	数学Ⅰ・A	物理	化学	生物	小論文
人数	168	114	58	131	8	49	55	8

Q5. 問題解説満足度（英語）

項目	人数
満足	127
ほぼ満足	36
普通	5
やや不満	0
不満	0

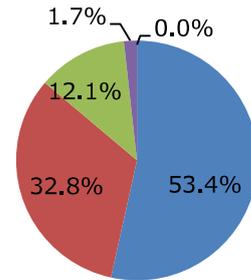
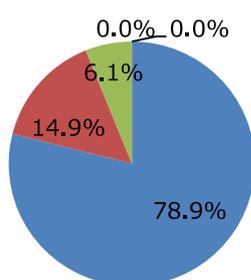
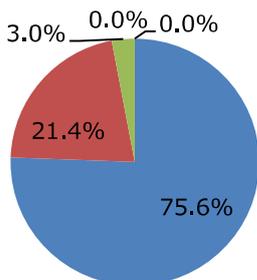
Q5. 問題解説満足度（国語）

項目	人数
満足	90
ほぼ満足	17
普通	7
やや不満	0
不満	0

Q5. 問題解説満足度（数学Ⅰ・Ⅱ）

項目	人数
満足	31
ほぼ満足	19
普通	7
やや不満	1
不満	0

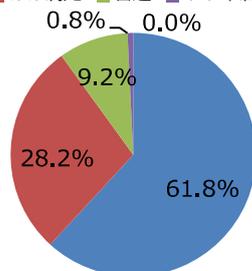
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



Q5. 問題解説満足度 (数学I・A)

項目	人数
満足	81
ほぼ満足	37
普通	12
やや不満	1
不満	0

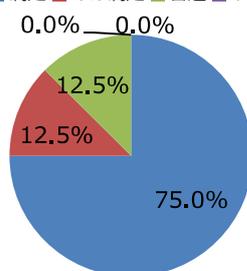
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



Q5. 問題解説満足度 (物理)

項目	人数
満足	6
ほぼ満足	1
普通	1
やや不満	0
不満	0

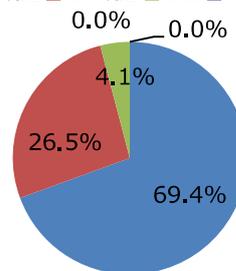
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



Q5. 問題解説満足度 (化学)

項目	人数
満足	34
ほぼ満足	13
普通	2
やや不満	0
不満	0

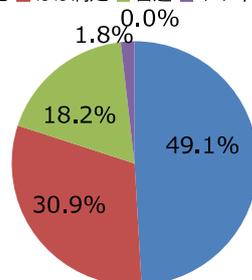
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



Q5. 問題解説満足度 (生物)

項目	人数
満足	27
ほぼ満足	17
普通	10
やや不満	1
不満	0

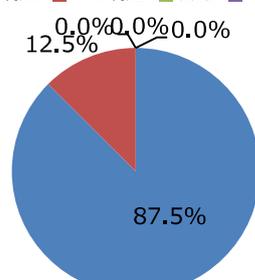
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



Q5. 問題解説満足度 (小論文)

項目	人数
満足	7
ほぼ満足	1
普通	0
やや不満	0
不満	0

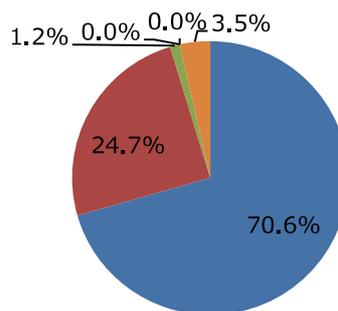
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



Q6. 「一般入試対策講座」に参加した満足度

項目	人数
満足	120
ほぼ満足	42
普通	2
やや不満	0
不満	0
無回答	6

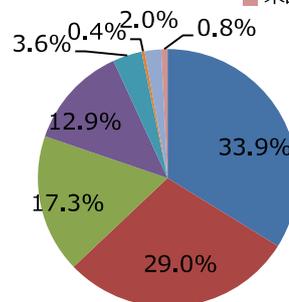
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 無回答



Q7. このイベントを何で知りましたか？

項目	人数
大学ホームページ	84
案内チラシ	72
高校等からの案内	43
家族・友人	32
進学ガイダンス	9
スタディサプリ (リクルート)	1
その他	5
未回答	2

■ 大学ホームページ ■ 案内チラシ
 ■ 高校等からの案内 ■ 家族・友人
 ■ 進学ガイダンス ■ スタディサプリ (リクルート)
 ■ その他 ■ 未回答



その他内訳

LINE (3)、高校で配られた新聞、入試ガイド

2019「チャレンジ 熊保大！ 一般入試対策講座」アンケート結果

《参加者総数269名（内 生徒207名）》

■ アンケート回収率

開催日	回収人数	回収率
2019/12/8	153	73.9%

Q1. 希望（興味のある）学科 ※複数回答可

項目	人数
医学検査	40
看護	69
リハ（理学）	33
リハ（生活）	15
リハ（言語）	15
未定	1
無回答	1

Q2. オープンキャンパス参加 ※複数回答可

項目	人数
7月21日（日）OC	42
8月18日（日）OC	55
8月25日（日）チャレンジ熊保大	42
以前参加した	25
参加していない	35
無回答	1

Q3. 今年、他大学のオープンキャンパスに参加されましたか？

項目	人数
参加した	87
参加していない	61
無回答	5

Q4. 国立大学との併願を考えていますか？

項目	人数
はい	40
いいえ	85
センター試験次第	22
その他	1
無回答	5

すでに合格

Q5. 受講した科目 ※複数回答可

項目	英語	国語	数学Ⅰ・Ⅱ	数学Ⅰ・A	物理	化学	生物	小論文
人数	152	112	43	129	12	21	67	7

Q5. 問題解説満足度（英語）

項目	人数
満足	127
ほぼ満足	21
普通	4
やや不満	0
不満	0

Q5. 問題解説満足度（国語）

項目	人数
満足	88
ほぼ満足	18
普通	5
やや不満	0
不満	0

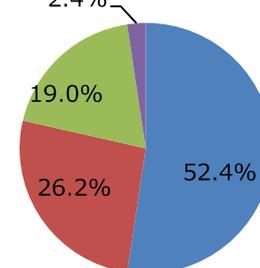
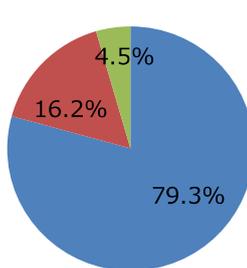
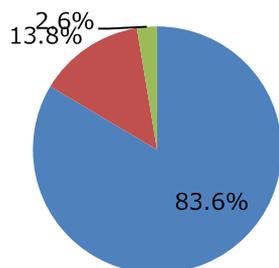
Q5. 問題解説満足度（数学Ⅰ・Ⅱ）

項目	人数
満足	22
ほぼ満足	11
普通	8
やや不満	1
不満	0

■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満

■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満

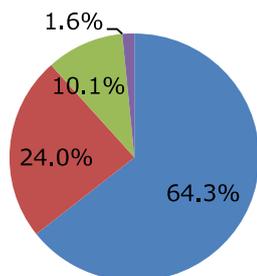
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



Q5. 問題解説満足度 (数学I・A)

項目	人数
満足	83
ほぼ満足	31
普通	13
やや不満	2
不満	0

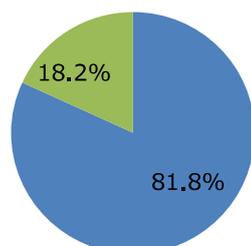
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



Q5. 問題解説満足度 (物理)

項目	人数
満足	9
ほぼ満足	0
普通	2
やや不満	0
不満	0

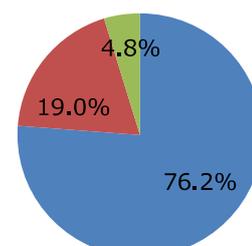
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



Q5. 問題解説満足度 (化学)

項目	人数
満足	16
ほぼ満足	4
普通	1
やや不満	0
不満	0

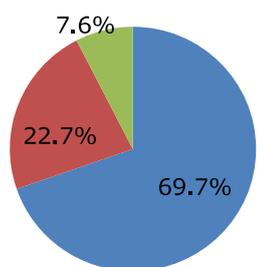
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



Q5. 問題解説満足度 (生物)

項目	人数
満足	46
ほぼ満足	15
普通	5
やや不満	0
不満	0

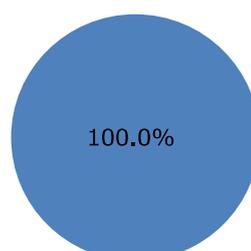
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



Q5. 問題解説満足度 (小論文)

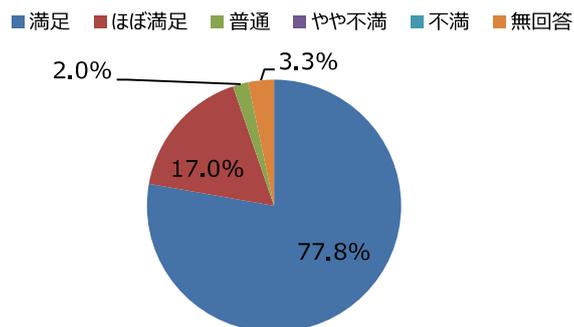
項目	人数
満足	6
ほぼ満足	0
普通	0
やや不満	0
不満	0

■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



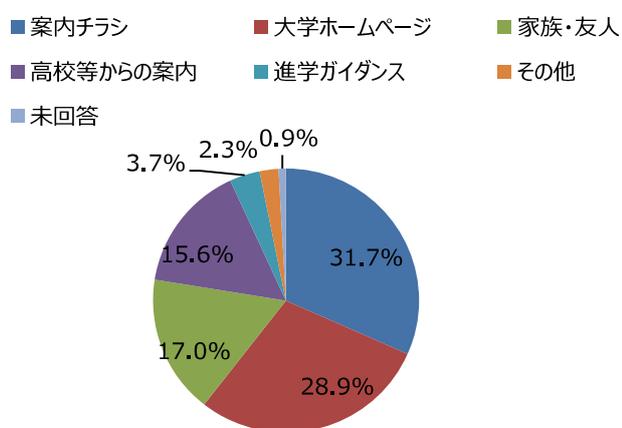
Q6. 「一般入試対策講座」に参加した満足度

項目	人数
満足	119
ほぼ満足	26
普通	3
やや不満	0
不満	0
無回答	5



Q7. このイベントを何で知りましたか？ ※複数回答可

項目	人数
案内チラシ	69
大学ホームページ	63
家族・友人	37
高校等からの案内	34
進学ガイダンス	8
その他	5
未回答	2



その他内訳

公式LINE (2)、オープンキャンパス (2)、入試関連資料 (1)

進学ガイダンス／出前授業 過去3年間（2017年～2019年度）の参加状況

年度	進学ガイダンス参加数	出前授業参加数
2017年度	99	32
2018年度	82	28
2019年度	76	31

※進学ガイダンスは会場ごとの訪問者数を参考に取捨選択し、参加会場の絞りこみを行った。

り)	(平成22年)	の状況を踏まえて設定
② 気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者の割合の減少	10.4% (平成22年)	9.4% (平成34年度)
③ メンタルヘルスに関する措置を受けられる職場の割合の増加	33.6% (平成19年)	100% (平成32年)
④ 小児人口10万人当たりの小児科医・児童精神科医師の割合の増加	小児科医 94.4 (平成22年) 児童精神科医 10.6 (平成21年)	増加傾向へ (平成26年)

(2) 次世代の健康

項 目	現 状	目 標
① 健康な生活習慣（栄養・食生活、運動）を有する子どもの割合の増加		
ア 朝・昼・夕の三食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子どもの割合の増加	小学5年生 89.4% (平成22年度)	100%に近づける (平成34年度)
イ 運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合の増加	(参考値) 週に3日以上 小学5年生 男子 61.5% 女子 35.9% (平成22年)	増加傾向へ (平成34年度)
② 適正体重の子どもの増加		
ア 全出生数中の低出生体重児の割合の減少	9.6% (平成22年)	減少傾向へ (平成26年)
イ 肥満傾向にある子どもの割合の減少	小学5年生の中等度・高度肥満傾向児の割合 男子 4.60% 女子 3.39% (平成23年)	減少傾向へ (平成26年)

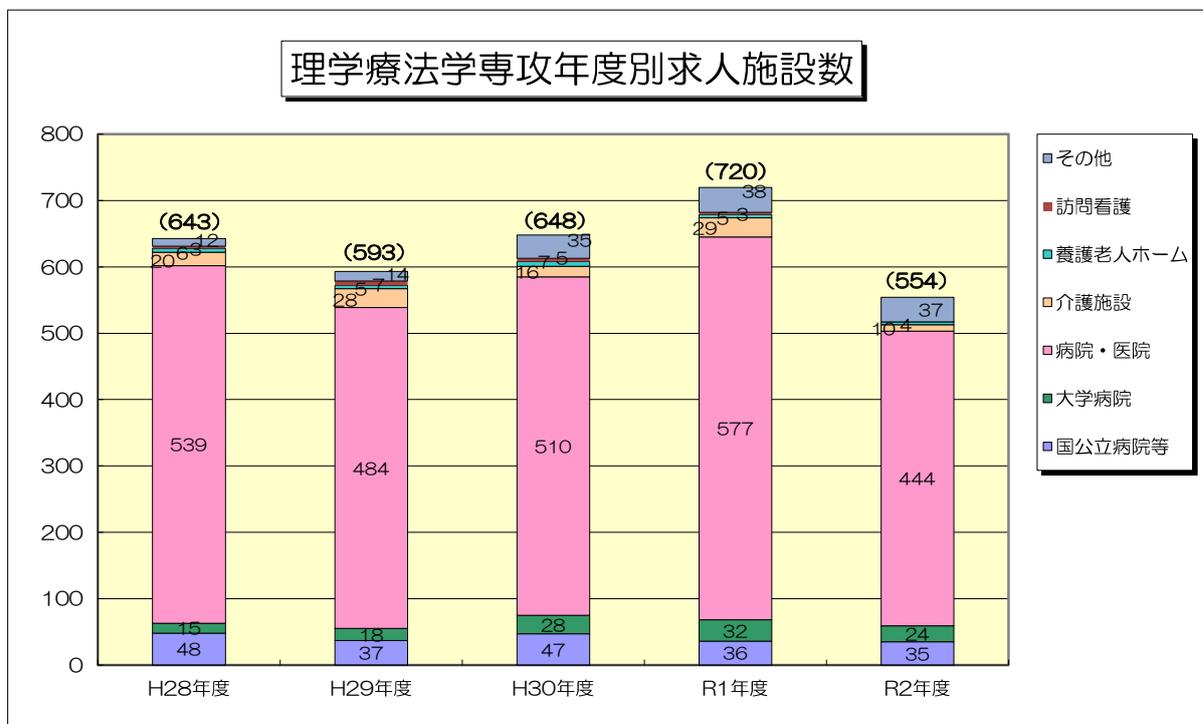
(3) 高齢者の健康

項 目	現 状	目 標
① 介護保険サービス利用者の増加の抑制	452万人 (平成24年度)	657万人 (平成37年度)
② 認知機能低下ハイリスク高齢者の把握率の向上	0.9% (平成21年)	10% (平成34年度)
③ ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している国民の割合の増加	(参考値) 17.3% (平成24年)	80% (平成34年度)
④ 低栄養傾向（BMI 20以下）の高齢者の割合の増加の抑制	17.4% (平成22年)	22% (平成34年度)
⑤ 足腰に痛みのある高齢者の割合の減少（1,000人当たり）	男性 218人 女性 291人 (平成22年)	男性 200人 女性 260人 (平成34年度)
⑥ 高齢者の社会参加の促進（就業	(参考値) 何らかの地域活動	80%

- ① 健康福祉行政の概要（令和元年度）熊本県 ※抜粋【資料 16】
本文 4 ページ引用
- ② 熊本県庁
- ③ 20 ページ目
<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/46022.pdf>
- ④ 23 項目の『第 4 次くまもとヘルスプラン』のうち、19～23 項目（20 ページ）
について黄色マーカーを付け、熊本県における健康増進プランの具体例を
挙げた。

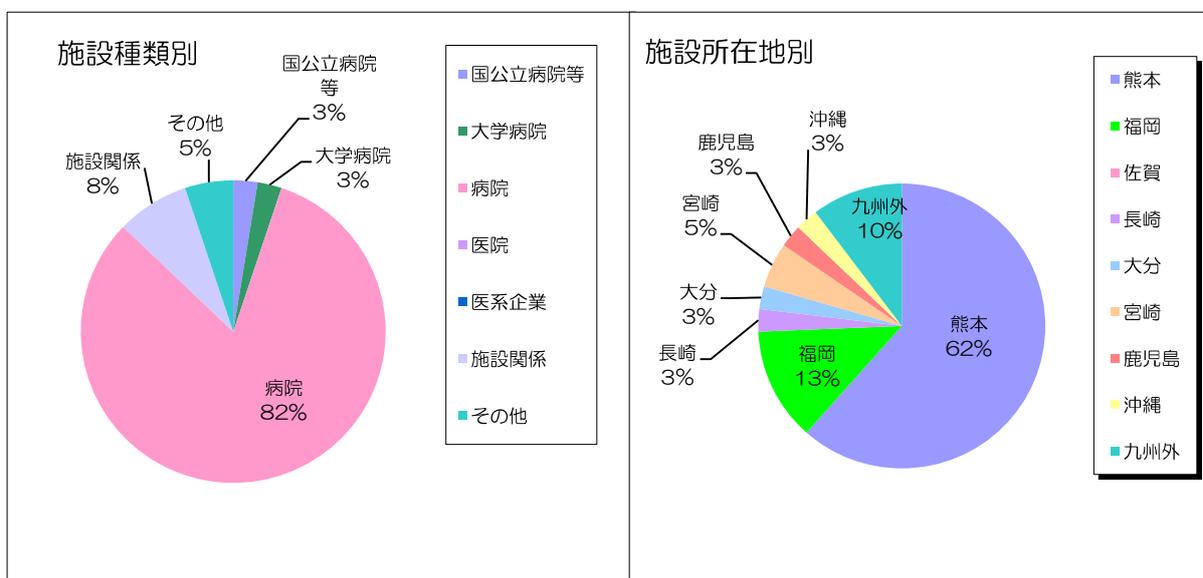
令和2年度 リハ学科【理学療法学専攻】 求人・就職状況

集計対象	求人施設数 (前年同時期)	就職希望者数	就職決定者数	就職率
令和2年度	554 (720)	39	39	100%



就職決定状況 各種内訳 (就職決定者39名)

施設 種類別	国公立病院等	大学病院	病院	医院	健診センター	検査センター	医系企業	施設関係	その他
	1	1	32	0	0	0	0	3	2
施設 所在地別	熊本	福岡	佐賀	長崎	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	九州外
	24	5	0	1	1	2	1	1	4



世論調査報告書
平成31年1月調査

スポーツの実施状況等に関する世論調査

スポーツ庁健康スポーツ課

目次

I 調査の概要	1
II 回答者属性	2
III 調査結果の概要	4
1 健康・体力に関する意識について	4
(1) 現在の健康状態	4
(2) 体力の自信の有無	6
(3) 運動不足を感じるか	8
2 運動・スポーツの実施状況と今後の意向について	10
(1) この1年間に行った運動・スポーツについて	10
ア この1年間に行った運動・スポーツの種目	10
イ この1年間に行った運動・スポーツの日数、運動実施率	13
ウ この1年間に行った運動・スポーツの実施場所	15
エ この1年間に行った運動・スポーツの実施時間帯	17
オ この1年間に行った運動・スポーツの実施形態	19
(2) 運動・スポーツの実施状況の変化とその要因について	24
ア 運動・スポーツの実施状況の変化	24
イ 運動・スポーツの実施状況に対する満足度	26
ウ 運動・スポーツの実施が増加した理由	28
エ 運動・スポーツの実施阻害要因 ①頻度減・増やせない(増やさない)理由	31
オ 運動・スポーツの実施阻害要因 ②[週に1回以上実施できない]または[直近1年に運動をしなかった]理由	34
カ 運動・スポーツの実施阻害要因 ③運動・スポーツが嫌いな理由	37
キ この1年間に初めて実施した・再開した運動・スポーツ	40
ク 初めて実施した・再開したきっかけ	43
ケ 小学生から現在までの運動・スポーツ実施状況	45
コ 運動・スポーツを実施する以外の趣味・娯楽	46
(3) 今後の運動・スポーツの実施意向について	49
ア 運動・スポーツの実施状況と意向	49
イ 今後行いたい運動・スポーツの実施時間帯	51
ウ 今後行ってみたい運動・スポーツの種目	53
エ 職場の取組があった場合の運動・スポーツ実施意向	56
(4) 運動・スポーツにかかる費用(1年間あたり)	58

3	スポーツ観戦について	59
	(1) この1年間に観戦したスポーツ種目	59
	(2) スポーツ観戦した理由	63
4	スポーツに関するボランティア活動について	65
	(1) この1年間のスポーツに関するボランティア活動への参加有無	65
	(2) この1年間のスポーツに関するボランティア活動の内容	67
	(3) スポーツに関するボランティア活動を行うきっかけや動機づけ	69
5	運動・スポーツの価値について	71
	(1) 自分自身にとって運動・スポーツは大切か	71
	(2) 運動・スポーツがもたらす価値	73
	(3) 住んでいる地域の付き合い	76
	(4) 日常生活における充実感	78
IV	調査票	80
V	集計表	89

I 調査の概要

- 1 調査目的 スポーツの実施状況等に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
- 2 調査項目
 - (1) 健康・体力に関する意識について
 - (2) 運動・スポーツの実施状況と今後の意向について
 - (3) スポーツ観戦について
 - (4) スポーツに関するボランティア活動について
 - (5) 運動・スポーツの価値について
- 3 調査要領
 - (1) 調査地域：全国
 - (2) 調査対象：18～79歳の男女
 - (3) 対象パネル：「楽天インサイト」パネル 約220万人
 - (4) 調査方法：上記パネルの登録モニターを対象としたWEBアンケート調査（※1）
 - (5) 回収数：有効回収数 計20,000件
 - (6) 回収割付：調査対象の人口構成比（※2）に準拠した割付（※3）
 - (7) 調査実施期間：2019年1月11日（金）～1月29日（火）
 - (8) 調査実施機関：株式会社サーベイリサーチセンター

※1…無作為抽出した対象者にメールで協力依頼を行い、目標回収数に達するまで回答をWEBで受け付ける手法。

※2…平成30年度住民基本台帳を基に設定。詳細は以下のとおり。

地域区分	地域詳細	男性								女性							
		18～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	18～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
北海道	北海道	10	50	82	78	69	82	59	410	9	48	62	80	75	92	77	444
東北計	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	18	84	108	128	120	145	97	596	17	78	100	121	120	148	118	703
北関東	茨城、栃木、群馬	14	70	88	109	90	108	79	554	13	62	77	99	85	107	87	531
首都圏	埼玉、千葉、東京、神奈川	67	404	502	635	495	456	378	2,937	64	387	470	590	457	463	438	2,870
北陸	新潟、富山、石川、福井	11	51	61	78	87	80	60	410	10	47	57	75	67	84	71	411
東山	山梨、長野、岐阜	11	48	58	75	64	73	58	384	10	44	53	71	64	78	67	384
東海	静岡、愛知、三重	27	140	187	212	169	174	143	1,033	25	126	151	186	162	180	163	1,003
近畿二府一県	京都、大阪、兵庫	35	174	202	270	213	219	188	1,301	33	174	204	273	218	237	228	1,388
その他近畿圏	滋賀、奈良、和歌山	8	37	43	56	47	53	43	288	8	36	43	57	50	56	50	301
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	15	72	86	108	89	109	85	563	14	68	83	108	91	114	101	578
四国	徳島、香川、愛媛、高知	8	35	43	55	47	60	45	293	7	33	42	55	50	64	54	308
九州・沖縄	福岡、佐賀、長門、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	30	138	174	200	179	219	145	1,084	29	139	177	204	189	231	180	1,150
	計	254	1,303	1,588	2,003	1,848	1,778	1,382	9,954	241	1,243	1,519	1,928	1,827	1,833	1,833	10,046

※3…男性18～19歳*の回収件数は、「東海」「九州・沖縄」の地域で目標値（上記の件数）を下回ったため、男性20代で9件を超過回収し、女性70代においても「東北」「九州・沖縄」の地域で目標値を下回ったため、女性70代不足分（合計21件）を女性60代で超過回収し、地域×性年代の人口分布に極力近づくように調整した。

*「18～19歳」について、以降、「10代」と表記している。

	n	平均身長 (cm)	平均体重 (kg)	平均BMI	BMI区分(%)						
					低体重 (BMI値 18.5未満)	普通体重 (BMI値 18.5以上 25.0未満)	30.0未満 (BMI1度 25.0以上 30.0未満)	35.0未満 (BMI2度 30.0以上 35.0未満)	50.0未満 (BMI3度・4度 35.0以上 50.0未満)	不明 (BMI値 5.0未満 または50.0以上)	
全体	20000	163.86	60.42	22.37	10.5	70.3	16.0	2.7	0.5	0.0	
性年代	男性10代	245	170.27	61.74	21.28	19.8	69.0	10.6	0.4	0.0	0.4
	男性20代	1313	171.65	65.59	22.24	10.0	72.4	13.9	3.0	0.7	0.0
	男性30代	1589	171.84	68.69	23.22	5.5	70.5	18.6	4.0	1.4	0.1
	男性40代	2004	171.54	70.26	23.84	2.8	64.8	27.1	4.5	0.7	0.0
	男性50代	1649	170.90	70.37	24.07	2.5	64.6	26.7	5.5	0.8	0.0
	男性60代	1776	169.22	67.97	23.71	2.4	67.9	26.6	2.9	0.3	0.0
	男性70代	1380	166.98	64.41	23.08	3.3	75.6	19.8	1.2	0.1	0.0
	女性10代	239	157.58	50.35	20.27	22.6	73.6	2.9	0.8	0.0	0.0
	女性20代	1242	158.50	51.61	20.51	22.2	71.2	5.3	0.8	0.5	0.0
	女性30代	1519	158.55	52.66	20.94	20.6	70.1	7.1	1.6	0.5	0.0
	女性40代	1927	158.82	54.39	21.56	15.8	70.5	10.1	3.0	0.5	0.1
	女性50代	1629	157.99	53.93	21.61	15.0	71.0	11.2	2.3	0.4	0.0
	女性60代	1876	156.43	52.94	21.63	14.3	72.2	11.7	1.4	0.4	0.0
	女性70代	1612	154.02	51.74	21.81	11.8	74.6	12.4	1.1	0.1	0.0

	n	(%)				
		障害がある(障害者手帳を持っている)	い(この1年間)寝たきりで運動できる状態になり	て(この1年間)運動している(この1年間)運動を止める	ま(この1年間)運動を止める	
全体	20000	3.2	0.6	1.6	94.6	
性年代	男性10代	245	1.2	1.2	0.8	96.7
	男性20代	1313	2.0	1.9	1.3	94.8
	男性30代	1589	3.0	0.8	0.9	95.3
	男性40代	2004	2.9	0.8	1.0	95.3
	男性50代	1649	3.8	0.6	1.6	94.0
	男性60代	1776	4.3	0.3	1.9	93.5
	男性70代	1380	5.5	0.4	1.7	92.4
	女性10代	239	1.3	0.8	0.8	97.1
	女性20代	1242	1.2	0.8	1.9	96.1
	女性30代	1519	1.8	0.7	1.3	96.2
	女性40代	1927	2.3	0.3	2.6	94.8
	女性50代	1629	2.5	0.4	1.7	95.5
	女性60代	1876	3.4	0.4	1.9	94.4
	女性70代	1612	5.7	0.3	1.3	92.7

Ⅱ 回答者属性

回答者の基本属性は以下のとおり。

		件数	%
全体		20000	100.0
性別	男性	9956	49.8
	女性	10044	50.2
年代	10代	484	2.4
	20代	2555	12.8
	30代	3108	15.5
	40代	3931	19.7
	50代	3278	16.4
	60代	3652	18.3
	70代	2982	15.0
性年代	男性10代	245	1.2
	男性20代	1313	6.6
	男性30代	1589	7.9
	男性40代	2004	10.0
	男性50代	1649	8.2
	男性60代	1776	8.9
	男性70代	1380	6.9
	女性10代	239	1.2
	女性20代	1242	6.2
	女性30代	1519	7.6
	女性40代	1927	9.6
	女性50代	1629	8.1
	女性60代	1876	9.4
	女性70代	1612	8.1
都市規模 ※1	東京23区・政令指定都市	4798	24.0
	東京都区部	1748	8.7
	政令指定都市	3050	15.3
	大都市	7442	37.2
	小都市	5873	29.4
	町村	1887	9.4
居住地域	北海道	853	4.3
	東北	1399	7.0
	北関東	1084	5.4
	首都圏	5810	29.1
	北陸	820	4.1
	東山	770	3.9
	東海	2035	10.2
	近畿二府一県	2686	13.3
	その他近畿圏	589	2.9
	中国	1142	5.7
四国	598	3.0	
九州	2234	11.2	

		件数	%	
全体		20000	100.0	
職業	自営業主-専門・技術職	394	2.0	
	自営業主-事務職	200	1.0	
	自営業主-販売・サービス・保安職	434	2.2	
	自営業主-農林漁業職	88	0.4	
	自営業主-生産・運輸・建設・労務職	152	0.8	
	自営業主-その他	548	2.7	
	(小計)自営業主	1816	9.1	
	家族従業者	153	0.8	
	雇用者-管理職	1033	5.2	
	雇用者-専門・技術職	1959	9.8	
	雇用者-事務職	3103	15.5	
	雇用者-販売・サービス・保安職	1423	7.1	
	雇用者-農林漁業職	39	0.2	
	雇用者-生産・輸送・建設・労務職	1063	5.3	
	雇用者-その他	1103	5.5	
	(小計)雇用者	9723	48.6	
	(小計)就労者	11692	58.5	
	主婦・主夫	3800	19.0	
	学生	760	3.8	
	無職	2778	13.9	
その他	297	1.5		
答えたくない	673	3.4		
最終学歴	中学校	392	2.0	
	高校	5797	29.0	
	短大・高専	2106	10.5	
	専門学校	2274	11.4	
	大学	7975	39.9	
	大学院	928	4.6	
	その他	24	0.1	
	答えたくない	504	2.5	
	家族構成	一人暮らし	3233	16.2
		夫婦のみ・子なし	5671	28.4
夫婦・子あり		5375	26.9	
親と同居(未婚)		1760	8.8	
2世帯以上同居		1337	6.7	
その他		2088	10.4	
答えたくない	536	2.7		
世帯年収	収入なし	228	1.1	
	100万円未満	352	1.8	
	100～200万円未満	939	4.7	
	200～300万円未満	1700	8.5	
	300～400万円未満	2280	11.4	
	400～500万円未満	2142	10.7	
	500～600万円未満	1840	9.2	
	600～700万円未満	1385	6.9	
	700～800万円未満	1252	6.3	
	800～1000万円未満	1613	8.1	
	1000～1200万円未満	965	4.8	
	1200万円以上	1032	5.2	
わからない	1507	7.5		
答えたくない	2765	13.8		

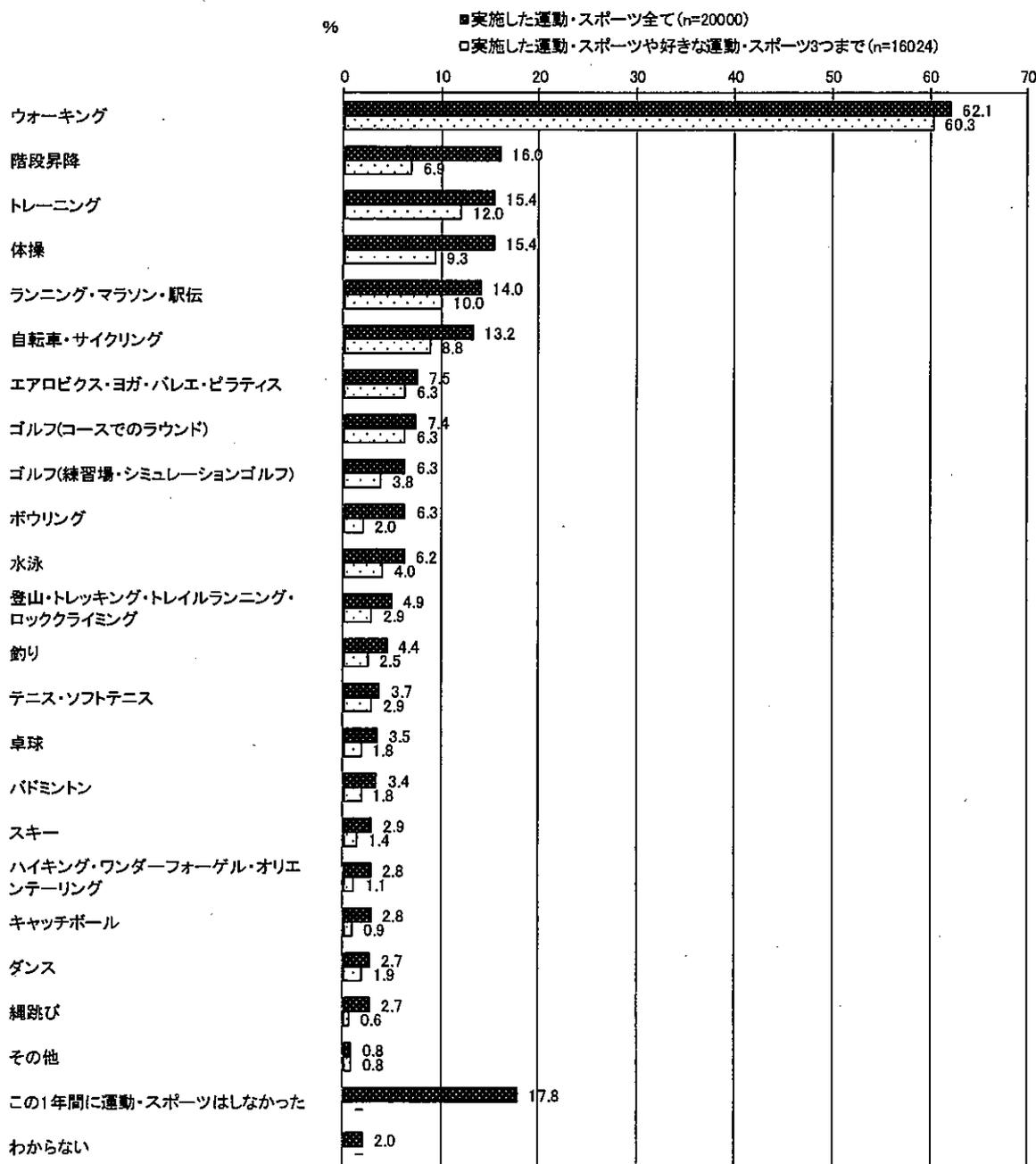
※1…「大都市」は、東京都区部、政令指定都市を除く人口10万人以上の市。

「小都市」は、人口10万人未満の市。

図 2-1-ア この1年間に行った運動・スポーツの種目 上位20位抜粋 (Q4)

<複数選択可>

[基数: 回答者全員、直近1年運動・スポーツ実施者]



2 運動・スポーツの実施状況と今後の意向について

(1) この1年間に行った運動・スポーツについて

ア この1年間に行った運動・スポーツの種目

この1年間に行った運動やスポーツを聞いたところ、運動やスポーツについて何らかの選択肢を挙げた者（以下『「運動やスポーツを行った」とする者』という。）の割合が80.2%、「運動やスポーツはしなかった」と答えた者の割合は19.8%（「運動やスポーツはしなかった」17.8%+「わからない」2.0%）となっている。

性別に見ると、「運動やスポーツを行ったとする者」の割合は男性が女性より高くなっている。

年代別に見ると、「運動やスポーツを行ったとする者」の割合は10代と20代及び70代で80%を超えている。

次に、1年間に行った運動・スポーツの種目については、「ウォーキング」を挙げた者の割合が62.1%と最も高く、次いで「階段昇降」（16.0%）、「トレーニング」（15.4%）、「体操」（15.4%）の順となっている。

性別に見ると、「ランニング・マラソン・駅伝」は男性の割合が高く、「エアロビクス・ヨガ」は女性の割合が高くなっている。

年代別に見ると、「ウォーキング」は70代で、「階段昇降」は10代で、それぞれ最も高くなっている。

運動頻度別に見ると、「ウォーキング」、「体操」は週に3日以上実施者で高く、「ランニング・マラソン・駅伝」は週1日～2日実施者で高くなっている。

（図2-1-ア、表2-1-ア）

カ この1年間に運動・スポーツを行った理由

この1年間に運動・スポーツを行った理由を聞いたところ、「健康のため」を挙げた者の割合が77.9%で最も高く、次いで「体力増進・維持のため」(58.3%)、「運動不足を感じるから」(52.2%)、「楽しみ、気晴らしとして」(46.8%)、「筋力増進・維持のため」(41.3%)の順となっている。

最も大きな理由<単一回答>でも、「健康のため」(35.5%)が最も高くなっている。

性別に見ると、「運動不足を感じるから」、「肥満解消、ダイエットのため」は女性の割合が高くなっている。

年代別に見ると、「健康のため」、「体力増進・維持のため」は高年代ほど割合が高い傾向がある。また、「楽しみ気晴らしとして」は10代と20代、「友人・仲間との交流として」は10代と20代及び70代で割合が高くなっている。

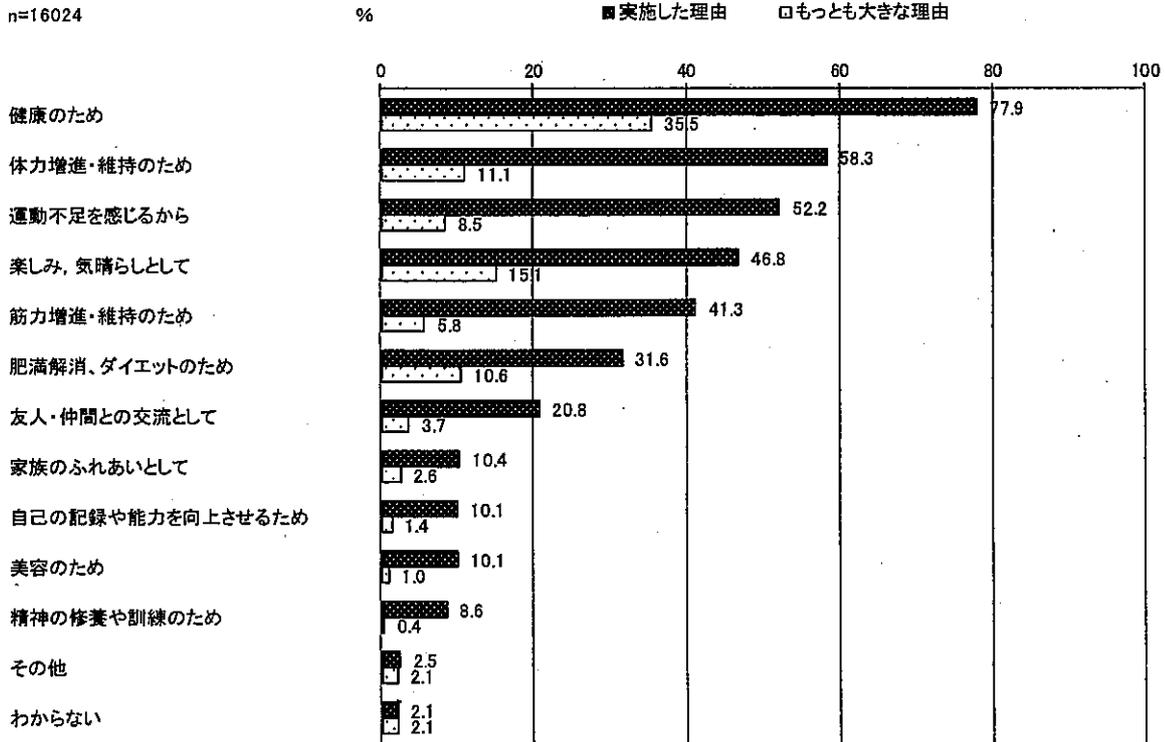
運動頻度別に見ると、「健康のため」、「体力増進・維持のため」、「筋力増進・維持のため」は運動頻度が高いほど割合が高くなっている。

(図 2-1-カ、表 2-1-カ)

図 2-1-カ この1年間に運動・スポーツを行った理由 (Q7)

<複数選択可>※「もっとも大きな理由」は<単一回答>

[基数：直近1年運動・スポーツ実施者]



- ① 公益財団法人熊本県スポーツ協会令和2年度事業計画【資料19】
本文6ページ引用
- ② 公益財団法人熊本県スポーツ協会
- ③ 令和2年度事業計画 9ページ目・11ページ目
http://kumamoto-sports.or.jp/soshiki/jigyou_pdf/r2plan.pdf
- ④ 9ページ目の(7) くまもとワールドアスリート事業の個所、11ページ目の
4(1) スポーツトレーナー等の大会派遣事業の個所に黄色マーカーを付け、
スポーツトレーナー事業などの取り組みを行なっていることについての根拠
資料として用いた。

令和3年9月8日

熊本保健科学大学
学長 竹屋 元裕 様

公益財団法人熊本県スポーツ協会

熊本保健科学大学リハビリテーション学科スポーツリハビリテー
ションコースについて

公益財団法人熊本県スポーツ協会は、県民の皆様にも多大な御理解と御支援をいただきながら、スポーツの振興が社会の健全な発展に寄与するとの理念のもと、「本県のスポーツを振興し、県民の体力向上を図り、スポーツ精神を涵養し、もって県民の心身の健全な発達に寄与する」ことを目的に協会活動を続けております。

現在では72加盟団体（20郡市体育・スポーツ協会、49競技団体、3学校教育団体）と協働のもと、本県のスポーツを統括する団体として、“スポーツが持つ限りない力を最大限に生かし、明るく豊かで健康的な活力ある熊本づくり”を目指しております。

また、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツができる環境を整備し、「する・みる・ささえる」スポーツ活動を通して、加盟団体と連携、協働し、「地域スポーツの振興」、「競技力の向上」、「青少年の健全育成」に努めております。

そのような中で、貴大学が計画されておられます「スポーツリハビリテーションコース」の設置は、理学療法士とアスレティックトレーナーの資格を取得できるカリキュラム編成により、スポーツを支える人材の育成と拡大、また地域とスポーツを結びつけ、地域の活性化に大いにつながるものと期待を寄せております。

本会としましても、今後、さらに貴大学と連携を深めながら、さらなるスポーツ文化の向上とスポーツの社会的な貢献を果たすために努めてまいります。

スペシャルオリンピックス日本・熊本 様 からのご意見

スペシャルオリンピックス日本・熊本 様が令和3年9月2日（木）にご来学された際に、本学の入学定員20名増員申請と「スポーツリハビリテーションコース」設置構想についてご説明いたしましたが、その際に頂戴したご意見を以下に添付致します。（後日、文章化したものを送っていただきました。）

熊本保健科学大学「スポーツリハビリテーションコース」設置に関するご意見

「スペシャルオリンピックス」とは、知的障がいのある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通して提供して、社会参加を応援している国際的なスポーツ組織です。日本におけるスペシャルオリンピックス活動は熊本が発祥の地で、1991年の世界大会に熊本のアスリートとコーチが参加したのが、その始まりです。現在、日本でパラリンピックが開催されていますが、スポーツは障がいをお持ちの方々にとっても、心身ともに健康を維持するために重要です。

スペシャルオリンピックスが提供する継続的なスポーツ活動は、知的障がいをお持ちのアスリートたちの健康や体力増進、スキルの向上を促進するだけでなく、多くの人々との交流によって彼らの社会性を育んでいきます。また、適切な指導と励ましがあれば、アスリートたちは少しずつでも確実に上達し、自立への意識を高め成長していきます。

これからの日本を考える時、障がい者を含め、老若男女の別なく充実した人生を送ることが出来る社会の形成が必要で、その1つの方策として私たちは「スポーツ」の重要性を活動の中で強く意識しております。

今回、熊本保健科学大学において、スポーツの現場でも活躍できるアスレチックトレーの資格を有する理学療法士を養成するという「スポーツリハビリテーションコース」を設置されることをお聞きし、継続的に障がい者スポーツに取り組む本法人にとっても有り難い取り組みであり、心からご支援を申し上げたいと存じます。健康とスポーツを科学し、子どもから高齢者まで、健常者から障がい者にいたるまで、スポーツとリハビリテーションを関連づけて指導できる人材の養成は、日本社会における健康寿命増進に資するもので全面的に応援申し上げます。

令和3年9月2日

スペシャルオリンピックス日本・熊本
理事長 潮谷 義子（前熊本県知事）



- ① 熊本県の商工労働部産業振興局と健康福祉部健康局のご意見【資料 22】
本文 6 ページ
- ② 熊本県商工労働部産業振興局産業支援課
熊本県健康福祉部健康局
- ③ ー
- ④ 本学が収容定員を変更（増員）し、スポーツリハビリテーションコースを設置することに対して期待するという旨の文書。

スポーツリハビリテーションに関する研究および実践

① 水上村 Jr. アスリート合宿支援

熊本県水上村は、標高 1000m の高地にある日本有数のクロスカントリー施設であるスカイビレッジを保有する。そのスカイヴィレッジで合宿中の高校生アスリートに対し、メディカルフィットネスチェックを行い、障害予防およびトレーニング効果を最大化するための支援を行っている。



体組成測定・骨密度測定



心理検査・ストレス測定



血中乳酸値測定



動作フォーム撮影



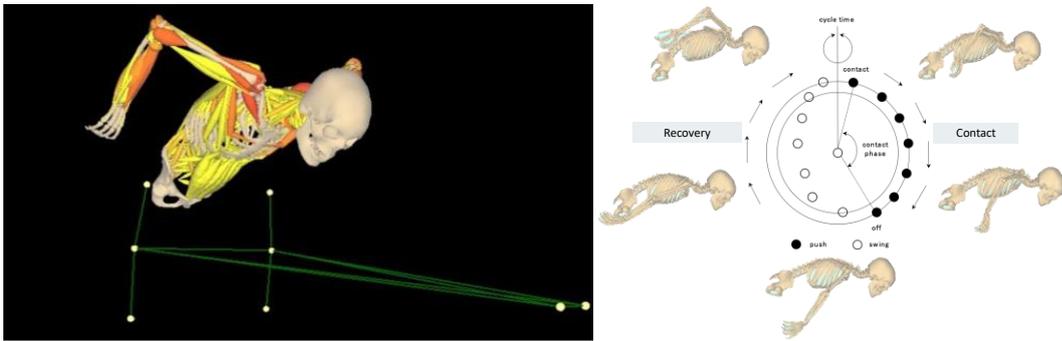
練習風景



監督への結果フィードバック

② パラリンピック車いす競技のサポートに関する取り組み

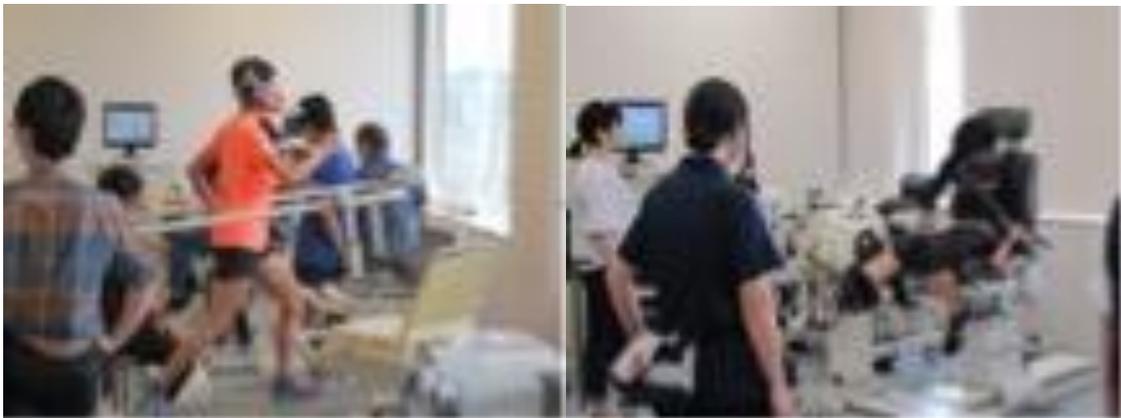
本田技術研究所・八千代工業・熊本機能病院・本学の 4 者による「車いす競技の駆動技術」に着目した実践研究である。アスリートが車いすを駆動する際に、ホイールに加えた「力」を計測できるセンサーを共同開発し、3次元自動動作分析装置と同期することで、競技力向上に役立てることを目的とし、国内外トップ選手の支援を行なった。その中で、2021年8月に開催された東京パラリンピックにおいて、サポート選手が男子車いす 100m で銀メダルを、女子車いすマラソンで4位入賞を達成した。



車いす駆動時における筋活動シミュレーション（筋骨格モデル）

③ 女子長距離選手のサポートに関する取り組み

実業団女子長距離選手のトータルサポートに関する実践研究である。熊本県肥後銀行女子駅伝部や大分県のキャノンアスリートクラブ九州の女性アスリートを対象とし、フィットネスチェック・動作分析・心理分析を中心とした支援を行うことで、障害予防および競技力向上を目的としている。その中で、肥後銀行女子駅伝部は、2017年から4年連続で全日本実業団対抗女子駅伝部競争大会の出場権を獲得するなど、一定の成果を上げている。

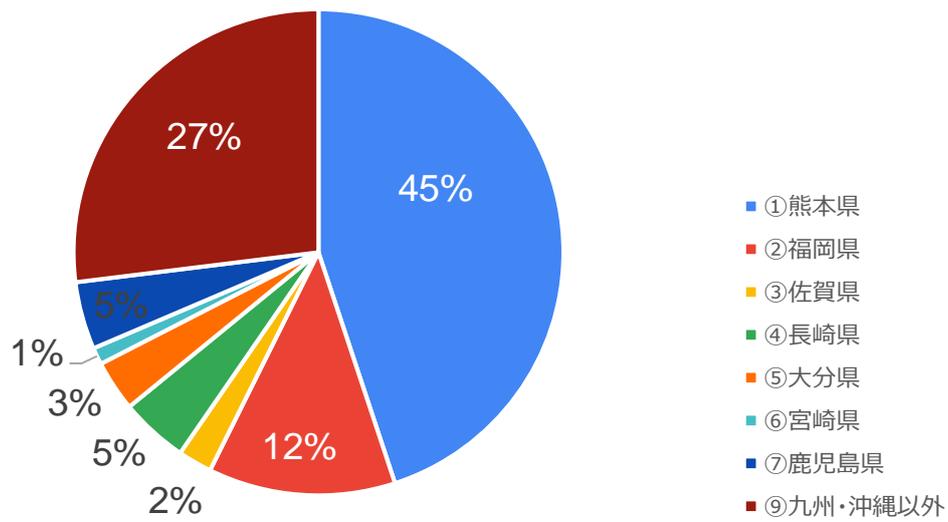


最大酸素摂取量の推定と最大下肢筋力測定

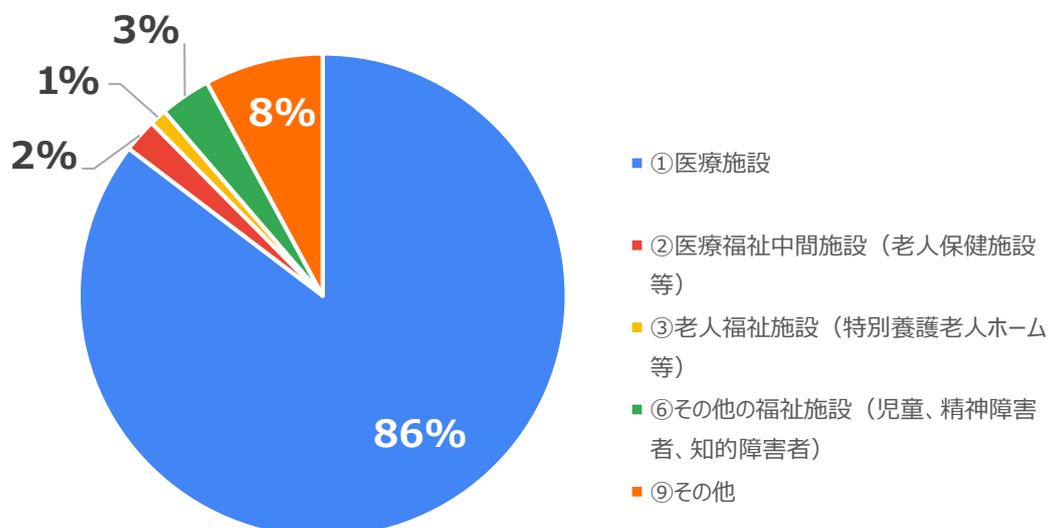
施設向けアンケート

89/256 件の回答

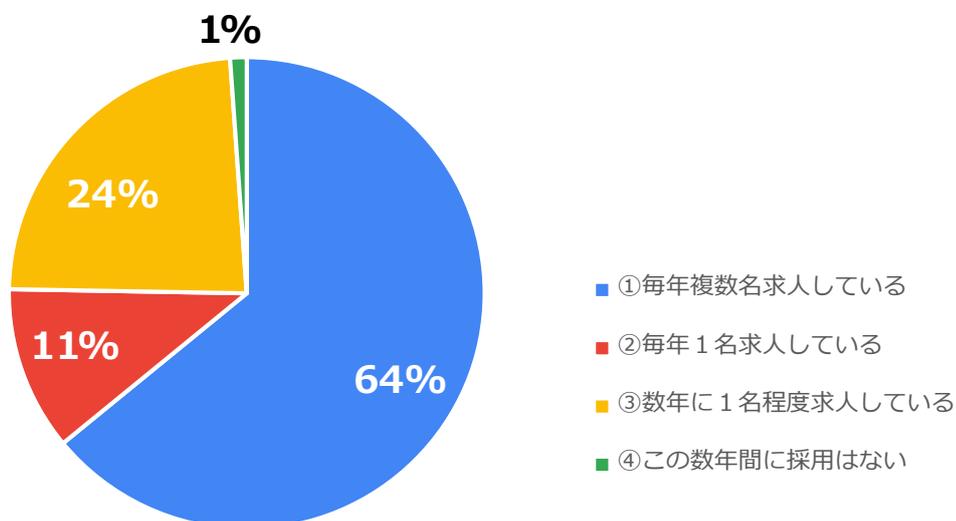
1) 貴施設の所在地について教えてください。



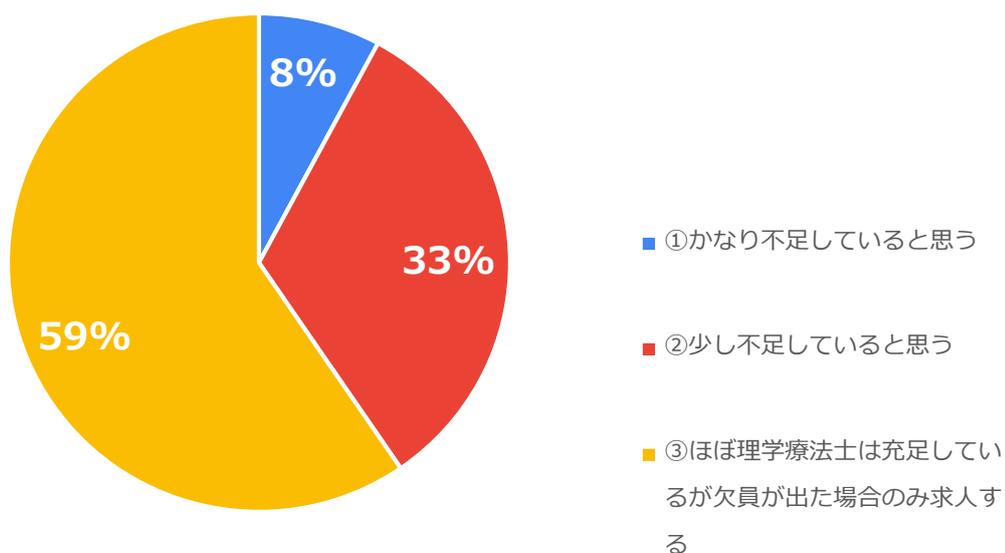
2) 貴施設の種類の種類について教えてください。



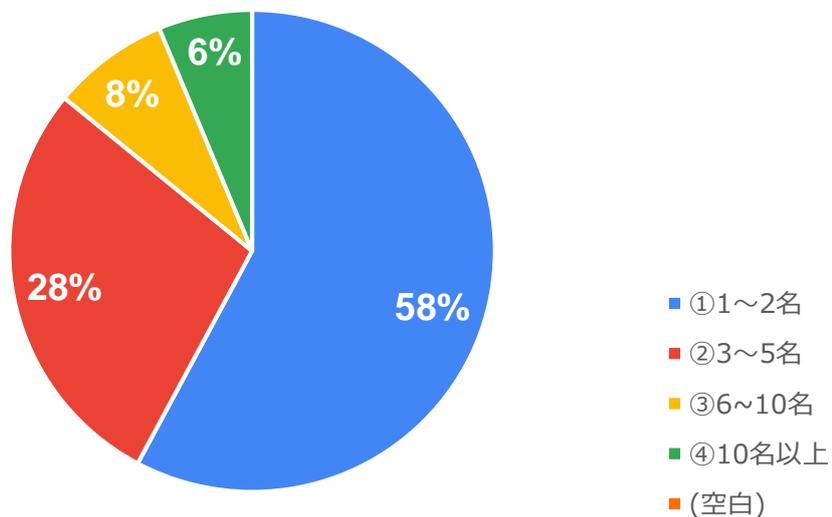
3) 過去5年間について、貴施設における理学療法士の求人数について教えてください。



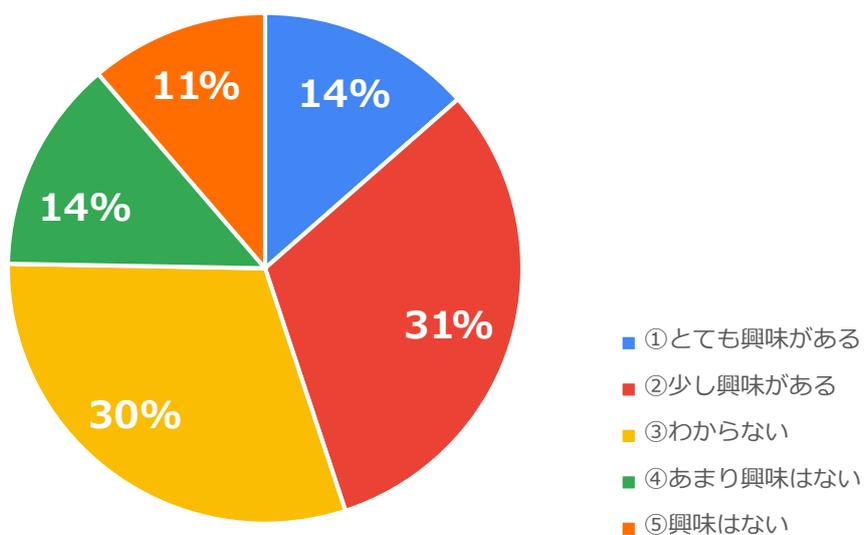
4) 現在、貴施設において理学療法士が不足していると思われますか？



5) 現在、貴施設において不足していると思われる理学療法士数について教えてください。



6) スポーツリハビリテーションコースを修了し、アスレティックトレーナー資格を持つ理学療法士が誕生すれば、貴施設にて採用することに興味がおありでしょうか？

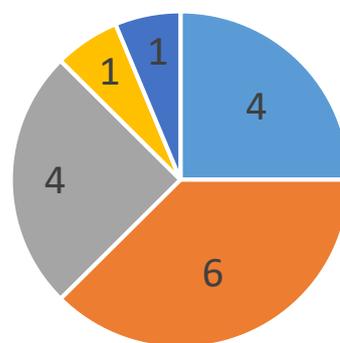


一般企業／行政・協会／スポーツ企業／医療法第42条病院へのアンケート調査先と集計結果
(18施設依頼中、16施設回答)

	名称	アンケート回答 (FAX)
一般企業	株式会社 テレビ熊本	○
	株式会社 ワイズ・リーディング	○
	MIC Body work Shop (スポーツジム)	○
	テラバル自動車学校	○
行政・協会	水上村教育委員会 教育課	
	公益財団法人 熊本県スポーツ協会	○
	熊本県合志市役所	○
スポーツ企業	熊本バスケットボール株式会社 (ボルターズ)	○
	株式会社 鶴屋百貨店 バスケットボール部	○
	肥後銀行(実業団)	○
	KPB Project 株式会社 (火の国サラマンドーズ)	○
	株式会社 アスリートクラブ熊本 (ロアッソ熊本)	○
	くまもと再春館製薬所 (バドミントン)	○
	認定特定非営利活動法人 スペシャルオリम्ピックス日本・熊本	○
医療法第42条病院	熊本機能病院 熊本健康・体づくりセンター	○
	済生会熊本病院 予防医療センター メディカルフィットネスセンター	○
	メディカルフィットネス サンフィット朝日野	
	メディフィット回生会	○

問) スポーツリハビリテーションコースを修了し、アスレチックトレーナー資格を持つ理学療法士が誕生すれば、貴施設にて(常勤・非常勤を問わず)採用することに興味がおありでしょうか。

選択肢	回答数
とても興味がある	4
少し興味がある	6
わからない	4
あまり興味はない	1
興味はない	1



■ とても興味がある ■ 少し興味がある ■ わからない
■ あまり興味はない ■ 興味はない

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	タヤ モトヒロ 竹屋 元裕 <平成31年4月>		医学博士		熊本保健科学大学 学長 (平成31年4月～令和5年3月)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

審査意見への対応を記載した書類（9月）

（目次）保健科学部リハビリテーション学科

1. 本学の保健科学部リハビリテーション学科における収容定員の増加計画は、同学科の理学療法専攻にスポーツリハビリテーションコース（定員 20 名）を新設することによるものと見受けられるが、その学生確保の見通しの根拠として挙げている過去 5 年間の志願者数等の状況は、従前の専攻に関するものであり、従前とは異なる「健康・スポーツをキーワード」として新設する当該コースへの進学を希望する者を適切に示すものとは判断できない。また、「理学療法士を目指す学生のほとんどがスポーツの好きな体育会系」であるとのアンケート結果を踏まえて、新設するスポーツリハビリテーションコースを含む本専攻に対する志願者数増が期待できると説明しているが、当該アンケートは従前の専攻の学生を対象としたものであり、本専攻に新たに設置予定のコースに対する将来の入学意向を示すものとして適当でなく、また、「スポーツの好きな体育会系」であることと新たなコースに入学するかは別であり、本専攻における学生確保の客観的な根拠として妥当なものとは判断できない。このため、新設されるスポーツリハビリテーションコースに対する入学意向を含めた客観的な根拠に基づき、長期的かつ安定的な学生確保の見通しがあることを改めて明確に説明すること。（是正事項）
2. 本申請が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである根拠として、厚生労働省の「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本 21）」や熊本県の「第 4 次くまもと 21 ヘルスプラン（熊本県健康増進計画）」を挙げた上で、「地域スポーツの発展を担う理学療法士」の需要がますます高まることを説明している。しかし、その需要に対応するものは、新設するスポーツリハビリテーションコースにおいて養成される人材であるとは見受けられ、本専攻全体で養成される人材に対する社会的需要は不明確である。また、前述の「地域スポーツの発展を担う理学療法士」の需要について、客観的な数値に基づく説明がなく、その妥当性が明らかでないことに加えて、スポーツリハビリテーションコースにおいて輩出される毎年 20 名もの修了者に対する社会的需要があるかは判然としない。このため、例えば、スポーツリハビリテーションコース及び既存の教育課程を修了した学生の人材需要に関する企業等へのアンケート調査など客観的な根拠に基づき、定員増加後の本学科に対する社会的、地域的な人材需要があることを明確に説明すること。（是正事項）

(是正事項) 保健科学部リハビリテーション学科

1. 本学の保健科学部リハビリテーション学科における収容定員の増加計画は、同学科の理学療法専攻にスポーツリハビリテーションコース（定員 20 名）を新設することによるものと見受けられるが、その学生確保の見通しの根拠として挙げている過去 5 年間の志願者数等の状況は、従前の専攻に関するものであり、従前とは異なる「健康・スポーツをキーワード」として新設する当該コースへの進学を希望する者を適切に示すものとは判断できない。また、「理学療法士を目指す学生のほとんどがスポーツの好きな体育会系」であるとのアンケート結果を踏まえて、新設するスポーツリハビリテーションコースを含む本専攻に対する志願者数増が期待できると説明しているが、当該アンケートは従前の専攻の学生を対象としたものであり、本専攻に新たに設置予定のコースに対する将来の入学意向を示すものとして適当でなく、また、「スポーツの好きな体育会系」であることと新たなコースに入学するかは別であり、本専攻における学生確保の客観的な根拠として妥当なものとは判断できない。このため、新設されるスポーツリハビリテーションコースに対する入学意向を含めた客観的な根拠に基づき、長期的かつ安定的な学生確保の見通しがあることを改めて明確に説明すること。

(対応)

【収容定員増員の計画について】

本学保健科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻の収容定員の増加計画は、スポーツリハビリテーションコース（定員 20 名）を新たに設置し、スポーツリハビリテーション分野の学問分野を学びたいという高校生のニーズや理学療法士の職域拡大を目指したものである。審査意見 1 から見て、スポーツリハビリテーションコースを設置することが不明瞭であったことから、「基本計画書」の「新設学部等の目的」と「学則の変更の趣旨等を記載した書類」の「ウ.学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容」を変更し、スポーツリハビリテーションコースを明示した。

【スポーツリハビリテーションコースに対する学生確保の見通し】

スポーツリハビリテーションコースに対する学生確保の見通しについては、本学への資料請求者やオープンキャンパス参加者等の高校生を対象にアンケートを実施した。アンケート結果から、理学療法士に興味がある高校生の内で、スポーツリハビリテーションコースが新設された場合に、このコースを選択したいとの回答者が 77%あること、さらに理学療法士以外に興味がある高校生についてもスポーツリハビリテーションコースが新設された場合には、本学理学療法学専攻を志願先の選択肢の 1 つに加えたいとの回答が 57%あることから見て、20 名の定員は十分に確保できると考えている。具体的な学生確保の見通しについては、「学生の確保の見通し等を記載した書類」とその資料に記載している。

【長期的かつ安定的な学生確保の見通し】

前述したアンケート結果において、理学療法士に興味を持つ高校生がスポーツリハビリテーションコースに興味をもっていることが確認できた。また、熊本県教育委員会からスポーツリハビリテーションコースの設置が高校生の進路の選択肢の拡大につながるものと期待しているとのことのご意見も頂いている。

これらのことから、スポーツリハビリテーションコースの広報を強化することで、九州圏内のスポーツに関心を持つ多くの高校生の興味を引くことができ、志願者増につながることを期待できる。詳細は「学生の確保の見通し等を記載した書類」とその資料に記載している。

(新旧対照表) 基本計画書 (新設学部等の目的)

新	旧
<p>急激な変化を示す社会構造の中で、理学療法士が果たすべき職域は広がり、健康・スポーツをキーワードに地域貢献できる人材やデータ分析等の研究力を有した人材の育成が急務であるため、<u>スポーツリハビリテーションコースを設置し、入学定員を20名増員する。</u></p>	<p>急激な変化を示す社会構造の中で、理学療法士が果たすべき職域は広がり、健康・スポーツをキーワードに地域貢献できる人材やデータ分析等の研究力を有した人材の育成が急務であるため、<u>入学定員を20名増員する。</u></p>

(新旧対照表) 学則の変更の趣旨等を記載した書類 (4 ページ)

新	旧
<p><u>ウ. 学則変更 (収容定員変更) に伴う教育課程等の変更内容</u></p> <p>(ア) 教育課程の変更内容</p> <p>理学療法学専攻の収容定員増に伴う、他学科・専攻における教育課程の変更は行わないため、特段の影響はない。</p> <p>保健科学部における教育課程には、「教養科目」、「保健科学基幹科目」、「専門基礎科目」そして「専門科目」がある。</p> <p>今回の学則変更 (収容定員変更) に伴い、「スポーツデータサイエンス論」、「スポーツトレーニング論」、「健康スポーツ心理学」、「アスリートサポート演習」、「スポーツコンディショニング演習」を、理学療法学専攻の「専門科目」に新たに配当する。これらの新規科目は主に新設予定のスポーツリハビリテーションコース (2年次から選択制/20名定員) 選択者が受講する。スポーツデータサイエンスや実業団とのアカデミック連携を視野に学外での演習・活動を予定している。</p>	<p><u>ウ. 学則変更 (収容定員変更) に伴う教育課程等の変更内容</u></p> <p>(ア) 教育課程の変更内容</p> <p>理学療法学専攻の収容定員増に伴う、他学科・専攻における教育課程の変更は行わないため、特段の影響はない。</p> <p>保健科学部における教育課程には、「教養科目」、「保健科学基幹科目」、「専門基礎科目」そして「専門科目」がある。</p> <p>今回の学則変更 (収容定員変更) に伴い、「スポーツデータサイエンス論」、「スポーツトレーニング論」、「健康スポーツ心理学」、「アスリートサポート演習」、「スポーツコンディショニング演習」を、理学療法学専攻の「専門科目」に新たに配当する。</p>

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

新	旧
<p>急激な変化を示す社会構造の中で、理学療法士が果たすべき職域は広がり、健康・スポーツをキーワードに地域貢献できる人材やデータ分析等の研究力を有した人材の育成が急務であるため、<u>スポーツリハビリテーションコースを設置し、入学定員を20名増員する。</u></p>	<p>急激な変化を示す社会構造の中で、理学療法士が果たすべき職域は広がり、健康・スポーツをキーワードに地域貢献できる人材やデータ分析等の研究力を有した人材の育成が急務であるため、<u>入学定員を20名増員する。</u></p>
<p>なお、学則の変更の趣旨等を記載した書類 ウ.学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容で記載している新設予定のスポーツリハビリテーションコース(資料4)について、学内の理学療法学専攻学生の全学年対象に取ったアンケート結果では、理学療法士を目指す学生のほとんどがスポーツリハビリテーションに関心を示している(資料5)。また、本学の今年度の資料請求者やオープンキャンパス参加の高校生に実施したアンケート(資料6)では、理学療法士に興味を持つ高校生の約77%がスポーツリハビリテーションコースの選択を希望しており、新コースの内容をしっかりと広報することで九州圏内の多くのスポーツに関心を持つ高校生の興味を引き、志願者増につながることを期待できる。</p> <p>また、熊本県教育委員会からは、本学と連携することで高校生の資質や能力の向上に努めたいことや、本県高校生の進路の選択肢の拡大につながる取り組みとして期待している旨の意見を頂いている。(資料7)</p>	<p>なお、学内の理学療法学専攻学生の全学年対象に取ったアンケート結果が示しているように、理学療法士を目指す学生のほとんどがスポーツの好きな体育会系である(資料4)。新設予定のスポーツリハビリテーションコース(選択制/定員20名予定)では、スポーツデータサイエンスや実業団とのアカデミック連携を視野に学外での演習・活動を予定しており、これらをしっかりと広報することで九州内の多くのスポーツ好きな高校生の興味を引き、志願者増につながることを期待できる。</p>
<p>なお、前述した本学の今年度の資料請求者等に実施したアンケートでは、理学療法士に興味を持っている高校生のみならず、理学療法士に興味のなかった高校生においても、約58%が新コースのある本学理学療法学専攻を選択肢の1つに加えたいと回答している(資料6)。このアンケート結果からも、入学定員は将来にわたって十分に充足できるものと考えている。</p>	<p>(追加)</p>

(是正事項) 保健科学部リハビリテーション学科

2. 本申請が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである根拠として、厚生労働省の「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本21）」や熊本県の「第4次くまもと21ヘルスプラン（熊本県健康増進計画）」を挙げた上で、「地域スポーツの発展を担う理学療法士」の需要がますます高まることを説明している。しかし、その需要に対応するものは、新設するスポーツリハビリテーションコースにおいて養成される人材であると見受けられ、本専攻全体で養成される人材に対する社会的需要は不明確である。また、前述の「地域スポーツの発展を担う理学療法士」の需要について、客観的な数値に基づく説明がなく、その妥当性が明らかでないことに加えて、スポーツリハビリテーションコースにおいて輩出される毎年20名もの修了者に対する社会的需要があるかは判然としない。このため、例えば、スポーツリハビリテーションコース及び既存の教育課程を修了した学生の人材需要に関する企業等へのアンケート調査など客観的な根拠に基づき、定員増加後の本学科に対する社会的、地域的な人材需要があることを明確に説明すること。

(対応)

【専攻全体で養成される人材に対する社会的需要について】

本学保健科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員は現在40名である。それに対する本学理学療法学専攻への最近5年間の求人施設数は、入学定員の15倍を継続して超えており、就職率も開学以来100%を維持している。昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、関東からの求人数が減少し、例年より求人施設が減少したものの、今年度は一昨年並みに求人施設も増加していることから、安定的な求人施設の確保は、今年度以降しばらく継続できることが期待される。

【定員増加後の本学科専攻に対する社会的、地域的な人材需要について】

平成31年の理学療法士・作業療法士の需給推計において、2040年頃における理学療法士の供給数は需要数の約1.5倍になる事が報告されており（第3回 理学療法士・作業療法士需給分科会資料）、理学療法士の職域をさらに拡大する必要があると考える。本学への求人施設の内訳も医療領域以外の施設が全体の約10%を占め、職域が多様化していることから、理学療法士の職域拡大は十分に可能と考えた。

定員増加後の本学科専攻に対する社会的、地域的な人材需要について、審査意見2を踏まえて、本学の就職説明会に過去2年間参加実績のある就職先を対象にアンケート調査を実施したところ、スポーツリハビリテーションコース修了生の採用に44%の施設が興味ありと回答している。従って、定員増後も従来の就職先への就職者数の増加が可能と考えている。また、一般企業／行政・協会／スポーツ企業／医療法第42条病院へのアンケート結果からも、スポーツリハビリテーションコース修了生の採用に62.5%の施設が興味ありと回答している。さらに、熊本県や熊本県スポーツ協会、スペシャルオリンピックス日本・熊本等から、本学のスポーツリハビリテーションコース設置に対し、スポーツを支える人材の育成と拡大、地域の活性化につながるとのご意見を頂いている。以上のことから、スポーツリハビリテーションコース設置は理学療法士の職域拡大につながると期待される。詳細は新旧対照表のとおり「学生の確保の見通し等を記載した書類」とその資料に記載している。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類

新	旧
<p>② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠</p> <p>【理学療法学専攻全体で養成される人材】(社会的な人材需要の動向)</p> <p>平成 11 年に国家試験受験資格付与のための学校養成施設の指定規則が見直され、各大学が社会のニーズに適切に対応した多様な医療技術者等の養成ができるようになった(第 2 回 理学療法士・作業療法士需給分科会)。</p> <p>その間、国においては団塊世代が 75 歳以上となる 2025 年に向けて、地域包括ケアシステムの構築を進めていく中、介護などの分野において理学療法士の需要が見込まれている一方で、健康寿命の延伸に着目した予防医学分野の人材育成が必要とされている。</p> <p>事実、国民の健康増進を図るため、「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動(健康日本 21)」が推進されている(資料 15)。その中では、次世代(子供)及び高齢者の健康に関する目標を含め、運動習慣の定着や身体活動量の増加に関する目標とともに、身体活動や運動に取り組みやすい環境整備に取り組むこととしている(資料 15)。</p> <p>(地域的な人材需要の動向)</p> <p>熊本県においても「健康日本 21」との整合性を図った「第 4 次くまもと 21 ヘルスプラン(熊本県健康増進計画)」を策定し、「健康寿命の延伸」や「生活の質の向上」を目標に健康づくり施策を推進している(資料 16)。</p> <p>このような社会的、地域的な人材需要の動向は、介護領域を含め、健康寿命の延伸に着目した予防医学領域に関する実務能力を身に付けた理学療法士の育成が重要である事を示すものである。</p> <p>一方で、現在の本学理学療法学専攻(40 名)における求人件数は、年間約 600 施設を超えている(資料 17)。昨年度はコロナ禍の影響で、関東からの求人数は減少した</p>	<p>② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠</p> <p>現在、国においては団塊世代が 75 歳以上となる 2025 年に向けて、地域包括ケアシステムの構築を進めていく中、介護などの分野において理学療法士の需要が見込まれている一方で、健康寿命の延伸に着目した予防医学分野の重要性が高まっている。</p> <p>事実、国民の健康増進を図るため、「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動(健康日本 21)」が推進されている(資料 12)。その中では、次世代(子供)及び高齢者の健康に関する目標を含め、運動習慣の定着や身体活動量の増加に関する目標とともに、身体活動や運動に取り組みやすい環境整備に取り組むこととしている(資料 12)。</p> <p>熊本県においても「健康日本 21」との整合性を図った「第 4 次くまもと 21 ヘルスプラン(熊本県健康増進計画)」を策定し、「健康寿命の延伸」や「生活の質の向上」を目標に健康づくり施策を推進している(資料 13)。</p> <p>しかしながら、スポーツ庁が 2019 年に実施した 18~79 歳の男女を対象とした W E B アンケートによると、有効回答者 20,000 件のうち、過去 1 年間に「運動やスポーツを行なった」とする者は 80.2%、「運動やスポーツを行わなかった」とする者は 19.8% であったとの報告がある(資料 14)。特に「運動やスポーツを行った」とする者の割合は男性が女性より高く、10 代、20 代及び 70 代でそれぞれ高くなっている(資料 14)。またこの 1 年間に、「運動やスポーツを行った」理由について、「健康のため」とする者は 77.9% で最も高く、次いで「体力増進・維持のため」が 58.3% であった。(資料 14)。</p> <p>このように高齢者においても割合が高いことから、運動やスポーツによるケガやその予防に対して、理学療法士の果たす役</p>

ものの、例年、卒業生を大幅に上回る求人数があり、就職率は理学療法学専攻を平成19年に開設以来100%を継続している。さらに、令和2年度における理学療法学専攻卒業生の就職先は、全体の90%が九州圏であり、関東圏からの求人数が減少しても、就職率にはほとんど影響を及ぼさなかった(資料17)。

このように、卒業生に対して15倍を超える求人数があることに加え、過去5年間の求人施設の内訳は、医療領域以外の施設が全体の約10%を占めており多様化している(医療領域の平均求人数575件、その他領域の平均求人数57件:資料17)。また、今年度現時点では一昨年度並みのペースで求人施設数が回復(増加)している。

以上のような社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえ、理学療法学専攻全体では、これまでと同様に卒業生以上の求人数がある医療領域へ人材を輩出する事に加え、介護および予防医学領域など、多様な実務能力を身に付けた理学療法士を輩出することが可能である。従って、卒業生を大幅に上回る求人数があること、医療以外の領域へ人材を輩出する余地もあることから、入学定員を20名増員することとした。

【新設するスポーツリハビリテーションコースで養成される人材】

(社会的な人材需要の動向)

平成31年の理学療法士・作業療法士の需給推計(案)において、2040年頃における理学療法士の供給数は需要数の約1.5倍になる事が報告された(第3回 理学療法士・作業療法士需給分科会)。このことは、理学療法士の職域拡大が急務であることを示すものである。

そこで、社会の動向を概観すると、平成23年に制定されたスポーツ基本法では、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利」を実現するため、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国を実現する重要な指針が示されている。その中で、子供の体力向上からトップアスリートの競技力向上まで、健康維持や体力増進のために運動を意図的にかつ適切に日常生活へ組み込むことが重要になって

割がますます高まることが予想され、次世代(子供)及び高齢者のスポーツ参加を支援し、それに伴う障害などを予防する理学療法士の育成は極めて重要であると考えられる。

また、平成23年に制定されたスポーツ基本法では、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利」を実現するため、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国を実現する重要な指針が示されている。その中で、子供の体力向上からトップアスリートの競技力向上まで、健康維持や体力増進のために運動を意図的にかつ適切に日常生活へ組み込むことが重要になっており、そのための多様な支援が必要とされている。

熊本県ならびに熊本県スポーツ協会においても、子どもたちの体力づくりやコミュニケーション能力の向上などを目的としたアクティブチャイルドプログラム、育成指定選手に対してメディカルチェックやトレーナー派遣等を実施するマルチサポート事業(資料16)、選手の応急処理や健康管理等のコンディショニングを図るスポーツトレーナー事業などの取り組みを行っており、本学もスポーツリハビリテーションコース設置を契機にこのような取り組みに参画する予定である(資料16)。これらのことは、怪我をした選手の復帰に向けたアスレチックリハビリテーションにおいて中心的な役割を担ってきた理学療法士が、健康的なスポーツ活動や競技力の向上にも貢献することが期待されていることを示すものである。したがって、このような役割を担う理学療法士の育成は重要であると考えられる。

以上のことから、健康寿命の延伸につながるスポーツや競技スポーツに関わり、実務的な能力を身に付けた地域スポーツの発展を担う理学療法士の需要がますます高まることが予想される。

おり、そのための多様な支援が必要とされている。

しかしながら、スポーツ庁が2019年に実施した18～79歳の男女を対象としたWEBアンケートによると、有効回答者20,000件のうち、過去1年間に「運動やスポーツを行なった」とする者は80.2%、「運動やスポーツを行わなかった」とする者は19.8%であったとの報告がある（資料14）。特に「運動やスポーツを行った」とする者の割合は男性が女性より高く、10代、20代及び70代でそれぞれ高くなっている（資料18）。また、この1年間に、「運動やスポーツを行った」理由について、「健康のため」とする者は77.9%で最も高く、次いで「体力増進・維持のため」が58.3%であった。（資料18）。

このように高齢者においても「運動やスポーツを行った」とする割合が高いことから、運動やスポーツによるケガやその予防に対して、理学療法士の果たす役割がますます高まることが予想され、次世代（子供）及び高齢者のスポーツ参加を支援し、それに伴う障害などを予防する理学療法士の育成は極めて重要であると考えられる。さらに、日本の高齢化社会を考えた時、平均寿命と健康寿命の差が、女性で12年、男性でも8年に達している点は注目すべきである。人生の最後に10年もの不健康な生活を送ることを防ぐには、継続したスポーツ活動によって、体力の維持や生活習慣病の予防を図ることが重要であり、シニアに対するスポーツ活動支援を充実させることが必要である。

（地域的な人材需要の動向）

熊本県ならびに熊本県スポーツ協会においても、子どもたちの体力づくりやコミュニケーション能力の向上などを目的としたアクティブチャイルドプログラム、育成指定選手に対してメディカルチェックやトレーナー派遣等を実施するマルチサポート事業（資料19）、選手の応急処理や健康管理等のコンディショニングを図るスポーツトレーナー事業などの取り組みを行なっている（資料19）。本学理学療法専攻では、従来から県内の企業スポーツチーム・車椅子アスリート・高校生アスリ

ートなどへの支援を行っており、これらの実績に基づいて、本学のスポーツリハビリテーションコース設置に対して、熊本県スポーツ協会からは、スポーツを支える人材の育成と拡大、地域の活性化に貢献する取り組みとして期待しているとのことをご意見を頂戴しており（資料 20）、そして、知的障がいのある方へ様々なスポーツ活動を提供・サポートしているスペシャルオリンピックス日本・熊本からも、本コース設置が、これからの日本社会における健康寿命増進に資する内容であり全面的にご支援をしたいとのことご意見も頂戴している（資料 21）。

これらのことは、怪我をした選手の復帰に向けたアスレチックリハビリテーションにおいて中心的な役割を担ってきた理学療法士が、健康的なスポーツ活動や競技力の向上にも貢献することが期待されていることを示すものである。したがって、このような役割を担う理学療法士の育成は重要であると考えられる。さらに、熊本県の健康寿命の延伸等を含めた「UX プロジェクト」に取り組む商工労働部産業振興局や、「人生 100 年くまもとコンソーシアム」を発表している健康福祉部健康局からは、本専攻のスポーツリハビリテーションコース設置について、「健康寿命の延伸」という本県のプロジェクトに合致した人材育成の取り組みであり期待しているとのことをご意見を頂戴しており（資料 22）、本学が志向するスポーツリハビリテーション領域の人材需要が高まっている。

（社会的・地域的な人材需要に対する本学の取り組みとアンケート結果と人材需要予測）

前述のような社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえ、本学ではスポーツリハビリテーションコースの設置を前に、様々な取り組みに着手している。

熊本県水上村では、標高 1000m の高地にある日本有数のクロスカントリー施設であるスカイビレッジで合宿中の高校生アスリートに対し、メディカルフィットネスチェックを行い、障害予防およびトレーニング効果を最大化するための支援を行っている（資料 23）。

また、車いすマラソンの駆動技術に着目した実践研究を行い、パラリンピック車いすマラソン選手をサポートを行っている。その結果、令和3年に開催された東京パラリンピックにおいて、サポート選手が男子車いす 100m で銀メダルを、女子車いすマラソンで 4 位入賞を果たすなど一定の成果を上げつつある（資料 23）。

また、熊本県の肥後銀行女子駅伝部に対するメディカルサポートを行い、4年連続で全日本実業団女子駅伝競走大会の出場権を獲得した。

さらに、熊本県スポーツ協会と包括協定を結び、熊本県出身の育成指定選手に対する「くまもとワールドアスリート」事業において、フィットネスチェックを開始する予定である。

これらのことから、理学療法学専攻内に新たに設置され、理学療法士のための実践的能力に関する学びの場を提供するスポーツリハビリテーションコースの果たす役割は大きいと言えよう。

また、本学リハビリテーション学科において九州圏の過去 2 年の就職説明会参加施設および実習施設を対象にスポーツリハビリテーションコースについてアンケート調査を実施したところ、89 件の回答のうち、新コース（20 名）修了生の採用に約 45%の施設が興味ありと回答した（資料 24）。従って、収容定員増員後も現在の卒業生数に上積みして、十分に就職先を確保可能と考えられる。

また、医療系以外の企業、行政組織、熊本に拠点を置くプロスポーツ団体、障がい者スポーツ団体、メディカルフィットネスジム等にアンケート調査を実施したところ、16 施設から回答を得ることができ、10 の施設が新コース修了生の採用に興味があると回答した（資料 25）。この結果から、新コースの設置によって、従来の理学療法士の就職先として想定されていなかった組織・団体からも求人の可能性があり、理学療法士の新しい職域開拓につながるものと考えられる。実際には、新コース修了者の大部分は、当面はスポーツ障害を対象の一つとする整形外科を有する医療機関が就職先となることが想定されるが、メディカルフィットネス施設（令和 3 年 7

月現在で厚生労働省認定全国 335 施設) やスポーツジム、総合型地域スポーツクラブ (熊本県内で 69 団体) の指導者などへの人材輩出を行うよう、職域拡大に取り組む。具体的には、学長をリーダーとして理学療法学専攻、就職実習支援課、入試広報課、企画経営室等のメンバーによるプロジェクトを立ち上げ、行政、企業、病院、マスコミなど広く産学官に働きかけを行い、研究力を向上させスポーツリハビリテーション分野を新たに切り拓いていく。

以上のように、「スポーツリハビリテーションコース」の設置は、健康寿命を延伸させるという我が国の大命題に貢献する人材の育成にも繋がるもので、健全な高齢化社会の構築を見据えたものでもある。本学としても「保健科学」という領域を強化することで、熊本県のプロジェクトと連携し、健康寿命延伸のための新たな取り組みを展開して、卒業生の職域拡大にチャレンジしていきたい。